

**2020年度
教職・資格（多摩）
講義概要（シラバス）**



法政大学

科目一覧

【発行日：2020/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

資格関係科目	【A3853】	美術史（西洋）A	〔安藤 智子〕	春学期授業/Spring	1
資格関係科目	【A3854】	美術史（西洋）B	〔安藤 智子〕	秋学期授業/Fall	2
資格関係科目	【A3855】	考古学概論	〔小倉 淳一〕	春学期授業/Spring	3
資格関係科目	【A3856】	日本考古学	〔小倉 淳一〕	秋学期授業/Fall	3
資格関係科目	【A3857】	美術史（日本）A	〔稲本 万里子〕	春学期授業/Spring	4
資格関係科目	【A3858】	美術史（日本）B	〔稲本 万里子〕	秋学期授業/Fall	5
資格関係科目	【A3859】	民俗学Ⅰ	〔室井 康成〕	春学期授業/Spring	6
資格関係科目	【A3860】	民俗学Ⅱ	〔室井 康成〕	秋学期授業/Fall	7
資格関係科目	【C6735】	博物館経営論	〔金山 喜昭〕	春学期授業/Spring	7
資格関係科目	【C6736】	博物館経営論	〔杉長 敬治〕	秋学期授業/Fall	8
資格関係科目	【C6737】	博物館資料論	〔田中 裕二〕	秋学期授業/Fall	9
資格関係科目	【C6738】	博物館教育論	〔荒川 裕子〕	春学期授業/Spring	10
資格関係科目	【C6739】	博物館概論	〔金山 喜昭〕	春学期授業/Spring	11
資格関係科目	【C6739】	博物館教育論	〔山下 治子〕	秋学期授業/Fall	12
資格関係科目	【C6756】	博物館資料保存論	〔今野 農〕	春学期授業/Spring	13
資格関係科目	【C6757】	博物館資料保存論	〔清水 玲子〕	秋学期授業/Fall	14
資格関係科目	【C6759】	博物館展示論	〔渡邊 尚樹〕	秋学期授業/Fall	15
資格関係科目	【C6760】	博物館展示論	〔渡邊 尚樹〕	春学期授業/Spring	16
資格関係科目	【C6763】	博物館実習Ⅰ	〔田中 裕二〕	年間授業/Yearly	17
資格関係科目	【C6764】	博物館実習Ⅰ	〔金山 喜昭〕	年間授業/Yearly	18
資格関係科目	【C6765】	博物館実習Ⅱ	〔小西 雅徳〕	年間授業/Yearly	19
資格関係科目	【C6766】	博物館実習Ⅱ	〔杉山 享司〕	年間授業/Yearly	20
資格関係科目	【C6767】	博物館実習Ⅲ	〔金山 喜昭〕	年間授業/Yearly	21
資格関係科目	【C6800】	図書館情報学概論Ⅰ	〔丹 一信〕	春学期授業	22
資格関係科目	【C6801】	図書館情報学概論Ⅱ	〔丹 一信〕	秋学期授業	23
資格関係科目	【C6802】	図書館制度・経営論	〔丹 一信〕	春学期授業	24
資格関係科目	【C6803】	図書館サービス概論	〔有山 裕美子〕	秋学期授業	25
資格関係科目	【C6804】	児童サービス論	〔松田 ユリ子〕	春学期授業	26
資格関係科目	【C6805】	情報サービス論	〔丹 一信〕	春学期授業	27
資格関係科目	【C6806】	情報サービス演習	〔丹 一信〕	年間授業	28
資格関係科目	【C6807】	図書館情報資源概論	〔山口 洋〕	春学期授業	29
資格関係科目	【C6808】	図書館情報資源特論	〔山口 洋〕	秋学期授業	30
資格関係科目	【C6809】	情報資源組織論	〔山口 洋〕	春学期授業	31
資格関係科目	【C6810】	情報資源組織演習	〔山口 洋〕	年間授業	32
資格関係科目	【C6811】	図書館演習	〔丹 一信〕	年間授業	33
資格関係科目	【C6812】	学校図書館メディアの構成	〔有山 裕美子〕	春学期授業	34
資格関係科目	【C6814】	学習指導と学校図書館	〔松田 ユリ子〕	春学期授業	35
資格関係科目	【C6815】	読書と豊かな人間性	〔有山 裕美子〕	春学期授業	36
資格関係科目	【C6816】	情報メディアの活用	〔有吉 末充〕	春学期授業	37
資格関係科目	【C6818】	学校経営と学校図書館	〔松田 ユリ子〕	春学期授業	37
教職関係科目	【K5177】	倫理学A	〔齋藤 範〕	春学期授業/Spring	38
教職関係科目	【K5178】	倫理学B	〔齋藤 範〕	秋学期授業/Fall	39
教職関係科目	【K5179】	哲学A	〔齋藤 範〕	春学期授業/Spring	40
教職関係科目	【K5180】	哲学B	〔齋藤 範〕	秋学期授業/Fall	41
教職関係科目	【K5275】	日本史A	〔岩橋 清美〕	春学期授業/Spring	42
教職関係科目	【K5276】	日本史B	〔岩橋 清美〕	秋学期授業/Fall	43
教職関係科目	【K5277】	世界史A	〔鈴木 茂〕	春学期授業/Spring	44
教職関係科目	【K5278】	世界史B	〔鈴木 茂〕	秋学期授業/Fall	45
教職関係科目	【K8005】	人文地理学Ⅰ	〔濱田 博之〕	春学期授業/Spring	46
教職関係科目	【K8006】	人文地理学Ⅱ	〔松永 和子〕	秋学期授業/Fall	47
教職関係科目	【K8007】	自然地理学Ⅰ	〔原 芳生〕	春学期授業/Spring	48
教職関係科目	【K8008】	自然地理学Ⅱ	〔原 芳生〕	秋学期授業/Fall	49
教職関係科目	【K8009】	地誌Ⅰ	〔松永 和子〕	春学期授業/Spring	50

教職関係科目	[K8010]	地誌Ⅱ〔濱田 博之〕秋学期授業/Fall	51
教職関係科目	[K8015]	データベースと情報システム〔坂本 憲昭〕春学期授業/Spring	51
教職関係科目	[K8016]	情報メディアと画像処理〔坂本 憲昭〕秋学期授業/Fall	52
教職関係科目	[K8017]	情報と職業A〔坂本 憲昭〕春学期授業/Spring	53
教職関係科目	[K8018]	情報と職業B〔坂本 憲昭〕秋学期授業/Fall	54
教職関係科目	[L3101]	教職入門〔綿貫 公平〕春学期授業/Spring	55
教職関係科目	[L3102]	教職入門〔綿貫 公平〕春学期授業/Spring	56
教職関係科目	[L3103]	教育原理〔御園生 純〕春学期授業/Spring	57
教職関係科目	[L3104]	教育の制度・経営〔荒井 文昭〕春学期授業/Spring	58
教職関係科目	[L3105]	教育原理〔御園生 純〕春学期授業/Spring	59
教職関係科目	[L3107]	教育心理学〔安齊 順子〕秋学期授業/Fall	60
教職関係科目	[L3108]	教育心理学〔安齊 順子〕秋学期授業/Fall	61
教職関係科目	[L3109]	教育相談〔沼田 あや子〕春学期授業/Spring	62
教職関係科目	[L3110]	教育相談〔沼田 あや子〕秋学期授業/Fall	63
教職関係科目	[L3114]	道德教育指導論〔村松 灯〕秋学期授業/Fall	64
教職関係科目	[L3115]	生徒・進路指導論〔谷川 由佳〕春学期授業/Spring	65
教職関係科目	[L3116]	生徒・進路指導論〔谷川 由佳〕春学期授業/Spring	66
教職関係科目	[L3117]	特別活動論〔桐島 次郎〕秋学期授業/Fall	67
教職関係科目	[L3118]	特別活動論〔桐島 次郎〕秋学期授業/Fall	68
教職関係科目	[L3119]	教育課程論〔三浦 芳恵〕秋学期授業/Fall	69
教職関係科目	[L3120]	教育課程論〔三浦 芳恵〕秋学期授業/Fall	69
教職関係科目	[L3121]	教育方法論〔酒井 英光〕春学期授業/Spring	70
教職関係科目	[L3122]	教育方法論〔酒井 英光〕秋学期授業/Fall	71
教職関係科目	[L3123]	道德教育指導論〔水野 多満司〕春学期授業/Spring	72
教職関係科目	[L3125]	教職実践演習（中・高）〔御園生 純〕秋学期授業/Fall	73
教職関係科目	[L3127]	教職実践演習（中・高）〔高橋 繁〕秋学期授業/Fall	74
教職関係科目	[L3128]	教職実践演習（中・高）〔小嶋 常喜〕秋学期授業/Fall	75
教職関係科目	[L3129]	教職実践演習（中・高）〔本山 明〕秋学期授業/Fall	76
教職関係科目	[L3133]	教育実習（事前指導）〔御園生 純〕秋学期授業/Fall	77
教職関係科目	[L3135]	教育実習（事前指導）〔高橋 繁〕秋学期授業/Fall	78
教職関係科目	[L3136]	教育実習（事前指導）〔小嶋 常喜〕秋学期授業/Fall	79
教職関係科目	[L3137]	教育実習（事前指導）〔本山 明〕秋学期授業/Fall	80
教職関係科目	[L3138]	教育実習（中・高）〔平塚 眞樹〕年間授業/Yearly	81
教職関係科目	[L3139]	教育実習（高）〔平塚 眞樹〕年間授業/Yearly	81
資格関係科目	[L3151]	社会教育経営論〔荒井 容子〕年間授業/Yearly	82
資格関係科目	[L3152]	社会教育総合演習（実習を含む）〔江頭 晃子〕年間授業/Yearly	83
資格関係科目	[L3153]	生涯学習支援論〔栗山 究〕年間授業/Yearly	84
資格関係科目	[L3155]	視聴覚教育Ⅰ〔原田 雅子〕秋学期授業/Fall	85
資格関係科目	[L3156]	視聴覚教育Ⅱ〔原田 雅子〕秋学期授業/Fall	86
教職関係科目	[L3160]	特別な教育的ニーズの理解と支援〔山下 洋児〕春学期授業/Spring	86
教職関係科目	[L3161]	特別な教育的ニーズの理解と支援〔山下 洋児〕秋学期授業/Fall	87
教職関係科目	[L3162]	総合的な学習の時間の指導法〔本山 明〕秋学期授業/Fall	88
教職関係科目	[L3163]	総合的な学習の時間の指導法〔本山 明〕春学期授業/Spring	89
教職関係科目	[L3164]	社会・地歴科教育法（1）〔石出 法太〕春学期授業/Spring	90
教職関係科目	[L3165]	社会・地歴科教育法（2）〔石出 法太〕秋学期授業/Fall	91
教職関係科目	[L3166]	社会・公民科教育法（1）〔松山 尚寿〕春学期授業/Spring	92
教職関係科目	[L3167]	社会・公民科教育法（2）〔松山 尚寿〕秋学期授業/Fall	93
教職関係科目	[L3168]	情報科教育法Ⅰ〔御園生 純〕春学期授業/Spring	94
教職関係科目	[L3169]	情報科教育法Ⅱ〔御園生 純〕秋学期授業/Fall	95
資格関係科目	[LA208]	福祉社会学Ⅰ〔堅田 香緒里〕春学期授業/Spring	96
資格関係科目	[LA209]	福祉社会学Ⅱ〔堅田 香緒里〕秋学期授業/Fall	97
資格関係科目	[LA302]	グローバル社会のローカリティ／地域社会学〔中筋 直哉〕秋学期授業/Fall	97
教職関係科目	[LA307]	国際政治論〔白鳥 浩〕春学期授業/Spring	98
教職関係科目	[LA312]	国際法〔妻木 伸之〕秋学期授業/Fall	98
資格関係科目	[LB111]	社会教育概論Ⅰ／生涯学習論Ⅰ〔荒井 容子〕春学期授業/Spring	99
資格関係科目	[LB112]	社会教育概論Ⅱ／生涯学習論Ⅱ〔荒井 容子〕秋学期授業/Fall	100
資格関係科目	[LB302]	表象文化論A〔高橋 愛〕春学期授業/Spring	101

資格関係科目	【LB303】	表象文化論B〔野田 吉郎〕	秋学期授業/Fall	102
資格関係科目	【LD007】	メディアと人間Ⅰ／比較文化論Ⅰ〔坂上 香〕	春学期授業/Spring	102
資格関係科目	【LD008】	メディアと人間Ⅱ／比較文化論Ⅱ〔坂上 香〕	秋学期授業/Fall	103
資格関係科目	【LD209】	マス・コミュニケーション論〔藤田 真文〕	春学期授業/Spring	104
教職関係科目	【M9010】	保健体育科教育法Ⅰ〔林 園子〕	春学期授業/Spring	105
教職関係科目	【M9011】	保健体育科教育法Ⅰ〔林 園子〕	春学期授業/Spring	106
教職関係科目	【M9020】	保健体育科教育法Ⅱ〔林 園子〕	秋学期授業/Fall	107
教職関係科目	【M9021】	保健体育科教育法Ⅱ〔林 園子〕	秋学期授業/Fall	108
教職関係科目	【M9040】	保健体育科教育法Ⅳ〔林 園子〕	春学期授業/Spring	109
教職関係科目	【M9120】	教職実践演習〔林 園子〕	秋学期授業/Fall	110
教職関係科目	【M9121】	教職実践演習〔林 園子〕	秋学期授業/Fall	111
教職関係科目	【M9210】	教育実習（事前指導）〔林 園子〕	秋学期授業/Fall	112
教職関係科目	【M9211】	教育実習（事前指導）〔林 園子〕	秋学期授業/Fall	113
教職関係科目	【M9310】	教育実習（高）〔林 園子〕	年間授業/Yearly	114
教職関係科目	【M9320】	教育実習（中・高）〔林 園子〕	年間授業/Yearly	115

美術史（西洋）A

安藤 智子

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な視点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】

芸術作品の主題、様式、技法等に関する美術史の基礎知識の習得に加え、同時代の政治や社会状況の考察を踏まえた上で、作品を多角的・重層的に捉える視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントで画像を映写し、レジュメ（資料・参考文献）を配布した上で講義を行う。

4月23日中に教材を学習支援システムにアップロードしますので、明日4月24日から教材のダウンロードが可能になります。履修を考えている学生さんは是非ご視聴ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と展覧会情報 美術史の学習方法・参考文献
第2回	美術史の基礎概念	美術におけるジャンルとは？
第3回	美術史の基礎用語	絵画作品を解説する基礎用語 造形性
第4回	主題から作品へ	ギリシア神話や聖書に典拠した絵画や 時事的な絵画まで、物語や出来事を表現する絵画の考察
第5回	アイデアから作品へ	アイデアが即時に反映する素描に始まり、 習作をもとに下絵を描き、さらに 油彩画面が完成される制作過程を検証する
第6回	作品の展示機構	美術教育や展覧会を包括する美術制度 を検討し、社会における作品展示について考える
第7回	裸婦の系譜	神話の女神であるヴィーナス、娼婦、 そして現実社会の女性まで、過去のイメージを転写しながら変容する裸婦のイメージを探る
第8回	聖と俗	宗教画の主題が次第に世俗化されていく過程及び宗教主題が大衆に世俗的な媒体で浸透する過程を通して、絵画における聖と俗を対比して考察する
第9回	都市と自然	文化が花開く都市を描いた作品と農業が営まれる自然を描いた作品を対比して見る
第10回	美しさと醜さ	絵画作品の鑑賞者によって、「美しさ」と「醜さ」がどのように定義づけられ、解釈されたかを検証する
第11回	人間の暗部の表象	醜さに続き、グロテスクなもの、悪、犯罪など、人間の暗部を投影した作品を考察する
第12回	無主題の絵画	無主題、無対象の抽象絵画の誕生とその生成過程を考える
第13回	見学会	都内の美術館を見学
第14回	まとめと質疑応答	これまでの考察をもとに、芸術作品への見方の多様性を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館に積極的に出向き、常設のコレクションや企画展において、実際に美術作品を見てほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。各回の参考文献は授業中に紹介する。

【参考書】

『世界美術大全集 西洋編』、小学館、19-24 巻、1993-96 年
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997 年
三浦篤『まなざしのレッスン1—西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001 年
三浦篤『まなざしのレッスン2—西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015 年

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80％）と、平常点（20％）を参考に成績評価を決定する。芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。平常点には授業内コメントを含むが、履修人数によっては授業毎に提出してもらう記述コメントを参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけアート作品を見る機会を増やしてもらうために、授業中に開催中の展覧会の紹介する。

【Outline and objectives】

Based on the modern art and contemporary art, we will study art works from multiple points of view and learn how to understand them in the context of the art history.

美術史（西洋）B

安藤 智子

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な観点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】

芸術作品の生成と構造を、美術史の基礎概念をもとに、さらに深く理解する。芸術と社会との関係性をより多角的に捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スクリーンに映し出された芸術作品の画像を見ながら、作品を解説し考察を行っていく。毎回の授業の最後にコメントを書いて提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要 現在開催されている展覧会の案内
第 2 回	美術史の基礎概念と基礎用語	作品主題のジャンル 造形性を表す用語の確認
第 3 回	瞬間を捉える	物語を叙述する絵画から瞬間的な場面を捉える絵画への移行を検証する
第 4 回	筆触の多様性	美術史の流れに従って、筆触という技法の表現が変容していく過程を考察する
第 5 回	視点とパースペクティブ	絵画空間における視点、及びパースペクティブに着目し、19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて、ドラスティックな絵画空間の変化を探る
第 6 回	影の存在	二次元の平面である絵画に、三次元のオブジェをどのように立体的に描いたのかという観点から、立体性をもたらし影に着目して作品を考察する
第 7 回	再現性の消失	対象を現実に見ているように再現する芸術作品から、概念によって構成された芸術作品へと転換する過程を検証する
第 8 回	異文化との出会い	主に 19 世紀のフランス美術が日本の彩色木版画（浮世絵）から受けた影響について紹介する
第 9 回	美術コレクションとコレクター	20 世紀初頭に形成されたコートールド・コレクションやバーンス・コレクションから現代の個人や企業によるコレクションまでを視野に入れ、コレクターとコレクションについて考察する
第 10 回	美術市場の形成	デュラン＝リュエル、ヴォラールなどの過去の画廊の活動を参照し、現代のコレクター、美術批評家、芸術家のネットワークを考える
第 11 回	美術館の役割	収集、収蔵、研究、展示、教育など美術館が持つ機能と役割をロンドンの「ナショナル・ギャラリー」を例に考察する
第 12 回	美術作品の値段	ゴッホの〈ひまわり〉などを例にとり、美術品の値段を社会的に考察する
第 13 回	展覧会見学	実際の作品を見て、これまでのテーマを検証する
第 14 回	まとめと質疑応答	都内の美術館を見学予定 これまでの総括 芸術と社会との関係性を包括的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できれば、春学期と通年で履修してください。
様々な美術館の展覧会に出向き、芸術作品を実際に鑑賞してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。
授業内に資料を配付致します。

【参考書】

授業中に適宜ご紹介致します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80 %）と、出席状況や授業内コメント（20 %）を参考にし、評価を出します。また、受講者の人数によっては、試験での評価に変更する可能性もあります。ただし、授業全体の 3 分の 1 を超えて欠席した場合、原則として単位を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

開催中の展覧会などを授業のなかで積極的に紹介して行きます。

【Outline and objectives】

Based on the modern art and the contemporary art, we will study the construction of art works from the multiple view points and learn how to interpret them in the context of the Art History.

考古学概論

小倉 淳一

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】

日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。
考古学的方法が発達する過程が理解できる。
考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

主に学史的観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。
春学期の開講当初はオンラインでの授業となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで順次提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	考古学とは何か	考古学の本質
第 3 回	古代日本における考古学的認識	考古学的営為を試みた先人たちの認識
第 4 回	近世日本における学術的展開	近代科学につながる学術的な先駆者たち
第 5 回	ヨーロッパ考古学の展開	古典考古学と先史考古学
第 6 回	層位学と型式学	学術的方法の整備
第 7 回	近代科学として導入された考古学	外国人による近代の考古学的営為
第 8 回	人種・民族論争と記紀	近代考古学を担った日本人研究者たち
第 9 回	実証主義研究の展開	貝塚研究と編年学派
第 10 回	戦時体制と考古学	言論統制と考古学
第 11 回	戦後考古学の光と影（1）	岩宿遺跡と登呂遺跡
第 12 回	戦後考古学の光と影（2）	大規模開発と遺跡破壊
第 13 回	現代と考古学（1）	関連諸科学と考古学
第 14 回	現代と考古学（2）	文化財保護行政と考古学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。参考書を参照すること。

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）

【成績評価の方法と基準】

当初は論述式の筆記試験を予定していたが、期末試験を通常通り行えない可能性がある。このため、授業内に課す小レポートによる評価を 50 % とし、期末レポートによる評価を 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.

日本考古学

小倉 淳一

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の旧石器時代から奈良時代に至る歴史展開の中で、中国や朝鮮半島との交流を中心に獲得した各種の生産技術や社会制度を理解することを目標とする。考古学資料にもとづく交流と技術の歴史学的解明がテーマである。

【到達目標】

物質文化としてとりあげる各種の技術の系譜と展開を説明することができる。各種の技術の意義について解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本列島における原始・古代の生産と技術について考え、生産活動を支える技術の進化が列島史にどのような影響を与えてきたのか学ぶ。
各回の授業はテーマやトピックに基づいた講義形式で行う予定。プリント等の資料も利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	旧石器時代（1）	列島の文化形成の前提となる石器製作技術
第 3 回	旧石器時代（2）	後期旧石器時代の石刃技法と細石刃技法
第 4 回	縄文時代（1）	縄文土器の起源と製作
第 5 回	縄文時代（2）	縄文時代の生業技術
第 6 回	弥生時代（1）	稲作の伝播と展開
第 7 回	弥生時代（2）	青銅器の生産
第 8 回	弥生時代（3）	木器・木製品の生産
第 9 回	弥生時代（4）	玉作の技術と対外交流
第 10 回	古墳時代（1）	古墳時代前期の対外交流
第 11 回	古墳時代（2）	須恵器生産の開始
第 12 回	古墳時代（3）	製鉄・冶金・彫金
第 13 回	奈良時代	正倉院宝物の国際性
第 14 回	原始・古代の技術革新	成果（レポート）提出と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。
レポートを課すので、それに関する資料の渉猟と読み込みを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

白石太一郎編（2002）『日本の時代史 1 倭国誕生』吉川弘文館
鈴木靖民編（2002）『日本の時代史 2 倭国と東アジア』吉川弘文館
石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史 1』岩波新書
吉村武彦（2010）『ヤマト王権 シリーズ日本古代史 2』岩波新書
大津透ほか編（2013）『岩波講座日本歴史 第 1 巻 原始・古代 1』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）（30 %）、提出されたレポートの成績（70 %）によって判定する。

【学生の意見等からの気づき】

物質文化を扱う科目なので、概念的な理解のみでなく、物質資料そのものやその歴史的意義に対する理解も大切にしたい。受講者は博物館等や美術館で考古学資料や美術資料に触れ、物質資料に対する感覚を十分に養ってほしい。授業内容をわかりやすくするため、実物資料の写真や図面をまじえた画像の投影によって授業を進める。板書はあまり行わないので、画像や配付資料をもとに要領よくノートを作成する必要があることを念頭に描いてほしい。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目として公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to learn the technologies and social systems that Japan has introduced from mainland China and Korean Peninsula.

美術史（日本）A

稲本 万里子

配当年次／単位：3～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ

日本彫刻史概説

授業概要

飛鳥時代から鎌倉時代の仏教彫刻を中心に、基礎知識を説明する。さらに、各時代の様式を概観し、様式の展開として美術の歴史を捉えていく。

授業の目的・意義

作品の技法や表現法、制作年代といった基本的な事柄を学習することで、日本美術史の基礎知識を修得する。さらに、各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉える力を身につける。

【到達目標】

- ・授業で取りあげた作品の基礎知識を説明することができる。
- ・各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。はじめに美術史と仏教彫刻についての概説をおこなったうえで、飛鳥時代から鎌倉時代の仏教彫刻を毎回何点か取りあげ、基本的な事柄を説明する。ときには、コンテキストの問題にまで立ち入ることがあるかもしれないが、この授業では、あくまでも作品の様式を理解することに重点をおく。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。

緊急事態宣言による変更点

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 5 月 6 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明
第 2 回	美術史概説	美術史の研究方法・ジャンル・時代区分
第 3 回	仏教彫刻の見方	尊像名と図像
第 4 回	飛鳥時代の仏教彫刻 I	法隆寺金堂釈迦三尊
第 5 回	飛鳥時代の仏教彫刻 II	法隆寺救世観音像と百済観音像
第 6 回	白鳳時代の仏教彫刻	薬師寺薬師三尊像の制作期
第 7 回	天平時代の仏教彫刻	塑像と脱活乾漆造
第 8 回	天平時代の工芸	正倉院宝物
第 9 回	天平・平安時代の仏教彫刻	木彫の成立
第 10 回	平安時代の仏教彫刻 I	東寺講堂諸尊と両界曼荼羅
第 11 回	平安時代の仏教彫刻 II	平等院鳳凰堂の世界
第 12 回	鎌倉時代の仏教彫刻	運慶と快慶
第 13 回	授業のまとめ I	筆記試験の説明
第 14 回	授業のまとめ II	飛鳥時代～鎌倉時代の様式展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。

緊急事態宣言による変更点

水野敬三郎『奈良・京都の古寺めぐり』（岩波書店、1985）を教科書として使用する。

図書館が使えないので、水野敬三郎監修『カラー版 日本仏像史』（美術出版社、2001）の図版も参照してもらいたい。

【参考書】

参考図版として、『奈良六大寺大観』全 14 巻（岩波書店、1968～1973）、『大和古寺大観』全 7 巻（岩波書店、1976～1978）、『平等院大観』全 3 巻（岩波書店、1987～1992）。

入門書として、水野敬三郎『奈良・京都の古寺めぐり』（岩波書店、1985）、水野敬三郎監修『カラー版 日本仏像史』（美術出版社、2001）。

各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験 80 %、コメントペーパー 20 %。

筆記試験は、基礎知識を習得しているか、様式展開を理解しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の 1/4 をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の冷暖房についての苦情は教室へ。講義用のスライドの映写は黙認されているが、所蔵者の許可がなければ学生に配布することはできないので、試験対策には参考図版を見てもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。学生が準備すべき機器はなし。

【その他の重要事項】

時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。質問はコメントペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。

【Outline and objectives】

In this class, basic knowledge will be explained mainly on Buddhist sculptures from the Asuka period to the Kamakura period. Furthermore, we will look at the styles of each era and capture the history of art as the development of styles.

Students will learn basic knowledge of Japanese art history by learning basic matters such as art techniques, expression methods, and production dates. In addition, students will understand the style of each era and acquire the ability to grasp art history as a development of style.

美術史（日本）B

稲本 万里子

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ

日本絵画史概説

授業概要

平安時代から江戸時代の絵画作品を取りあげ、基礎知識を説明する。さらに、各時代の様式を概観し、様式の展開として美術の歴史を捉えていく。秋学期はこれに加えて、和漢の二重構造についても講義する。

授業の目的・意義

作品の技法や表現法、制作年代といった基本的な事柄を学習することで、日本美術史の基礎知識を修得する。さらに、各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉える力を身につける。秋学期はこれに加えて、和漢の二重構造を理解することも目標にする。

【到達目標】

- ・授業で取りあげた作品の基礎知識を説明することができる。
- ・各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉えることができる。
- ・日本美術史における和漢の二重構造について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。はじめに美術史についての概説をおこなったうえで、平安時代から江戸時代の絵画作品を毎回何点か取りあげ、基本的な事柄を説明する。ときには、コンテキストの問題にまで立ち入ることがあるかもしれないが、この授業では、あくまでも作品の様式を理解することに重点をおく。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか解説するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。さらに、中国絵画の模倣からはじまった日本の絵画が、平安時代にオリジナルバージョンを確立したあとも、和と漢の二種類の作品を併存させていたことの意味を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明
第 2 回	美術史概説	美術史の研究手法・ジャンル・時代区分
第 3 回	平安時代の絵画 I	やまと絵と唐絵
第 4 回	平安時代の絵画 II	女絵と男絵
第 5 回	平安・鎌倉時代の絵画 I	来迎図
第 6 回	平安・鎌倉時代の絵画 II	六道絵
第 7 回	鎌倉・南北朝時代の絵画	肖像画
第 8 回	室町時代の絵画 I	水墨画
第 9 回	室町時代の絵画 II	やまと絵屏風
第 10 回	室町・桃山時代の絵画 I	狩野派
第 11 回	室町・桃山時代の絵画 II	土佐派
第 12 回	桃山・江戸時代の絵画	琳派
第 13 回	授業のまとめ I	筆記試験の説明
第 14 回	授業のまとめ II	平安時代～江戸時代の様式展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。

【参考書】

参考図版として、『原色日本の美術』全 32 巻（小学館、1966～1972）、『日本美術全集』全 25 巻（学習研究社、1977～1980）、『日本美術全集』全 25 巻（講談社、1990～1994）、『日本美術全集』全 20 巻（小学館、2012～2016）。

入門書として、辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』（美術出版社、1991）、辻惟雄監修『カラー版 日本美術史年表』（美術出版社、2002）、古田亮編著『教養の日本美術史』（ミネルヴァ書房、2019）。

各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験 80 %、コメントペーパー 20 %。

筆記試験は、基礎知識を習得しているか、様式展開を理解しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の 1/4 をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の冷暖房についての苦情は教授室へ。講義用のスライドの映写は黙認されているが、所蔵者の許可がなければ学生に配布することはできないので、試験対策には参考図版を見てもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。学生が準備すべき機器はなし。

【その他の重要事項】

時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。質問はコメントペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。

【Outline and objectives】

In this class, I will cover paintings from the Heian period to the Edo period and explain the basic knowledge. Furthermore, we will look at the styles of each era and capture the history of art as the development of styles. In the fall semester, we will also give a lecture on the dual structure of Japanese and Chinese.

Students will learn basic knowledge of Japanese art history by learning basic matters such as art techniques, expression methods, and production dates. In addition, students will understand the style of each era and acquire the ability to grasp art history as a development of style. In the fall semester, students will also understand the dual structure of Japanese and Chinese.

民俗学 I

室井 康成

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本民俗学の創始者・柳田国男（1875 - 1962）の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

【到達目標】

「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。

【オンライン授業に関する特例措置】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、「学習支援システム」でその都度提示するので、適宜ご確認ください。本授業の開始日は4月23日（木）1限とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義全体の趣旨を説明します。
第2回	DVD『柳田国男一民俗の心を探る旅』の視聴と解説	柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。
第3回	生い立ちと貧困問題	柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。
第4回	関西から関東への転居	柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。
第5回	恋愛抒情詩人から農政官僚へ	柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。
第6回	近代化論と農業政策論	柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。
第7回	『遠野物語』を読む（1）	柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的位置づけを押さえます。
第8回	『遠野物語』を読む（2）	具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。
第9回	政策課題としての「民俗」の発見	柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。
第10回	ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー	柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。
第11回	民俗学の組織化と柳田国男の孤立	柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。
第12回	日本の敗戦と新たな民俗学構想	柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。

第13回 「公民」養成論としての民俗学へ

第14回 試験と総括

戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておくこと。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】

室井康成『柳田国男の民俗学構想』（森話社）
その他は、授業時に配布するレジュメで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100％）。
・試験は実質的には机上リポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【オンライン授業時の注意事項】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する場合があります。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示しますので、ご確認ください。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の実施にともない、受信機器の準備が必要な場合があります。詳しくは「学習支援システム」の本科目サイトで通知します。

【その他の重要事項】

【オンライン授業について】

授業開始予定日は4月23日（木）1限です。その前日までに、「学習支援システム」の本科目サイトにおいて、詳しい進め方をお知らせします。また、本科目に関わる情報は、講師のTwitter（@MuroiKosei）でも発信しますので、「学習支援システム」での情報とあわせて、ご確認ください。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.

民俗学Ⅱ

室井 康成

配当年次／単位：3～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本人」「日本文化」のイメージが、どのように形成されたのかを、民俗学の立場から考えていく。具体的には、「事大主義」という言葉の意味の変遷を手掛かりに、通常、私たちが抱くであろう「日本」や「東アジア」のイメージが、どのような時代背景のもとに構築されてきたのか、歴史的に確かめていく。

【到達目標】

近代以降の日本と東アジアをめぐる国際情勢を押さえながら、当時の人々が、「日本人」という自画像を、当時身近な他者であった沖縄や朝鮮を「鏡」として形成させてきた軌跡を追う。最終的には、そうした国家的な自画像・他者像を相対化し、今一度「日本文化」を内省することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義全体の趣旨を説明します。
第 2 回	「事大主義」という見方	テキスト講読。
第 3 回	福沢諭吉「造語説」の真偽	テキスト講読。
第 4 回	朝鮮に対する全体表象へ	テキスト講読。
第 5 回	韓国併合と反転する「事大主義」観	テキスト講読。
第 6 回	日本＝「島国」の国民性	テキスト講読。
第 7 回	大正デモクラシーと事大主義批判	テキスト講読。
第 8 回	沖縄「事大主義」言説を追う	テキスト講読。
第 9 回	敗戦前後の「事大主義」観	テキスト講読。
第 10 回	「良き選挙民」を育てるために	テキスト講読。
第 11 回	朝鮮半島への「輸出」	テキスト講読。
第 12 回	南北朝鮮いずれが「事大主義」か	テキスト講読。
第 13 回	「鏡」としての近現代東アジア	テキスト講読。
第 14 回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義ではテキストの講読を行なう。そのため予習・復習は、各回で取り上げる教科書の該当箇所を通読しておくこと。また教科書の巻末には多数の参考文献が列記されており、その中の重要文献は講義中に指示するので、図書館等で調べる（テキスト通読で 2 時間、必要文献の調査で 2 時間の合計 4 時間程度）。

【テキスト（教科書）】

室井康成『事大主義－日本・朝鮮・沖縄の「自虐と侮蔑」』（中公新書）

【参考書】

教科書の巻末に記された文献一覧を参考にすること。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験 100 %）。
・試験は実質的には机上レポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will take a look at the image of "Japanese" and "Japanese culture" in modern times, using as an example the transition of the meaning of the word "JIDAISHUGI = toadyism".

博物館経営論

金山 喜昭

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館の経営の現状とその課題や改善に学ぶ。

【到達目標】

博物館の適切な管理・運営について理解するとともに、博物館経営（ミュージアム・マネジメント）に関する基礎的能力と応用力を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館や美術館の運営形態や運営に関する基礎的知識に加えて、組織管理・経営戦略・経営評価について学ぶ。実際の博物館の経営調査・報告発表等のグループワークを通じて、博物館経営に関する理解を深める。

なお、授業の開始は 5 月 9 日にする。以後、7 月 11 日までの毎週土曜日の授業時間内（3 時間）に資料や課題を学習支援システムにアップするので、次週の授業時間までに課題を提出する。それ以降の課題の提出は認められない。宿題は、毎回の授業時に出す。課題レポート（1 回）のテーマは、授業の進捗状況を見ながら公表する。7 月 18 日までに提出する。平常点は毎回授業で出題する宿題の提出をもってそれにあてる。また、シラバスの内容を 10 回の授業回数に集約するため、授業の進行は必ずしもシラバスに示した順序に従うものではない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館経営とは何か？	授業ガイダンスに加え、博物館・美術館を「ミュージアム経営」の視点から考える必要性を概説する。「ミュージアム・マネジメント」の概念の理解。
第 2 回	博物館の使命と評価	博物館の社会的使命、社会的役割や評価の考え方や手法などについて解説する。
第 3 回	博物館経営の現状と課題	公立博物館の経営状態（直営館）について解説する。
第 4 回	指定管理者制度と博物館経営	公立博物館（指定管理館）経営上の特質について解説する。
第 5 回	NPO 指定管理館の経営	NPO 指定管理館の経営的な特性を解説する。
第 6 回	企業指定管理館の経営	企業指定管理館の経営的な特性を解説する。
第 7 回	財団法人指定管理館の経営	財団法人指定管理館の経営的な特性を解説する。
第 8 回	国立博物館の経営	東京国立博物館・国立科学博物館の経営状態を解説する。
第 9 回	地方独立行政法人の経営	大阪市による新しい博物館経営を解説する。
第 10 回	博物館行政と博物館経営	博物館経営に関する制度を解説する。
第 11 回	インバウンド観光と博物館経営	博物館経営における観光の考え方や展望について解説する。
第 12 回	市民参加と博物館経営	市民参加による博物館経営を解説する。
第 13 回	博物館の外部資金の獲得	博物館による外部資金の獲得について解説する。
第 14 回	博物館経営の展望	本授業の内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金山喜昭 編『転換期の博物館経営』（同成社、2020）

【参考書】

金山喜昭『博物館と地方再生』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、レポート課題（60 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline and objectives】

This course aims to learn the present conditions of museum management and consider its problems and improvement plans.

博物館経営論

杉長 敬治

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、博物館の経営上の課題を解決していくためのスキルを習得することを目的に、博物館経営についての基本知識と日本の博物館の経営の現状と課題について学習します。

【到達目標】

日本の博物館が急増し始めた 1970 年代・80 年代とグローバル化が進み、社会構造が大きく変化しつつある現在とでは、博物館の経営環境は大きく変化しています。この変化に伴い、博物館に求められている役割や期待も、大きく変わりつつあります。受講生は、博物館の経営環境の変化と博物館に期待されている社会的役割について理解を深め、環境の変化に対応し、社会の期待に応える博物館となるために必要な博物館経営（ミュージアム・マネジメント）の考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館経営に関する基本事項について講義します。博物館の業種特性、博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）の現状と課題について理解を深め、博物館経営の望ましい在り方を考察していきます。①博物館制度論の観点からの考察、②博物館統計によるマクロな視点からの考察、③事例研究によるミクロな視点からの考察を行います。受講生には、博物館のフィールドワーク（講義外の時間を活用して博物館現場のリサーチを行う）と経営分析の状況をレポートにまとめてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスー博物館経営の基本概念と博物館の業種特性、博物館の経営資源を中心に	博物館の経営（マネジメント）の重要性が強調されるようになった背景、博物館経営の基本概念、博物館の業種特性、博物館の経営資源について学習する。
2	博物館の目的・使命（ミッション）・事業計画、評価・改善の取組について	博物館の使命がどのように設定されているかについて学習する。また、使命を達成する上で、事業の計画・実施・評価・改善からなる PDCA サイクルを機能させることの重要性について理解を深める。
3	経営資源から見た日本の博物館の現状	博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）に着目して、我が国の博物館の現状（経営資源が乏しい館が多いこととその背景）について学習する。
4	博物館の課題と国の博物館政策の動向	日本の博物館の抱える課題と国の博物館政策の動向について学習する。
5	博物館におけるマーケティングについて	マーケティングは、博物館の経営戦略を構築する上で基本的なツールである。マーケティングの基本概念とマーケティングを活用した博物館経営について学習する。
6	博物館の広報活動ー現状と課題	博物館の広報活動の現状と求められている広報戦略（ブランド戦略を含む）について学習する。
7	博物館の支援組織と他の組織との連携・協力ー現状と課題	博物館の支援組織（友の会・後援会）とボランティア）について学習する。経営資源を豊かにするために必要な他の組織との連携・協力の現状と課題について学習する。
8	博物館経営におけるイノベーションについて	博物館経営には、イノベーションが求められている。博物館のイノベーションの事例を取り上げ、イノベーションが可能となる条件を探る。
9	国立博物館の経営ー現状と課題	独立行政法人制度の下で運営されている国立博物館を中心に、国立博物館の現状について学習する。外国の代表的な博物館と日本の国立博物館の経営状況を比較し、国立博物館の経営上の課題について学習する。
10	公立博物館の経営ー現状と課題	公立博物館の行財政制度、指定管理者制度、地方独立行政法人制度、国の公立博物館に関する政策について学習する。

11	私立博物館の経営ー現状と課題	私立博物館の成立事情に触れながら、私立博物館の特徴と課題、国の支援策について学習する。
12	博物館の利用者サービス施設と施設設備の諸問題について	利用者サービス施設（ミュージアムショップ、レストラン・カフェ）と施設設備に係わる諸問題（老朽化対策、バリアフリー）について学習する。
13	博物館の倫理規程・行動規範について	博物館活動において倫理上問題になった事例を取り上げ、博物館の倫理規程・行動規範の意義・内容について学習する。
14	博物館における危機管理について・授業のまとめ	博物館が直面する様々な危機と危機への対応の在り方（危機管理）について学習する。最後に、授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、時間をつくって博物館を見学し、博物館経営の観点から博物館を観察・分析するマインドと方法を身につけてください。博物館を調査し、経営分析を行ってもらい、成果をレポートにまとめてもらいますので、講義外の時間に博物館現場に向向くことが必須になります。また、教科書と参考図書は、講義内容の理解を深めていく上で欠かせないものです。他の学芸員資格科目の学習にも役に立つものを選んでいきますので、積極的に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書「転換期における博物館経営」（金山喜昭編、同成社、2020 年度（4 月）刊行予定、2,700 円）を使用します。また、教科書で言及していない内容は、資料を授業支援システムに掲載します。

【参考書】

①公立博物館を NPO に任せたら、金山喜昭著、同成社、②博物館と地方再生：市民・自治体・企業・地域との連携、金山喜昭著、同成社、③ミュージアムが都市を再生する、上山信一・稲葉郁子、日本経済新聞社、④「日本の博物館総合調査研究」報告書・基本データ集、http://www.mus-nh.city.osaka.jp/sakuma/mirror_museum-census_jp/に収録、⑤ミュージアム・マーケティング、F・コトラー、N・コトラー、第一法規、⑥マネジメント、P. F. ドラッカー、ダイヤモンド社、⑦思想としてのミュージアム、村田麻里子、人文書院、⑧その他ー授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題にどのように取り組んでいるかを判定するため、①期末レポート（50%）、②各回の講義内容に添った課題レポート（40%）、③平常点 [授業への参加度]（10%）により評価します。①の期末レポートのテーマは、博物館の経営分析に関するものです。調査（現地調査を含む。）と分析の成果をレポートにまとめてもらいます。②の課題レポートは、授業時に課題として出すものの中から選択してもらい、指定する時期までに提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんの授業理解が深まるよう進行速度を調整しながら講義します。授業内容に不明な点がある時には、質問をしてください。質問には、授業支援システムを使って回答します。また、授業環境（照明・温度）に問題があると感じた場合には、その都度指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにより教材の配付や諸連絡を行います。各回の授業の前後に必ず支援システムにアクセスをしてください。

【その他の重要事項】

この科目は、学芸員資格を取得する上で必要な科目の一つです。学芸員資格の取得は目指さないが、博物館経営に関心のある方の受講も念頭に置いて、授業を進行していきます。①疑問、質問、ご意見があれば、出席席のコメント欄に書いてください。皆さんのコメントは、授業への参画のための重要なツールで、授業を面白くする上でも重要な役割を果たします。②博物館を理解する上では、“歩く・見る・聞く”そして“考える”がセットになった行動が必要不可欠です。経営分析のレポート作成を通して、皆さんの博物館体験を深化させてください。講義は、博物館での勤務経験を踏まえて、博物館現場の姿を伝えることに力点を置きたいと思います。

【Outline and objectives】

Students will learn basic knowledge about museum management and the current state and issues of museum management in Japan, and aim to acquire skills to solve the management issues of museums.

博物館資料論

田中 裕二

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館活動の根幹をなす「資料」について、まずその特質や多様性を、さまざまな理論や具体例にもとづいて把握する。そのうえで、博物館資料が「収集」され、「保存」され、「研究」に活用され、「展示」に供される過程を概観し、博物館活動における資料の意味や役割を理解する。

【到達目標】

博物館を、「資料」という観点から理解することを旨とする。「博物館資料」という概念が成立した背景、資料の収集や登録のプロセス、保存のありかた、さらには資料の閲覧や展示を通じた教育活動の現状や課題について、具体例にもとづきながら学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

配布プリントやパワーポイント、映像等を用いた講義形式で行われる。学生の積極的な参加を促すために、グループ・ディスカッションや課題のプレゼンテーション等も適宜実施する。また最低一度は、博物館でのフィールド調査を課す予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	博物館学における博物館資料論の位置づけについて説明し、講義の見取図を示す。
第 2 回	博物館資料の概念	博物館資料という考え方が形成されてきた背景を概観する。
第 3 回	博物館の一次資料	博物館の一次資料について具体的に学ぶ。
第 4 回	博物館の二次資料	博物館の二次資料について具体的に学ぶ。
第 5 回	博物館資料の収集	資料収集の理念や目的について考える。
第 6 回	博物館資料の整理	収集した資料の記録、登録、整理等のプロセスを学ぶ。
第 7 回	博物館資料の公開	資料を公開することの意義や多様な手法について学ぶ。
第 8 回	博物館資料の展示	さまざまな資料の展示のありかたを概観する。
第 9 回	博物館資料の保存	資料の保存や管理の手法について学ぶ。
第 10 回	博物館資料と調査研究	博物館における調査研究と資料の関係について考える。
第 11 回	調査研究の公開	博物館資料にもとづく研究成果を公開する意義について考える。
第 12 回	市民と博物館資料	地域資源と博物館資料の関係について考える。
第 13 回	博物館資料の活用	学校教育や生涯学習、地域活性など、博物館資料の活用の可能性について考える。
第 14 回	まとめとふりかえり	半期を通して学んできた内容をふりかえり、博物館資料についての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連した事例を各自で調べておくこと。授業内で活発な議論となるよう発言を促します。また、学期の途中で実際に博物館を訪れ、その成果をもとにレポートを課す予定です（その際、若干の入館料が発生する可能性があります）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、ほぼ毎回、プリント資料を配布します。

【参考書】

授業時に関連する文献について紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加度（ディスカッションの姿勢や課題の成果など）：50 %
 期末試験（論述）：50 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は授業外学習をしていない生徒がほとんどだったため、より具体的な課題を設定して発言の場を多く設けたい。

【Outline and objectives】

Students will understand museums from the viewpoint of their materials and collection. They will see how the idea of museum materials and collection has been formed, and then study through concrete examples the process of collecting and registering materials, the way of conservation and the current state and issues of educational activities by way of exhibiting materials.

博物館教育論

荒川 裕子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育施設として位置づけられている博物館＝ミュージアム（歴史博物館、美術館、文学館、自然科学系博物館、等々が含まれる）では、資料の収集、研究、展示等と並んで、教育普及の活動が重要な役割を果たしています。この授業では、ミュージアムにおける教育の意義や効果について、理論的基盤と実践事例の双方の観点から考え、これからのミュージアム教育のあるべき姿を探ります。

【到達目標】

幼児から社会人まで、さまざまな年齢や立場の人びとを対象に展開されているミュージアム教育の現状を知るとともに、今後さらにミュージアムでの学びを深化させていくにはどうすればよいかを考えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの授業となります。それに伴う各回の授業計画の変更などについては、その都度「学習支援システム」に提示します。本授業の開始日は4月23日（木）2限です。Zoom 会議の形式で行う予定ですので、「学習支援システム」の「教材」に載せたパワーポイントに提示した URL から参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育とは何か	授業のガイダンスとして、この領域で扱うトピックスについて概説する。
第 2 回	ミュージアムでの体験と学び	学校での学びとミュージアムにおける学びの違いについて考え、ミュージアム教育の特質を理解する。
第 3 回	生涯学習とミュージアム①	なぜミュージアム教育の必要性が重視されるようになったのか、生涯学習社会の観点から考える。
第 4 回	生涯学習とミュージアム②	現在、国内外で展開されているミュージアム教育の理論的枠組みを理解する。
第 5 回	学校と連携したミュージアム教育	小学校や中学校と連携して展開される教育プログラムについて検討する。
第 6 回	地域と連携したミュージアム教育	地域のニーズや特性を生かしたミュージアム教育について検討する。
第 7 回	ミュージアム教育の手法①	ミュージアムの持つ資料や展示を生かした講座、講演会、ギャラリートーク等について学ぶ。
第 8 回	ミュージアム教育の手法②	ミュージアムが教育目的で作成、配布、頒布等を行っている印刷資料やウェブを通した情報公開について学ぶ。
第 9 回	ミュージアム教育の手法③	ミュージアムにおけるワークショップや体験学習について、具体例を手がかりに学ぶ。
第 10 回	教育プログラムの立案に向けて	教育プログラムを実際に立案するためのプロセスや留意事項を理解する。
第 11 回	教育プログラムの作成と発表①	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第 12 回	教育プログラムの作成と発表②	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第 13 回	教育プログラムの作成と発表③	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第 14 回	まとめと試験	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期の途中でミュージアムにおけるフィールド調査を実施し、その成果をもとにレポートを書いたり、プレゼンテーションをしてもらう予定です（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、授業に関連した事例を調べるなどの課題が適宜出されます。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、ほぼ毎回、プリントを配布します。

【参考書】

黒沢浩（編・著）『博物館教育論』講談社、ほか、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことにともない、授業評価の方法や基準も変更されます。具体的な方法や基準については、授業開始日に「学習支援システム」で提示します。

【学生の意見等からの気づき】

教室内での学びに終始せず、博物館でのフィールド調査とそのフィードバックを充実させていきたいと考えています。

【Outline and objectives】

In the museums, including historical museum, fine art museum, museum of literature, museum of natural science and so on, which are positioned as adult educational facilities, educational activities for the visitors are very important alongside collecting materials, doing research and planning exhibition. In this class, we will consider the significance and effects of so-called 'museum education' from the viewpoint of both theory and practice, and explore the future form of it

博物館概論

金山 喜昭

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育や学術、文化施設としての博物館について理解し、その社会的な役割や意義を学ぶ。

【到達目標】

博物館に関する基礎的な知識を修得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館学やその歴史を概観した上で、博物館の定義（種類、目的、機能など）を示す。さらに日本と海外の博物館の歴史や現状を説明するとともに、学芸員論や博物館法、関連法令などを取り上げる。

なお、授業の開始は 5 月 9 日にする。以後、7 月 11 日までの毎週土曜日の授業時間内（5 時間）に資料や課題を学習支援システムにアップするので、次週の授業時間までに課題を提出する。宿題は、毎回の授業時までに提出。それ以降の課題の提出は認められない。課題レポート（1 回）のテーマは、授業の進捗状況を見ながら公表する。7 月 18 日までに提出する。平常点は毎回授業で出題する宿題の提出をもってそれにあてて。また、シラバスの内容を 10 回の授業回数に集約するため、授業の進行は必ずしもシラバスに示した順序に従うものではない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	博物館とは何か？ 博物館の定義などについて概説する。
第 2 回	ミュージアムの誕生	西洋の博物館の歴史について解説する。
第 3 回	日本の博物館史	日本の博物館の歴史について解説する。
第 4 回	博物館学史	博物館学の歴史を概観する
第 5 回	博物館の制度（博物館法と関連法令）	博物館法ならびに関連する法律・制度について解説する。
第 6 回	博物館の分類	博物館の種類・設置者・対象にする領域など、多角的に博物館を分類して定義する。
第 7 回	日本の博物館の現状	博物館に関する統計データから博物館の現状と課題を解説する。
第 8 回	博物館の資料論	博物館が取り扱う資料について解説する。
第 9 回	博物館機能論	資料の収集、整理保管、調査研究、教育普及など、博物館の特徴的な機能について説明する。
第 10 回	地域博物館論	各種の地域博物館の事例を取り上げ、その理念と現状について解説する。
第 11 回	博物館と地域コミュニティ	地域と市民生活にとって博物館が果たす役割や可能性を解説する。
第 12 回	博物館と現代社会	現代社会の諸課題に取り組む博物館の姿を紹介する。
第 13 回	学芸員の役割	博物館で働く専門職としての学芸員の仕事について解説する。
第 14 回	総括	これまでの授業内容を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。
東京国立博物館、国立科学博物館、国立美術館（国立西洋美術館、国立近代美術館等）はキャンパスメンバーであるために常設展を無料で見学できるので活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金山 喜昭『博物館学入門』（慶友社、2003）

【参考書】

金山 喜昭『日本の博物館史』（慶友社、2001）

金山 喜昭『公立博物館を N P O に任せたら－市民・自治体・地域の連』（同成社、2012）

金山 喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題提出）（40 %）

課題レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline and objectives】

This course aims to understand “What is a museum?” as a cultural facility and learn its social role and significance.

博物館教育論

山下 治子

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミュージアムにとって教育とは何か。その活動の経緯や基となる理論を学び、さまざまな実践例を通して、ミュージアムの教育活動について理解を深める。

【到達目標】

- ①ミュージアムの教育活動の意味、意義について理解できる。
- ②ミュージアムでの教育活動が多様であることや、地域社会との関わりについて理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

美術館や博物館、水族館などさまざまなミュージアムでの教育普及プログラムの事例を紹介しながら、ミュージアムにおける教育について考えを深める。受講生それぞれのミュージアム体験も紹介しあう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育の現在	現在、ミュージアムにおいて教育活動がどのように展開されているのかを概観する。た、その目的や方法で実践・研究が行われてきたのかを概説する。（授業のガイダンスを含む）
第 2 回	ミュージアムの利用とミュージアム体験	受講生の博物館体験や利用実態を振り返ってもらい、利用者の博物館体験が構成されていくプロセスを説明する。
第 3 回	ミュージアムでの「学び」	教育学などの先行研究の知見を紹介しながら、人が学ぶとは何を意味するのかを考える。学校教育との違いや受講生自らの学びを振り返る。
第 4 回	ミュージアム教育の意義と理念	日本および諸外国で展開されてきた博物館教育の意義や理論について解説する。
第 5 回	生涯学習の場としてのミュージアム	美術館での学び、ワークショップ 生涯学習として行われている博物館活動とその課題について解説する。
第 6 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動①	自然史系博物館での学び① 地域やコミュニティに根差した博物館で展開されている教育活動に着目する。特徴的な事例を解説しながら、必要とされる活動の具体像を考える。
第 7 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動②	自然史系博物館での学び② さまざまな地域博物館における学びから、考える。
第 8 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動③	学校と連携したミュージアム教育の事例。学校教育との違い、また学校教育と連携することの意味や課題について考える。
第 9 回	動物園・水族館での学び	動物園や水族館での教育プログラムや展示を紹介し、教育の場としての動物園、水族館について考える。
第 10 回	ミュージアム教育的活動の手法	ミュージアム・エデュケーターについて知る。どのようなことが求められるのかなど、日本での実情を概説する。
第 11 回	ミュージアムの利用と学び	ミュージアムは社会的包摂の役割を担う。その意味で教育活動は重要であることを理解する。
第 12 回	ミュージアム教育の実際	ミュージアムで教育プログラムを実践している方をゲストに招き、活動を紹介・解説してもらう。
第 13 回	ミュージアムグッズとミュージアム教育	ミュージアムグッズの教育的効果を考える。ミュージアムショップはもうひとつの教育の場であることを認識する。
第 14 回	試験（まとめを含む）	授業内に試験を行う。 教科書を持ち込み可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いろいろなミュージアムに行き、展示だけでなく教育普及プログラムを見たり、参加したりしてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『博物館教育論』黒沢浩・編著（講談社）

【参考書】

雑誌「ミュゼ」のほか、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

（出席数＋リアクションペーパー）（50%）＋レポート（30%）＋学期末試験（20%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

「ミュゼ」というミュージアムの専門誌を編集してきました。取材や編集で得た情報や背景、今後の展望などについて、スライドや記事を使って紹介し、ともに考えていきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the theory and the history of museum education by various case studies. The student will appreciate museum education deeply.

博物館資料保存論

今野 農

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における基本的な機能の1つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の保護に対する博物館の役割について、学総の見地から理解を深める。講義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】

講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識を習得できる。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識を習得できる。終盤では、博物館外に立地する「地域資源の保護」に関する知識を習得できる。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤を形成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月25日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第2回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第3回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第4回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第5回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
配布資料	日本の伝統的保存法	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。このテーマについては、資料の配布のみで代替とする。
第6回	温湿度による劣化と対策	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第7回	有害物質、および光による劣化と対策	有害物質や光による劣化と保全対策について解説する。
第8回	生物による劣化と対策	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、I P M（総合的有害生物管理）について解説する。
第9回	災害と保全対策	災害の種類（火災、地震、水害、盗難等）と対策、復興支援等について解説する。
第10回	地域資源の保存・活用と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
第11回	歴史的環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。このテーマについては、資料の配布のみで代替とする。
配布資料	自然環境の保護と博物館	これまでの講義のまとめとして、博物館資料の保存に対する学芸員の役割を解説し、今後の課題を展望する。
第12回	試験・まとめと解説	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・博物館に関する情報を Web など積極的に収集し、多くの館が開館された後は、資料保存の観点から、資料や、館の立地、建築、設備、展示手法、博物館建築などを観察する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

・石崎武志・編著（2012.3）『博物館資料保存論』講談社
 ・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
 ・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画
 ・金山喜昭・他（監修）（2020.1）『博物館を支える学芸員の仕事』第1巻 資料の収集と保管（DVD）

【成績評価の方法と基準】

春オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的には、平常点：70%程度、最終レポート：30%程度とする。

【学生の意見等からの気づき】

知識の習熟の項目や小テストの試みが高評価であったため、講義内容や構成は維持しつつ、予習・復習等、日頃の学習活動に対して積極的に取り組めるような課題づくりを心掛ける。配布資料のレイアウト（余白）については、必要があれば、各自でメモ用のノートを用意しておくこと。

【Outline and objectives】

This course provides students with a basic knowledge of preservation of the museum materials. The aria of this course is preservation of the museum materials, Environmental management for museum materials, and preservation of historic heritages and natural heritages.

博物館資料保存論

清水 玲子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基礎について学習する。資料を展示すると共に資料を保存（保全）する役割を、博物館は担っている。この相反する事柄を可能にする為に、資料に劣化や害を及ぼす要因、資料を展示及び保存する環境を適切に保つ為に土台となる知識を修得する。また、博物館は地域の文化財保護の担い手でもあることから、文化財の保存や活用等についても見ていきたい。

【到達目標】

博物館における資料の展示及び収蔵の環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通して、博物館資料の保存に関する基礎的能力を養う。
到達目標としては、博物館における資料保存及び資料の置かれる環境に関して科学的に分析できる為の基礎学力を身に着けることを目指す。次に、資料劣化の原因を把握し、対策を構築できる応用能力を育む為に、自ら考えることの重要度を理解し実行できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は基本的には講義形式であるが、資格取得の為の授業であっても、聞くという受身ではなく、自ら考える姿勢が学芸員には必須な素養であることから、ワークショップと発表を実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
講義	オリエンテーション・博物館資料とは何か	講義を履修する上の注意点や評価方法などの説明
講義	資料保存の意義	博物館が資料を蒐集し、保存することについて様々な角度からその意義について考える
講義	資料の梱包と輸送	資料の貸借等における調書の作成や輸送の手順及び保存上の留意点について
講義	保存の諸条件 1（温・湿度）	資料を保存する環境について、劣化要因として温度と湿度に関して
講義	保存の諸条件 2（光）	資料を展示する際の環境を中心に、劣化要因となる光について
講義	生物被害と IPM	資料における生物の被害と、総合的病害虫管理（IPM：Integrated Pest Management）について
講義	保存の諸条件 3（その他）	温湿度、光、生物以外の劣化要因と留意点について
講義	収蔵と展示	博物館の収蔵と展示という、相反する環境下における資料保存について
講義	自然災害と資料保存	災害の多い日本において、資料を守るための対策と被災後の対応について
講義	修復・修理	美術資料を中心に修復の方法とこれまで修復された文化財を見ていく
講義	文化財の保存と活用	文化財の保護から活用へ社会的な位置づけが大きく変わった中で、未来へ資料を受け継ぐ為の対策や課題を考えていく
ワークシ ョップ	地域資源の保全と博物館の役割	地域の文化財保護における博物館の役割と、博物館の在るべき姿をみんなで考える。
ワークシ ョップ	博物館の役割とは何か	前回のワークショップのまとめと発表
講義	まとめ	これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・多種多様な博物館を見学する。
・ただ、見学するのではなく、自ら疑問点を見つける。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定していない。授業はパワーポイント投影しながら進める。必要があれば、資料を配布予定。

【参考書】

『歴史を未来につなぐ：「3・11 からの歴史学」の射程』東京大学出版、2019 年 5 月
金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』同成社、2017 年 3 月
奥村弘・村井良介・木村修二『地域歴史遺産と現代社会（地域づくりの基礎知識 1）』神戸大学出版会、2018 年 1 月

吉田 正人『世界遺産を問い直す』山と溪谷社、2018 年 8 月

*その他、必要に応じて授業内で告知する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（50%）通常レポート（講義内課題提示）（40%）平常点（10%）及び出席状況、授業態度などから総合的に評価する。
資格取得の為の授業ではあるが、到達目標に書いた通り、学生自身が自ら考えることを求めているので、「自ら考え、自ら言葉で語っているか」を評価基準とする。

* 14 回の講義の内、数回の課題を課す予定。

* 詳細は、第 1 回目の講義で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・協力を得ることができれば、「野上記念法政大学能楽研究所」における見学を実施したいと考えている。履修者の状況などを考慮し、確定予定である。
・授業スライドの写真撮影は許可しない。筆記することが望ましいが、間に合わない場合などは対応するので申し出て欲しい。

【Outline and objectives】

Students learn the basics of preservation of museum materials, which is necessary to obtain a curator's license. Museums are responsible for exhibition and preserving materials. In order to fulfill this contradictory role, the basic knowledge for the proper maintenance of deterioration and harmful factors, exhibition and preservation environment is acquired. In addition, since museums are responsible for the protection of local cultural properties, we would like to take a look at the preservation and utilization of cultural properties.

博物館展示論

渡邊 尚樹

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアーティスティックについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的评价を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップを取り入れることで、さらに興味を持たせる工夫が必要と感じた。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

博物館展示論

渡邊 尚樹

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

学習支援システムで授業が開始されるのは4月25日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ、展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
4	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
5	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
6	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ、物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
7	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
8	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
9	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
10	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
11	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアーティスティック性、照明テクニックについて学ぶ
12	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的评价を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %（講義再開後）、課題 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップを取り入れることで、さらに興味を持たせる工夫が必要と感じた。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

博物館実習Ⅰ

田中 裕二

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館学芸員として必要な実務に係る諸技能を実習で学ぶ。

【到達目標】

博物館に係る実務に則しながら、学芸員としての心得や技能を培うことを目的とする。学芸員の職務は多岐にわたるが、その中でも資料の取り扱い方や、資料の記録・整理・展示を中心に、博物館運営に関わる実践的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期は4月25日（土）から学習支援システムを利用してオンラインでの授業を開始する予定。詳細については学習支援システムを参照のこと。後期は各種資料の取り扱いや資料の展示方法を学び、博物館活動の基礎となる実務を修得するため実習形式で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前指導	実習全体の事前指導を行うガイダンス。博物館学芸員の仕事・実務について概観する。
第 2 回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：風）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 3 回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料（風）の整理・実測（1）
第 4 回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料（風）の整理・実測（2）
第 5 回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料（風）の整理・実測（3）
第 6 回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料（風）の整理・実測（4）
第 7 回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料（風）の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表
第 8 回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に資料に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 9 回	博物館資料の取り扱いⅦ	文書類の調査・観察・記録（1）
第 10 回	博物館資料の取り扱いⅧ	文書類の調査・観察・記録（2）
第 11 回	博物館資料の取り扱いⅨ	文書類の調査・観察・記録（3）
第 12 回	博物館資料の取り扱いⅩ	文書類の調査・観察・記録（4）
第 13 回	博物館資料の取り扱いⅪ	文書類の調査・観察・記録（5）
第 14 回	博物館見学会	実地調査。東京及び関東近郊の博物館で学芸員から解説を受け、実態を理解する。
第 15 回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料を説明する
第 16 回	コレクション調査Ⅰ（調査報告）	夏季期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第 17 回	コレクション調査Ⅱ（調査報告）	夏季期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第 18 回	コレクション調査Ⅲ（調査報告）	夏季期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 19 回	コレクション調査Ⅳ（調査報告）	夏季期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 20 回	博物館資料の整理Ⅰ	収集した資料のクリーニング。
第 21 回	博物館資料の整理Ⅱ	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第 22 回	博物館資料の整理Ⅲ	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第 23 回	博物館資料の梱包	資料の梱包資材・梱包作業
第 24 回	博物館資料の展示実技Ⅰ	美術資料（掛軸・卷子・画帳）の取り扱いと展示作業
第 25 回	博物館資料の展示実技Ⅱ	美術資料（掛軸・卷子・画帖）の取り扱いと展示作業
第 26 回	パネルの作成Ⅰ	解説文を書き、パネルを作成する。

第 27 回 パネルの作成Ⅱ 作成したパネルを展示する。
第 28 回 事後指導 実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休み期間中に資料の収集調査をしてもらいます。実地調査に必要な旅費交通費や入館料など各自の負担となります。収集調査した結果は授業内で発表してもらう予定です。詳細については授業内で周知します。

【テキスト（教科書）】

随時プリントなどを配布する。

【参考書】

随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と課題の提出（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

本授業は 25 名を上限とする。なお、初回の授業で希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は授業内で指示するが、資格課程実習準備室の掲示などを適宜確認すること。

【Outline and objectives】

This course aims to undertake a practicum for practical operations at a museum.

博物館実習Ⅰ

金山 喜昭

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館の実務に関わる業務を実習する。

【到達目標】

博物館にかかわる実務を中心に学習しながら、学芸員としての心構えや技能を培うことを目的とする。学芸員の職務は多岐にわたるものであり、博物館の役割や機能に応じた活動が求められる。実務実習として、実際に資料を取り扱い、資料の観察・記録・整理・展示のほか、博物館運営に関わる実践的能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の授業の開始は5月7日にする。以後、7月9日までの毎週木曜日の授業時間内（3 時間）に資料や課題を学習支援システムにアップするので、次週の授業時間までに課題を提出する。宿題は、毎回の授業時までに提出する。それ以降の課題の提出は認められない。課題レポート（1 回）のテーマは、授業の進捗状況を見ながら公表する。7 月 16 日までに提出する。平常点は毎回授業で出題する宿題の提出をもってそれにあてて。また、シラバスの内容を 10 回の授業回数に集約するため、授業の進行は必ずしもシラバスに示した順序に従うものではない。

後期には各種の資料の取り扱いや資料の製作を学ぶなど、博物館活動の基礎となる実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前指導	ガイダンスとして実習全体の事前指導に加え、「博物館学芸員という仕事・実務」に関して概説する。
第 2 回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具・風）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 3 回	学芸員の仕事	映像学習
第 4 回	学芸員の仕事	映像学習
第 5 回	学芸員の仕事	映像学習
第 6 回	学芸員の仕事	映像学習
第 7 回	学芸員の仕事	映像学習
第 8 回	学芸員の仕事	映像学習
第 9 回	学芸員の仕事	映像学習
第 10 回	学芸員の仕事	映像学習
第 11 回	学芸員の仕事	映像学習
第 12 回	学芸員の仕事	映像学習
第 13 回	学芸員の仕事	映像学習
第 14 回	総括	春学期の授業内容を整理する。
第 15 回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料を説明する
第 16 回	コレクション調査（調査報告）	I 夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第 17 回	コレクション調査（調査報告）	II 夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第 18 回	コレクション調査（調査報告）	III 夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 19 回	コレクション調査（調査報告）	IV 夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 20 回	博物館資料の整理Ⅰ	拓本（実習）
第 21 回	博物館資料の整理Ⅱ	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第 22 回	博物館資料の整理Ⅲ	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第 23 回	博物館資料の整理Ⅳ	博物館関連講座の取材・記録・資料化
第 24 回	博物館資料の梱包	資料の梱包・運搬
第 25 回	博物館資料の展示実技	美術資料（掛軸・画帖）の取り扱いと展示体験
第 26 回	教材製作実習・篆刻Ⅰ	篆刻・文字・落款の解説、製作
第 27 回	教材製作実習・篆刻Ⅱ	篆刻の製作
第 28 回	事後指導	課題提出、実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休み中に資料収集をすることや、篆刻はホームワークとする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントなどを配布する。

【参考書】

随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）と課題レポートの提出（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

本授業は 25 名を上限とする。なお、初回の授業にて希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は、授業内の指示および資格課程実習準備室の掲示などを留意すること。

【Outline and objectives】

This course aims to undertake a practicum for practical operations at the museum.

博物館実習Ⅱ

小西 雅徳

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館は奥の深い世界です。学芸員のスタンスとして博物館活動の花形である企画展実施過程の手法を学んでいきます。日本の博物館ではコレクションの関係や館規模、組織等の問題から、集客性に重点を置いた企画展を重視する傾向があります。これは世界的にみても特異な現象ですが、企画展は学芸員を志す者にとって最も興味深い分野ですので、個人の企画力やグループ討議を通じて企画展実施のノウハウを学びながら、博物館の裏方を支える学芸員の世界をのぞいてみましょう。今年はコロナウイルスの関係で前期は学習支援システムからの教材提供と授業内容確認となりますが、規制が解除となった時点で講義へと移行します。

【到達目標】

日本の博物館活動では企画展あるいは特別展と呼ばれる集客性を重視した企画が必要とされます。そのため学芸員も企画展を前提に活動することが求められています。企画展を実施するには、多様な価値観や専門性に加え基本となる企画展実施の工程・過程を学ぶ必要があり、この授業では1年間を通じて企画展実施までの様々な手法やその時々の流行を捉え、博物館現場の実際をシミュレーションして学んでいきます。博物館学という基礎能力の構築と同時に豊かな企画展創造への個々人のスタイルと発想力を引き出していきます。個人の企画力に加え、グループワークとしての企画展を構想・発表し到達点を確認します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業内容は、前期と後期とをを通じて①博物館展示の意義、②企画展実施の工程と手順、③グループ発表とし、適宜配布資料により授業を進めていきます。前期は主として講義形式ですが博物館の展示状況をスライドで紹介し、後期はグループ発表準備にあてます。個々人の企画力を高め、大規模展で主流となりつつあるプロジェクト体制をグループワークを通じて模擬体験します。発表はパワーポイントとなります。レポート課題を随時課していきます。前期は学習支援システムからの講義資料配布となりますが、規制解除後は講義となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 博物館展示と学芸員の世界観	授業の狙いや課題提示について説明します。学芸員の心得や実情を紹介しします。
第2回	博物館展示の時代的、地域的推移について（概説）	博物館の始まりと展示の種類・手法について、特に常設展と企画展との違いを比較検証しつつ、海外と日本の学芸員のスタイルについて紹介しします。
第3回	日本と海外の企画展の違いについて	日本と海外における企画展の実態を紹介しします。国内の企画展数は約1万件近くに上る一方で、海外で時間をかけた展示が多いようです。
第4回	スライド（海外博物館の展示状況）	欧米博物館・美術館の展示状況をスライドで解説します。
第5回	企画展プロセス①－企画展を考える種の探し方とは？	企画展実施までの工程手順－その1－展示のための素材探し、種・ヒントの探し方考える。
第6回	企画展プロセス②－話題となった企画展を分析してみること	企画展実施までの工程手順－その2－成功した企画展例を基に、自分なりにシミュレーションしてみる。
第7回	展示構想と企画書 企画展を構想する①	展示構想の内容と要点について説明し、盛り込む内容を整理する。課題として企画書を作成する。
第8回	レポート課題	前回までの展示の進め方を参考に自分が取り組んでみたい企画展を構想し提出してください。
第9回	展示レイアウト－展示導線と照明計画	展示室の空間やケースの配置、照明計画のあり方を説明する。
第10回	展示解説パネル、キャプション作成や効果的な演出力について	学芸員存在理由の一つは解説者、説明者であり、また作文者であること。ライターとしての学芸員像を提示する。
第11回	展示小道具とサイン計画	常備すべき展示小道具や新たに発注する小道具について考える。またサイン作成も重要。
第12回	展示図録・パンフレット等の作成手順	図録やポスター等の印刷物作成手順を学ぶ。

第13回	借用交渉と調査	学芸員の力量は資料を見る目と同時に、借用交渉の態度にも表れる。資料をみて調査を作成する。
第14回	資料保存修復の仕方について	展示を実施する際に資料の修復等を行うことがある。どのような状況で行うのかその実際例を紹介する。
第15回	資料目録の作成手順	展示の第一歩は出展目録の作成にある。展示資料の1次候補から2次候補への絞り込みを、エクセルデータ等の目録作成から始める。
第16回	企画展を構想する②	学生自身で企画展を構想提示し発表する。優れた企画案について議論を深める。
第17回	情報端末導入について	大規模展示では音声ガイド等の様々な情報媒体が導入されている。その取り組み方を考える。
第18回	企画展実施① グループ紹介と自己の主張について	5人前後でグループ編成し討議を行う。発表内容の絞り込みを行う。
第19回	企画展実施② グループ企画展から発表題を絞り込む	相互に企画展を紹介することで、グループ発表案を決定し、内容構成を整理する。
第20回	企画展実施③ 展示企画の具体像を提示していく	発表企画展の内容、特に出品目録や目玉展示を考える。
第21回	企画展実施④ 展示企画の具体像の作文化	発表企画展の内容、特に出品目録や目玉展示を考える。
第22回	企画展実施⑤ 教育普及と観覧者の希望する展示とは何かを考える	企画展における教育普及のあり方を考え、更に集客方法や展示の仕方と広がりを考える。
第23回	企画展実施⑥ 発表に向けた準備	グループ発表の仮題目を決め中間発表を行う。展示構想を具体化していく。
第24回	企画展実施⑦ ミュージアムグッズについて	発表内容の構成やポイントを整理する。パワーポイント情報への整理を行う。
第25回	企画展実施⑧ 最終発表に向けた調整を行う	博物館の魅力の一つとしてグッズがある。独自のグッズを考えてみよう。
第26回	発表 グループ数が多い場合は、発表順を決め2回に分けて実施する場合がある	最終発表案の詰めや発表時間を調整する。パワポ内容やレジュメ原稿を整理する。
第27回	発表評価と企画展の将来の展望について（まとめ）	各グループが15分程度で発表する。発表順を決め2回に分けて実施する場合がある。
第28回		発表案について評価すると共に、日本の企画展の将来像や展示評価について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。企画展発表のためにはいろいろな展示会への見学参加を希望します。レポート課題を最低3回程度課します。最新の展示状況を俯瞰し自分の企画展発表のシーズ（種）を探してください。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしませんが、展示論に関する本には目を通してください。テキストは随時授業時に配布します。

【参考書】

特別展図録や展示論関係本を参考図書として推薦します。

【成績評価の方法と基準】

出席7割以上確認の上、成績を課題発表等から評価する。学生自身のオリジナリティを評価したいと考えています。積極的な発言者を評価する共に、自由自在な発想力を評価します。後期に行われるグループ発表に欠席した場合には成績を評価しないこともあります。前期の出席や評価については適宜課題等を通じて確認していきます。

【学生の意見等からの気づき】

机上討議なので、企画展本来の面白さをどれだけ伝えられるか心配ですが、このスタイルの授業はそれなりに学生からも評価されていると考えています。後期のグループワークは総じて楽しいとの評価がある一方で、仲間を形成できない学生の姿を時々散見しますので、授業に問題があった場合は遠慮なく声をかけて欲しいです。

【学生が準備すべき機器他】

グループ討議では☑を用意していただきます。個人用に加え、必要があれば貸し出し用も用意します。情報共有として☑を活用してほしいですが、最近ではスマートフォンでやり取りするケースも多く、実際その使用を認めています。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline and objectives】

Learn how to organize exhibitions at the museum. In the first half the lesson, you will learn various steps based on the text. In the second half, we will organize a group and present a special exhibition. At the same time, learn about the differences between the world and Japan in their approach to museum activities.

博物館実習Ⅱ

杉山 享司

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

展覧会は博物館学芸員の主たる活動の一つです。この授業では展覧会の企画からフライヤー（展覧会チラシ）の制作までを通して、学芸員の仕事の実践について学び、資料の活用方法や展示に関する技術の習得を目指します。

【到達目標】

この授業では、展覧会の企画から実施までのプロセスを理解し、その上で受講生自らが展覧会を企画して展覧会概要にまとめ、最終的にはそれをフライヤー（展覧会チラシ）として完成させ発表するまでを到達目標とします。この授業を履修することによって、展覧会活動に必要な知識や技術などの習得が可能となることでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月9日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	博物館実習の目的・方法	授業の内容や目的、その進め方について説明する
2	展覧会と学芸員	学芸員の役割と展覧会の意義について解説する
3	展覧会からたどる博物館の歩み	展覧会の歴史を紐解きながら、日本の博物館がどのように発展していったのかを解説する。
4	私立美術館における展示活動の紹介	日本民藝館の概要と展示活動について紹介する
5	公立美術館における展示活動の紹介	静岡市立芹沢銈介美術館の概要と展示活動について紹介する
6	国立博物館における展示活動の紹介	東京国立博物館の概要と展示活動について紹介する
7	動物園施設における展示活動の紹介	旭山動物園の概要と展示活動について紹介する
8	海外の博物館における展示活動の紹介	大英博物館の概要と展示活動について紹介する。
9	企画展の開催とその意義について	企画展の持つ意味やそれを開催するための方法等について解説する。
10	展覧会実施までのプロセス①	企画書の立案から作成までの過程を解説する
11	展覧会実施までのプロセス②	企画書の作成からプレゼンテーションまでの過程を解説する
12	展覧会実施までのプロセス③	展示の準備から展覧会実施までの過程を解説する
13	出品交渉の心得について	作品の借用交渉について説明する
14	展示の方法や種類について	展示方法の紹介やその作業について解説する
15	展覧会企画に向けて	春学期授業の内容確認と、展覧会の企画書の作成方法について説明する。
16	受講生による1回目の展覧会企画の発表	受講生による1回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。
17	前回発表の振り返りと、受講生による2回目の発表	受講生による2回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、特に展示内容とその構成の仕方について解説する
18	前回発表の振り返りと、受講生による3回目の発表	受講生による3回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では特に展覧会会場の設定に関して解説する
19	前回発表の振り返りと、受講生による4回目の発表	受講生による4回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、料金設定の仕組みについて解説する

20	前回発表の振り返りと、受講生による5回目の発表	受講生による5回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、開館時間や休館日の設定に関して解説する
21	前回発表の振り返りと、受講生による6回目の発表	受講生による6回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、プレゼンテーションの仕方について解説する
22	展覧会企画の発表の総括	受講生各自の発表を基に、問題点や課題を整理し、企画内容の充実化を図る
23	展覧会見学	学芸員の案内による東京都内の美術館見学を行う
24	受講生によるフライヤーを用いた1回目の本発表	企画書を基にして作成したフライヤー（展覧会チラシ）の1回目の本発表。それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
25	前回発表の総評と、受講生による2回目の本発表	展示内容に意識しながら2回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
26	前回発表の総評と、受講生による3回目の本発表	フライヤー（展覧会チラシ）のデザイン面に留意しながら3回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
27	前回発表の総評と、受講生による4回目の本発表	プレゼンテーションの仕方を意識しながら4回目の本発表を行い、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
28	前回発表の総評と、受講生による5回目の本発表	企画者としてのメッセージに留意しながら5回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館に関する学問は現場から生まれたものです。受講生各位は積極的に多くの展覧会を見学するなど、日頃から意識して様々な博物館施設を利用するように心がけて下さい。

【テキスト（教科書）】

レジュメを授業中に配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の積極的な意見交換がなされるよう、秋授業では各自が毎時間発言する機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

An exhibition which is one of the basic items of curator's activities.

In this lesson, from the planning of the exhibition to the production of the flyer, we aim to master the technique of utilizing the materials and the exhibition.

博物館実習Ⅲ

金山 喜昭

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは、博物館の実務実習である。博物館で働く学芸員に触れることで、専門的で多様な技能を身につけることをめざす。

【到達目標】

博物館に関する基礎知識や基本的技能をベースに、博物館での館務体験を通して、博物館の業務を理解するとともに、学芸員として求められる実践的能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講前年度までに「博物館概論」、「博物館経営論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」、「博物館情報・メディア論」、「博物館教育論」、「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」の9科目全てを取得した者のみを対象に、2週間（10日間）以上の館務実習を実施する。

実習先としては、(1) 全国の博物館における館園実習コース及び(2) 法政大学博物館展示施設での展示実習コースを選択する。受け入れ先の博物館の都合により、実習日数が10日を満たない場合は、不足分を秋学期に学内での学芸員実務で補う。このほか、実習前後に計5回の事前（実習ガイダンス）・事後（実習発表会）の指導のほか、個別の面接指導・課題指導等を実施する。（全員が対象）

なお、新型コロナウイルス拡大の影響に伴い、今後の予定や、変更等が生じた場合は資格課程準備室等からメール等で連絡をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	事前指導	博物館実習Ⅲ（館務実習）の事前指導。概要、受講条件・年間スケジュール、受講及び応募に向けての準備学習を指導。
第2回	個別指導	受講生の志望に即した実習計画の設定、応募施設の選択等に関する面談指導。
第3回	個別指導	実習計画を踏まえた博物館学芸員実習希望登録書・身上書等の作成・提出。
第4回	事前指導	「博物館実習Ⅲ」の履修登録手続等の確認、学内外実習の応募先の決定、実習計画・関連書類の整備。
第5回	事前指導	博物館実習の事前指導。（実務実習の方針、実習にのぞむ心構え・姿勢、事前準備・予習事項）
第6回	館園実習	博物館施設での館務実習。（実習日数は、合計10日以上であること。実習内容の詳細は、各博物館での実習内容・日程に従う）
第7回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第8回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第9回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第10回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第11回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第12回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第13回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第14回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第15回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第16回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第17回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第18回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第19回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第20回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第21回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第22回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第23回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第24回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第25回	館園実習	博物館施設での館務実習。（同上）
第26回	事後指導	事後指導ガイダンス。実習を終えての礼状、実習成果報告及びプレゼンテーションに関する指導。
第27回	個別指導	実習成果・考察を明示した報告課題（実習日誌・実習レポート・年度報告書用レジュメ）とプレゼンテーション用電子資料のまとめ・提出。

第28回 事後指導

受講者全員による実習成果の発表会。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を事前に読むこと。
実習する館を事前に下調べする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

随時指示する

【成績評価の方法と基準】

実習先での評価（50%）。
ガイダンスを含めた平常点（20%）
課題提出物（30%）

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

その他の重要事項

*第1回ガイダンス【受講準備】（前年度12月）

*個別指導【施設選択、希望実習館への問い合わせ、提出書類作成、応募】

*第2回ガイダンス【登録、学内・学外実習先の決定】（4月）

*第3回ガイダンス【事前指導】（7月）

*実地実習

*実習先への礼状の送付

*第4回ガイダンス【報告準備】（10月）

*事後指導・実習報告会および情報交換会（12月上旬に市ヶ谷キャンパスで開催予定）形式：各自制作のレジュメおよびパワーポイントによる成果発表。
なお、本講座に関する指示・通知に関しては、各ガイダンスならびに資格課程実習準備室の掲示板等で常に確認するようにしてください。

【学内実習】

学内実習の実務実習は、春学期（6月）及び秋学期（10月～11月）にそれぞれ10日間実施する。学外の各博物館の都合で実習日数が10日に満たない場合、不足分を秋学期の学内実習で補う。

【Outline and objectives】

The theme of this course is a practicum for practical operations at a museum. This course aims to learn communication skills as a member of society as well as professional and diverse skills by training with the professionals at a museum.

図書館情報学概論Ⅰ

丹 一信

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館に関する入門的講義として次の諸点を学習する。

- (1) 図書館の基本的機能（資料収集・組織・提供・保存機能）
- (2) 図書館の種類（国立・公共・大学・専門図書館の理念・制度・実態）
- (3) 図書館関係法規（図書館法ならびに関連法規）
- (4) 図書館員の役割（専門性と司書職制度、図書館の自由、図書館員の倫理綱領など）

【到達目標】

図書館情報学概論Ⅰは、図書館司書課程の学修の入り口となる科目である。「図書館とはなにか」を学習することにより、司書課程の学修の全体像を把握することにもつながる。

本科目の到達目標は、

- ①履修者が図書館の機能や社会における意義や役割について理解すること。
 - ②図書館の歴史と現状、
 - ③館種別図書館と利用者のニーズ
 - ④図書館職員の役割と資格
 - ⑤関係機関との関係などについて
- 十分な理解を得ることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業はテキストを中心に、講義形式で進める。図書館司書課程の e-Learning システムである HULiC を活用しながら、図書館情報学に基礎的知識を総合的に理解できるように進める。
初回授業はガイダンスが中心です。4 月 24 日に配信を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス 図書館の現状と動向	授業ガイダンス 現代の図書館の現状について学ぶ
2	図書館の構成要素と機能 および図書館サービス	図書館の機能や図書館サービスについて学習する
3	図書館の業務モデル	図書館の業務について、モデルケースをもとに学習する。
4	図書館の社会的意義	図書館の社会的意義について、事例も含めながら学習する。
5	文化を伝承し保存する図書館	図書館の役割の一つである文化の伝承と保存、これらについて事例研究を含めながら学習する
6	公共図書館の成立と展開	欧米を中心とした近代以降の公共図書館の成立の歴史的背景について、学習する。
7	我国における公共図書館の成立と発展	我国における公共図書館の成立過程と発展の経緯を学ぶ。
8	我国における公共図書館政策の展開	我国における公共図書館政策の背景、特に生涯学習社会の成立などを踏まえながら学習する。
9	図書館の歴史	紀元前から現代にいたるまでの図書館の概略史を読み解く
10	図書館の種類と利用者 図書館の類縁機関と図書館関連団体	図書館の種類、すなわち館種と対象とする利用者について概観する。 公文書館をはじめとする類縁機関、そして関連団体について、具体事例を踏まえながら学習する。
11	図書館職員とライブラリアンシップ 知的自由と図書館	専門職としての司書とその職業倫理・精神について「図書館員の倫理綱領」を読みながら学習する 現代の図書館と切り離すことが出来ない知的自由について「図書館の自由に関する宣言」を読み学習する
12	図書館の今後の課題	図書館の今後の課題について考える
13	休講	休講
14	休講	休講

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ずテキストを読み予習の上、授業に参加すること
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間程度を目安とします。

【テキスト（教科書）】

図書館の基礎と展望 二村健著 第 2 版. 学文社, 2019.6
ISBN 9784762028885

【参考書】

塩見昇. (2015). 図書館概論 (4 訂版 版). 日本図書館協会.

【成績評価の方法と基準】

レポート類 100 % で採点する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

Learn the following points as an introductory lecture on libraries.

- (1) basic functions of the library (collection of materials, organization, provision and preservation function)
- (2) Types of libraries (philosophy, institution, actual condition of national / public / university / special libraries)
- (3) Library related laws (library law and related laws)
- (4) Role of librarians (expertise and librarian system, freedom of library, code of ethics for librarians etc.)

図書館情報学概論Ⅱ

丹 一信

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】

図書館にかかわる情報技術の基礎的な知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

コンピューター、インターネットを使用しながら講義と演習、実習を組み合わせで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス コンピュータと IT 機器 の基礎	授業について概説し、使用する機器や サイトについて説明する。 コンピュータの歴史や種類などについて 学びます
2	コンピュータの構成	・ハードウェアの構成、周辺機器の基 礎について、実際に触れながら学びま す。
3	ネットワークの基礎	・図書館に関わるコンピュータネット ワーク
4	インターネットの基礎	・LAN, WAN, WI-FI について ・インターネットの歴史や技術 ・サーチエンジン ・Web、SEO、CSS について学びます。
5	データベース	データベースの概要と RDBMS につ いて
6	図書館システム	現代の図書館業務を支える図書館シス テムについて、演習しながら学習しま す。
7	図書館業務と関連する各 種の機器類	入退館システム、自動貸出機、バー コード、RFID などの関連する機器類 について
8	各種メディアの特徴と保 存	図書館で扱う旧来からのアナログメ ディア、現在のデジタルメディアにつ いて実物を交えながら学習します。
9	デジタルアーカイブの構 築と電子資料	・デジタルアーカイブの概要 ・デジタルアーカイブの作成技法 ・電子書籍などを学習します。
10	図書館の広報活動と情報 発信の基礎	・図書館のウェブサイト構築の事情 ・ウェブと SNS などによる広報 ・ユニバーサルデザインについて
11	情報技術と利用者サービ ス	デジタルレファレンスサービス、SDI サービス、E-ラーニングなどの ICT を活用した利用者サービスについて学 びます。
12	情報セキュリティとシス テムの保守	・情報セキュリティの基礎 ・図書館における情報セキュリティ 対策 ・組織及び職員の情報セキュリティ ・サーバ管理と保守
13	学校図書館の現状	学校図書館における ICT 活用の現状 について
14	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館 サービスにつながる最新技術について 学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 田中 均. 図書館情報技術論. 青弓社, 2019, 177pp.
ISBN 9784787200709

【参考書】

参考書は指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 % レポート課題 20% 期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

実際の機器類に触れる時間を増やし、理解を促します。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で授業を行います。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。授業は出席するだけでなく、演習等への積極的な参加も求めます。

【Outline and objectives】

In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.

In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

図書館制度・経営論

丹 一信

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館運営の基礎となる図書館の諸制度や、図書館経営の基礎的知識を身につけます。前半は図書館法をはじめとする法律について学習します。後半は現代の図書館が抱える組織の問題、経営上の問題を中心に学びます。司書として実務に就いた場合に、経験するであろう諸問題に対して、経営の観点から、合理的な判断ができるようになることが目的です。

【到達目標】

現代の図書館の管理及び運営について、経営的視点をもって理解が出来るようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形態の授業進行です。

図書館経営では人事・財務・PR・施設管理など多岐にわたります。

具体的な事例研究を平行して進める事により具体的な理解に努めます。

初回授業は、4 月 24 日に配信予定です。ただしガイダンスが中心です。学習支援システムを熟読してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館をめぐる法体系	1. 日本国憲法 2. 教育基本法 3. 社会教育法 4. 図書館法
第 2 回	図書館法逐条解説（1） 総則	1. 図書館法の目的と図書館の定義 2. 図書館奉仕 3. 司書および司書補 4. 設置及び運営上望ましい基準
第 3 回	図書館法逐条解説 公立 図書館および私立図書館	1. 公立図書館の設置 2. 公立図書館の職員 3. 図書館協議会 4. 入館料など 5. 公立図書館の補助 6. 私立図書館 7. 図書館同種施設
第 4 回	地方自治体の図書館関連 条例など	1. 公共図書館の法的根拠 2. 地方自治体における関係法令 3. 地方自治体における物品管理（図書館の場合）
第 5 回	他館種の図書館に関する 法律など	1. 他館種との連携 2. 学校図書館 3. 国立図書館 4. 大学図書館 5. そのほかの図書館
第 6 回	図書館サービス関連法規	1. 読書に関連する法律と図書館サービス 2. 著作権法と図書館サービス 3. 個人情報保護に関する法律と図書館サービス 4. 労働関連法規と図書館サービス 5. 公益法人制度改革と図書館サービス
第 7 回	図書館政策（国、地方自治体）	1. 国の生涯学習政策 2. 国の図書館政策 3. 都道府県の図書館政策
第 8 回	公共機関・施設の経営方法と図書館経営	1. 経営とは何か 2. 公共機関・施設の経営方法 3. 公立図書館の経営
第 9 回	図書館の組織・職員（1）	1. 教育委員会 2. 組織構成 3. 図書館長の役割 4. 人事管理
第 10 回	図書館のサービス計画と 予算の確保	1. 図書館のサービス計画 2. 予算の確保
第 11 回	図書館業務／サービスの 調査と評価	1. 図書館業務／サービスの調査 2. 図書館業務／サービスの評価

第 12 回 図書館の管理形態の多様
化

1. 管理運営、業務の外部化
2. 業務委託
3. 指定管理者制度
4. P F I
5. 市場化テスト

第 13 回 。

第 14 回 。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習を行い授業に臨んでいただきたい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

図書館制度・経営論 / 手嶋孝典編著。－第 2 版。－東京：学文社，2017.4。－154p：挿図；26cm。－(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 / 二村健シリーズ監修；5)

ISBN 9784762027017

【参考書】

法政大学図書館が提供する新聞記事 DB、及び『図書館雑誌』

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

新聞記事などを用いた事例検証は今年度も行います。

【学生が準備すべき機器他】

Hulic 及び PC

【その他の重要事項】

多摩キャンパスの『図書館演習』と関連する内容の科目です。

【Outline and objectives】

Lesson summary: Learn the fundamental knowledge about library system and management.

First half: Learn the law about the library.

Second half: Learn the basic knowledge of the organization and management of the library. I will also learn about problems.

Purpose of the lesson: To be able to make reasonable judgment from the viewpoint of management against various problems experienced in practice.

図書館サービス概論

有山 裕美子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一口に図書館サービスといっても、地域や館種によって様々な違いがある。本授業では、公共図書館を中心に、実際の図書館におけるサービスを例に挙げながら、図書館サービスの種類及び概略について知るとともに、それぞれのサービスのあり方について学ぶ。また、理論と実践を結びつけ、実際にサービス計画を立てることで、図書館というフィールドにおけるサービスのあり方、および課題解決に向けての方策について考察する。

【到達目標】

公共図書館を中心に、そのサービス概要について知るとともに、自身が図書館員となった時に、様々な角度から図書館サービスをとらえ、現状を評価分析し、課題を把握し、改善を提案していくことが出来ることを目標とする。また、自分が描くサービス内容およびその評価を具体化し、それらをわかりやすい形でまとめ、プレゼン等で他者に的確に伝えることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

随時、ワークショップやディスカッションを取り入れるので、各自興味関心を持って積極的に取り組んでほしい。また、近所の公共図書館など、様々な図書館を積極的に利用・見学すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要、進め方など。
第 2 回	図書館サービスの意義と役割	図書館サービスの概略を知るとともに、その意義と役割について考える。
第 3 回	図書館サービス計画の立案と工夫／公共図書館における情報ネットワーク	図書館サービス計画を立案する上での留意点や、工夫することなどについて考える。 公共図書館における役割分担や、情報ネットワーク、広域利用のあり方などについて学ぶ。
第 4 回	資料や情報を提供するための準備／排架の工夫と館内サイン／ディスプレイ	資料や情報提供の上での、資料の分類や目録、デジタル化などについて学ぶ。 図書館のレイアウトや排架の工夫、館内サインやディスプレイについて考える。
第 5 回	資料提供に関するサービス	貸出サービスや利用者登録、返却や督促、リクエストサービスなど、資料提供の意義と種類を知る。
第 6 回	情報提供サービス	レファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、オンライン・データベースを利用した情報検索など、情報サービスの意義と種類を知る。 利用者からの相談や質問回答サービス、インターネット活用等について考える。
第 7 回	広報活動と利用者サービスの展開・コミュニケーション／図書館利用教育と情報活用能力の育成	広報活動の意義と方法、種類などを知る。 利用者に対する接遇とコミュニケーションについて知る。 図書館利用教育の種類と方法、情報活用能力の育成について考える。
第 8 回	利用対象者別の図書館サービス①／児童サービス／YA サービス	児童サービスや YA サービスについて考える。また、児童サービスの実演や、お話会のプログラム作成などを行う。
第 9 回	利用対象者別の図書館サービス②／高齢者サービス／障害者サービス	高齢者や障害者に対するサービスのあり方について考える。
第 10 回	利用対象者別の図書館サービス③／多文化サービス／外部機関との連携	多文化サービスや、学校図書館支援を始めた外部機関との連携について考える。
第 11 回	図書館サービスをめぐる著作権問題／利用者とモラル	著作権制度について知るとともに、図書館における著作権の種類と概要について知る。 電子書籍など電子メディアに関する著作権について知る。
第 12 回	図書館サービス計画立案	今までの学びを通して、自分が興味を持った分野について実際に図書館サービスの立案を試みる。

第 13 回	図書館サービス計画立案プレゼンテーション	それぞれが作成した図書館サービスについての発表を行う。発表方法は、受講者数に応じて検討する。
第 14 回	まとめ 図書館サービスにおける課題	学習のまとめと振り返りを行うとともに、図書館サービスにおける課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の後半部分で、実際のサービス計画を立案するので、そのことを意識しながら受講するとともに、休みの日を利用して近所の公共図書館等を積極的に活用すること。講義期間中に、実際に利用（見学）した公共図書館に関わる課題を課す。各回の講義内容についても目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

図書館サービス概論 第2版 金沢みどり ほか 学文社 2016 年 2160 円 978-4762025822

【参考書】

講義内で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末レポート、レポートを元にしたプレゼンテーションを講義内で課す。これらにおいては、論点をしっかりと押さえた上で、自分なりの分析、および評価、課題提起ができているかどうかを評価する。また、授業内における参加態度、プレゼンテーションやディスカッションに積極的に参加しているか、また、課題に向けての準備がしっかりとできているか、問題意識がしっかりしているか、自ら進んで課題に取り組む姿勢があるか等、総合的に評価する。平常点（課題発表等を含む）60 点、課題・レポート 40 点

【学生の意見等からの気づき】

講義毎にリアクションペーパーを回収、生徒からの疑問や要望に応える。疑問点や、さらに深く学びたいことなど、是非積極的に発信して欲しい。

【Outline and objectives】

Even when the same term of library services are in use, those services differ depending on the areas or the library types. In this class, you will learn about library types and outlines, taking examples from actual services, mainly at public libraries. You will also study the way individual services will unfold. Also, by linking theory and practice and setting up prospective service plans, you will look into ideal services in the field of libraries as well as feasible measures to solve outstanding issues.

児童サービス論

松田 ユリ子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共図書館の専門職として司書が持つべき児童サービスについての知識の習得を目指す。公共図書館における子どものための図書館サービスについて広い視野から理解し、人々の生涯に渡る学習と楽しみのために子どものための図書館サービスが果たすべき役割について考える。

【到達目標】

- (1) 図書館サービスの対象者である「子ども」について知る。
- (2) 「子ども」向けの図書館資料について知る。
- (3) 「子ども」と資料とを結びつける活動の企画や実施、評価方法について知る。
- (4) 地域や学校などとの協働活動について知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する
翌週までに講師からのコメントを受け取り、指定された時間にやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをオンラインでディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回 4/25	オリエンテーション	講義のすすめ方と最初の課題を支援システム上で各自確認する。
第 2 回 5/2	子どもの生活と読書	教科書の UNIT0 ～ UNIT6 を熟読し、課題を提出する
第 3 回 5/9	子どもの生活と読書	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
第 4 回 5/16	児童サービスの資料	教科書の UNIT 7 ～ UNIT14 を熟読し、課題を提出する
第 5 回 5/23	児童サービスの提供	教科書の UNIT15 ～ UNIT17 を熟読し、課題を提出する
第 6 回 5/30	児童サービスの資料と提供	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
第 7 回 6/6	子どものための図書館プログラム	教科書の UNIT18 ～ UNIT 22 を熟読し、課題を提出する
第 8 回 6/13	子どものための図書館プログラム	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
第 9 回 6/20	子どもと資料をつなぐ技術	教科書の UNIT18 ～ UNIT 22 を熟読し、課題を提出する
第 10 回 6/27	乳幼児サービス／ヤングアダルトサービス／特別な支援	教科書の UNIT 34 ～ 4 2 熟読し、課題を提出する
第 11 回 7/4	子どもの読書活動推進とネットワーク／学習支援と学校図書館	教科書の UNIT 43 ～ 47 を熟読して、課題を提出する
第 12 回 7/11	様々な児童サービスと連携／まとめと最終課題の提示	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

児童図書館や公共図書館児童コーナーの体験調査
講義で取り上げられた資料を中心に、できるだけ多くの児童サービスのための資料を読むこと（ただし、緊急事態宣言等で図書館が閉館している場合はこの限りではない）

【テキスト（教科書）】

堀川照代編著、児童サービス論 新訂版（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ-6）、日本図書館協会、2020。

【参考書】

汐崎順子著『児童サービスの歴史:戦後日本の公立図書館における児童サービスの歴史』創元社、2007 東京子ども図書館編『ブックトークのきほん:21 の事例つき』東京子ども図書館、2016。
日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会『児童図書館サービス 1:運営・サービス編』日本図書館協会、2011。
日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会『児童図書館サービス 2:児童資料・資料組織編』日本図書館協会、2011。
望月道浩、平井歩実編著『児童サービス論』学文社、2015。

【成績評価の方法と基準】

各レポート提出が最低条件である。レポート 70 %（各レポート 10 %づつ）、最終レポート 30 % の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

例年身近な公共図書館の児童サービスをできる限り現地で見聞きすることを課してきたが、施設によって担当者へのインタビュー等が難しい場合があった。そこで、学生としてではなく、児童資料を利用する一利用者としての体験を課し、そこから分かったことを持ち寄って議論する方法を取ることとしたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要だが、用意できない場合は相談すること

【その他の重要事項】

教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に示すこと。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to provide students with the knowledge required to plan, implement and evaluate a program of public library services for children.

情報サービス論

丹 一信

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルスによる影響により、4 月 19 日付で修正しています。学習支援システムも熟読願います。

インターネットの普及により、誰もが容易に情報にアクセスできるようになった。またスマホやタブレットの普及は、人々に「検索」という行為を身近なものにさせた。と同時に、インターネット上の情報は溢れかえるようになり、情報の洪水を引き起こした。さらにフェイクニュースに見られる様な悪意ある情報も混在し、玉石混交の状態となっている。この様な状況の中で、情報のプロフェッショナルである図書館司書は、適切な情報源を用いて信頼性の高い情報入手することが益々求められるようになった。この授業の目的は、各種の情報サービスの概要を学び、情報サービス演習における必要な基礎知識を身につけることである。

【到達目標】

- ①図書館における情報サービスの意義を理解すること
- ② ICT を活用した発信型情報サービスなどの概要を理解すること
- ③レファレンスサービスについての基礎知識、技術を身につけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキストをもとにした講義形態で行う。また毎回アクションペーパーの提出を求める。また授業内容の性質から、一部演習も含まれる。初回授業はガイダンスを中心として、4 月 24 日に配信予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 情報社会と図書館	ガイダンス ・情報社会とは何か ・図書館の果たす役割
第 2 回	図書館による情報サービスの意義と実際	・情報サービス機関による情報サービス ・図書館による情報・サービスの意義と構成要素 ・情報サービスを構成するさまざまなサービス
第 3 回	レファレンスサービスの理論と実際①	・各種図書館と情報サービス 1. 利用者の情報ニーズとレファレンスサービス 2. レファレンスプロセスの各段階 3. レファレンスインタビュー
第 4 回	レファレンスサービスの理論と実際②	1. 情報サービスの企画と設計 4. 情報サービスの運営 5. 情報サービスの評価 6. 情報サービスの課題と展望
第 5 回	情報検索サービスの理論と方法①	1. 情報検索の意味 2. データベースの定義と種類 3. レファレンスデータベースの構造と索引作業
第 6 回	情報検索サービスの理論と方法②	4. 情報検索の理論 5. 情報検索の種類 6. ウェブサイトの構造とウェブ検索の仕組み
第 7 回	情報検索サービスの理論と方法③	7. 情報検索プロセス 8. 情報検索結果の評価 9. 検索技術と情報専門家の役割
第 8 回	発信型情報サービスの展開	1. 発信型情報サービスとは何か 2. 発信型情報サービスの先駆的事例 3. 発信型情報サービスの課題と展望
第 9 回	利用教育の現状と展望	1. 情報環境の変化と利用教育の必要性 2. 利用教育とは 3. 各種図書館と利用教育 4. 利用教育の企画と実施 5. 利用教育の課題と展望
第 10 回	各種情報資源の特徴と利用法①	1. 情報サービスにおける情報資源の変遷と多様化 2. 情報資源とレファレンスコレクション

第 11 回	各種情報資源の特徴と利用法②	3. 課題解決型サービスにみる各種情報資源の利用事例 4. 図書館の種類と情報資源 5. 情報資源の多様化とこれからの課題
第 12 回	情報サービスにかかわる知的財産権の基礎知識	著作権、肖像権など知的財産権について学ぶ
第 13 回	。	。
第 14 回	。	。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、テキストを事前に読み込むことが必須です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

情報サービス論 改訂（現代図書館情報学シリーズ） 山崎 久道（編著）／ 原田 智子（編著） 樹村房 2019 ISBN978-4-88367-295-0

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

レポート 20% 期末課題 80%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

【学生が準備すべき機器他】

Hulic（司書課程授業支援システム）を用います

【Outline and objectives】

With the spread of the Internet, anyone can easily access information. However, the information on the Internet has begun to overflow. In addition, malicious information such as fake news is also mixed. Under these circumstances, librarians are increasingly required to obtain reliable information from appropriate sources.

The purpose of this class is to learn the outline of various information services and to acquire the necessary basic knowledge in information service exercises.

情報サービス演習

丹 一信

配当年次／単位：2～4 年次／ 4 単位

開講時期：年間授業

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 月 19 日付で修正しています。学習支援システムも熟読してください。
情報サービス演習は「情報サービス論」と対を為す科目です。情報サービス論で学んだ知識をもとに、情報サービスに必要な技能を演習を通じて修得します。

次の 2 点が目的です。

1. 情報資源（データベース）を検索し回答する方法を学ぶ
2. 発信型情報サービスのためのウェブサイト・データベースを構築する方法を学ぶ

【到達目標】

下記を到達目標とします。

- ①図書館のレファレンスサービスにおいて、質問の内容を理解し、適切な情報資源を選択できる。
- ②選択した情報資源を使いこなせる。
- ③発信型情報サービスのために必要な ICT の基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行います。実際の図書館におけるレファレンスサービスを模して行いますので、二人一組でのレファレンスインタビューの演習、グループでの演習もあります（秋学期）

また毎回、データベースの演習課題を課すことにより、情報資源としての事典、書誌などの資料や、データベース、インターネット情報などを使いこなせるように進めます。

さらに発信型情報サービスのためのウェブサイト作成やデータベース構築を、演習課題を通じて身につけます。

リアクションペーパーは毎回、提出を求めます（秋学期）

初回授業はガイダンスを中心に、4 月 24 日に配信予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス（履修登録に際して）
第 2 回	オンライン授業における注意点	オンライン授業における注意点 情報サービスとは？
第 3 回	情報サービスとは 情報サービスの設計と評価	1. 図書館における情報サービス 2. レファレンスサービスの体制づくり 3. 情報サービスの評価 4. 情報サービスの設計の見直しと改善方法
第 4 回	情報サービス演習の準備	1. 情報資源とレファレンスコレクション 2. 演習の目的と注意事項 3. プロセスの確認とレポートの作成 4. コンピュータ検索の基本 5. 演習の具体例
第 5 回	情報資源の探し方	1. 情報資源の特徴とそのアプローチ 2. 検索エンジン 3. ウェブ情報資源のガイドと情報資源リンク集 4. レファレンスブックのガイド 5. 書誌の書誌 6. 図書館およびその他の情報資源
第 6 回	ウェブページ、ウェブサイトの探し方	1. ウェブページ、ウェブサイトの特徴とそのアプローチ 2. 検索エンジン 3. アーカイブサイト 4. 限定した範囲のウェブページやウェブサイトの検索
第 7 回	図書情報の探し方	1. 図書情報の特徴とそのアプローチ 2. 図書館サービスを利用する 3. 出版情報を利用する 4. 各種書誌を利用する 5. 電子図書館サービスを利用する
第 8 回	雑誌および雑誌記事の探し方	1. 雑誌および雑誌記事の特徴とそのアプローチ 2. 雑誌記事を探す 3. 逐次刊行物を探す 4. 電子ジャーナルを利用する

第 9 回	歴史・日時の探し方	1. 歴史・日時の特徴とそのアプローチ 2. 歴史事典 3. 歴史便覧 4. 年表 5. 事物起源事典・行事事典 6. 歴史地図
第 10 回	新聞記事の探し方	1. 新聞記事の特徴とそのアプローチ 2. オンライン・データベースを利用する 3. 新聞社のウェブサイトを利用する 4. ニュースサイトを利用する 5. その他新聞記事関係書誌を利用する
第 11 回	言葉・事柄・統計の探し方	1. 言葉の特徴とそのアプローチ 2. 国語辞典 3. 漢和辞典 4. 対訳辞典と英英辞典 5. 特殊辞典 6. 事柄・統計の特徴とそのアプローチ 7. 百科事典 8. 専門事典 9. 複数辞典・事典のウェブサイト 10. 便覧 11. 図鑑 12. 統計 13. 年鑑・白書
第 12 回	地理・地名・地図の探し方	1. 地理・地名・地図の特徴とそのアプローチ 2. 地理学事典 3. 地図帳・地図・地図サイト 4. 地名事典 5. 国や自治体のウェブサイト 6. 旅行ガイドブックと観光協会のウェブサイト 7. 地域事典・地域便覧 8. 地域年鑑
第 13 回	。	。
第 14 回	。	。
第 15 回	人物・企業・団体の探し方	1. 人物・企業・団体の特徴とそのアプローチ 2. 人物を探す 3. 企業を探す 4. 団体・機関を探す 5. 主な商用データベース
第 16 回	法律・判例・特許の探し方	1. 法律・判例の特徴とそのアプローチ 2. 特許の特徴とそのアプローチ 服飾、ファッション分野の情報の探し方
第 17 回	ファッション分野の探し方	音楽や映画といった芸術分野の情報の探し方
第 18 回	音楽、映画分野の探し方	レファレンスインタビューについて、2 人組で模擬演習を行う。
第 19 回	レファレンスインタビュー	レファレンスインタビューについて、2 人組で模擬演習を行う。
第 20 回	レファレンスインタビュー②	シソーラスを用いた検索。科学技術系論文を探す。
第 21 回	理系論文検索 (1)	PubMed をはじめとする医学系の DB の使い方。論文の探し方。
第 22 回	理系論文検索 (2)	分野を問わない演習課題をこなす。
第 23 回	総合演習課題	これまでの情報サービスと発信型情報サービスの比較。
第 24 回	発信型情報サービスの概要	1. インフォメーションファイルの作成と維持管理 2. パスファインダーの作成と維持管理 3. F A Q とリンク集の作成と維持管理 4. レファレンス事例集およびレファレンス事例データベースの作成と維持管理
第 25 回	発信型情報サービスの構築と維持管理	図書館とソーシャルメディアについて SNS を用いた図書館からの情報発信について
第 26 回	SNS 演習 (1)	図書館とソーシャルメディアについて SNS を用いた図書館からの情報発信について
第 27 回	SNS 演習 (2)	図書館とソーシャルメディアについて SNS を用いた図書館からの情報発信について
第 28 回	冬季課題の発表	冬季課題について各自発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料提示・連絡・課題提出には、図書館司書課程専用の授業支援システム「HULiC」を用います。

本科目は予習していることを前提に授業が進行します。欠席した場合は、テキストを熟読の上、上記の「Hulic」内の案内を元に復習します。

<http://lc.i.hosei.ac.jp/> 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

情報サービス演習 改訂 （現代図書館情報学シリーズ） 原田 智子（編著）
樹村房 2016 ISBN：978-4-88367-267-7

【参考書】

検索スキルをみがく：検索技術者検定 3 級公式テキスト / 原田智子編著；吉井隆明, 森美由紀著, 樹村房, 2018
注：5 月に改訂版が発行されます。
その他の参考書は講義の中で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

夏季課題 35%
冬季課題 35%
平常点 15%
レポート・発表の資料等はすべて「HULiC」を用います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

情報機器として PC が必要です（特に春学期はオンライン授業のため）
司書課程の授業支援システム「Hulic」を毎回使用します。

【その他の重要事項】

人数超過の場合は抽選となります。必ず学習支援システムに仮登録すること
「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー（1 級）としての実務経験をもとに、実践的な図書館のレファレンスサービスの演習を行います。

【Outline and objectives】

.Purpose and Goal
1. Learn how to search information sources (databases).
2. Learn how to build website and database for outgoing information service.

図書館情報資源概論

山口 洋

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館資料の特質と、資料選択、収集、保存、蔵書管理に関わる業務について解説します。また出版流通や著作権、資料収集提供に関わる諸問題についても触れます。

【到達目標】

- ①図書館における各種資料の特徴を説明できる
- ②資料収集、保存、提供の役割を説明できる
- ③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
- ④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

初回授業は4／25（土曜日）になります。初回は ZOOM を使って簡単な説明を行います。
毎回の授業は、学習支援システムを使い、資料の配付（PowerPoint スライド、PDF ファイル資料）とテキストを使い、学習を進めてください。また毎回、小レポート等の課題を課すことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館情報資源	図書館情報資源とは何か？ 図書館におけるその意義を考える
第 2 回	情報資源の歴史	情報の記録化とメディアの歴史について解説する
第 3 回	印刷資料	図書館資料の中で印刷資料について解説する
第 4 回	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料について解説する
第 5 回	電子資料	パッケージ系電子メディアとネットワーク情報資源について解説する
第 6 回	出版流通システム	日本における出版流通の仕組みを解説し、図書館との関わりを考える
第 7 回	図書館の「知的自由」1	図書館の知的自由と図書館資料との関係を収集・提供の視点から考える
第 8 回	図書館の「知的自由」2	具体的な事例を検討して考える
第 9 回	資料の収集と選択 1	資料収集と選択の理論と実践を解説する
第 10 回	資料の収集と選択 2	収集方針の意義を実例から考える
第 11 回	蔵書管理	蔵書管理の意義と仕組みを解説する
第 12 回	資料の組織化	資料の受け入れ、登録、装備、予算管理について解説する
第 13 回	書庫管理	書庫管理の意義、蔵書点検、資料保存について解説する
第 14 回	まとめ	図書館資料の意義を再び考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容に応じて、事前に用語や事項の調査を指示します。参考図書や実際の図書館を利用して準備学習をしましょう。また復習では、授業内容の重要事項を自分で説明できるように知識の整理を心がけてみましょう。

【テキスト（教科書）】

馬場俊明編著『図書館情報資源概論 改訂版』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ：8）、日本図書館協会、2018
今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』、樹村房、2020

【参考書】

前川恒雄、石井敦共著『新版 図書館の発見』（NHK ブックス）、2006
竹内さとる著『生きるための図書館』（岩波新書）、2019
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点および演習課題を 40%、最終レポートを 60%として、以下の点を評価します。
①図書館における各種資料の特徴を説明できる
②資料収集、保存、提供の役割を説明できる
③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【学生の意見等からの気づき】

学外での学習時間が必ずしも多くないようでしたので、復習や発展学習の指針を示すようにします。

【その他の重要事項】

普段から多くの図書館を見学して、図書館のイメージを作るとよいでしょう。また、公共図書館を積極的に利用することも図書館の学習には必要ですから普段から心がけましょう。

【授業中に求められる学習活動】

C,D,E

【Outline and objectives】

Learn the characteristics of library materials and the work related to the selection, collection, storage, and collection management of library materials

図書館情報資源特論

山口 洋

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館資料について、公立図書館で重視される逐次刊行物、政府刊行物、地域資料を中心に学習します。また資料の収集・提供に関する諸問題について検討します。

【到達目標】

- ①公共図書館における資料の特徴を説明できる
- ②各種資料の収集、運用方法を説明できる
- ③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
- ④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を基本とし、受講生の事前調査や討論を行う。また、随時受講生の意見を求めたり、リアクションペーパーの提出などを組み合わせ、受講生の授業内容に対する理解を深めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館情報資源	この授業で扱う図書館資料の図書館における意義を考える
第 2 回	図書資料と逐次刊行物	図書資料の特徴を確認する。逐次刊行物の特徴を解説する
第 3 回	逐次刊行物の運用	逐次刊行物の運用を解説する
第 4 回	政府刊行物 1	政府刊行物の特徴と種類を解説する
第 5 回	政府刊行物 2	政府刊行物の運用を解説する
第 6 回	地域資料 1	地域資料の特徴と種類を解説する
第 7 回	地域資料 2	地域資料の運用と組織化を解説する
第 8 回	障がい者サービスに関する資料	障がい者サービスを支える資料や仕組みを解説する
第 9 回	著作権	著作権と図書館のついて解説する
第 10 回	資料保存	資料保存と酸性紙問題について解説する
第 11 回	資料収集に関する諸問題 1	資料収集に関する実際の事例を検討する
第 12 回	資料収集に関する諸問題 2	近年の事例を検討する
第 13 回	資料提供に関する諸問題	資料提供に関する事例を検討する
第 14 回	まとめ	図書館資料の意義を再び考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容に応じて、事前に用語や事項の調査を指示します。参考図書や実際の図書館を利用して準備学習をしましょう。また復習では、授業内容の重要事項を自分で説明できるように知識の整理を心がけてみましょう。

【テキスト（教科書）】

今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』、樹村房、2020
適宜プリントを配布

【参考書】

馬場俊明編著『図書館情報資源概論』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ；8）、日本図書館協会、2018（図書館情報資源概論で使用了テキスト）
前川恒雄、石井敦共著『新版 図書館の発見』（NHK ブックス）、2006
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点および演習課題を 40%、期末試験を 60%として、以下の点を評価します。

- ①公共図書館における資料の特徴を説明できる
- ②各種資料の収集、運用方法を説明できる
- ③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
- ④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【学生の意見等からの気づき】

学外での学習につながる課題や復習ポイントを盛り込む予定です。

【その他の重要事項】

普段から多くの図書館を見学して、図書館のイメージを作るとよいでしょう。また、公共図書館を積極的に利用することも図書館の学習には必要ですから普段から心がけましょう。

【授業中に求められる学習活動】

C,D,E

【Outline and objectives】

Learn the characteristics of Public library materials.

情報資源組織論

山口 洋

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館における資料組織（分類や目録）の意義、目的と方法について解説する。到達目標は、資料組織について理解を深めるとともに、図書館司書として必要な知識や思考力を習得することに置く。なお、NDC 分類の略記や図書館用語（略語）の習熟について小テストを活用して身につけられるよう配慮したい。

【到達目標】

- ①図書館における資料組織の意味を説明できる
- ②分類の基礎知識を修得している（主に用語や考え方）
- ③目録の基礎知識を修得している（主に用語や考え方）
- ④現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

初回授業は4／25（土曜日）になります。初回は ZOOM を使って簡単な説明を行います。毎回の授業は、学習支援システムを使い、資料の配付（PowerPoint スライド、PDF ファイル資料）とテキストを使い、学習を進めてください。また毎回、小レポート等の課題を課すことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報資源組織化の意義と理論	資料組織の目的、意義について解説する。
第 2 回	主題による組織化	主題分析・組織法の意義について解説する。
第 3 回	分類法	分類の歴史、基本原理、分類法の機能について解説する。
第 4 回	件名法	件名法の基本原則、各種件名標目表について解説する。
第 5 回	目録法	目録法の基本、意義を解説する
第 6 回	目録規則（NCR1987 改訂 3 版）	日本目録規則を中心に紹介する
第 7 回	新しい目録規則の動向	国際規格の変化から日本の目録規則への影響を紹介する
第 8 回	書誌コントロール	書誌コントロールの目的と動向を紹介する
第 9 回	書誌情報の流通	コンピュータ目録における書誌情報作成と流通の仕組みを紹介する
第 10 回	装備と配架	図書館における資料装備と配架について紹介する
第 11 回	多様な情報資源の組織化	地域資料、絵本、視聴覚資料、学校図書館における組織化を紹介する
第 12 回	OPAC	OPAC の基本と最新の OPAC について紹介する
第 13 回	ネットワーク情報資源の組織化	各種ネットワーク情報資源、メタデータ、ウェブの組織化について解説する。
第 14 回	まとめ	授業を振り返り、情報資源組織の意義を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容に応じて、事前にテキストを読み、用語などの調査をしておきましょう。また復習では、授業内容の重要事項を自分で説明できるように知識の整理を心がけてみましょう。

【テキスト（教科書）】

竹之内禎、山口洋編著『情報資源組織論』（東海大学出版部、2020）
ISBNM：978-4-486-02188-9

【参考書】

今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第 3 版』（樹村房、2020）
ISBN:978-4-88367-333-9（法令の改定が多々ありますので最新版を購入してください）

【成績評価の方法と基準】

平常点および演習課題を 40%、最終レポートを 60%として、以下の点を評価します。

- ①図書館における資料組織の意味を説明できるか
- ②分類の基礎知識（用語や概念）を修得しているか
- ③目録の基礎知識（用語や概念）を修得しているか

【学生の意見等からの気づき】

学外での学習ポイント（復習や発展学習）を盛り込みます。

【その他の重要事項】

普段から多くの図書館を見学して、図書館のイメージを作るとよいでしょう。また、大学以外の公共図書館を積極的に利用することも図書館の学習には必要ですから心がけてみましょう。

【授業中に求められる学習活動】

C,D,E

【Outline and objectives】

Explain the significance, purpose and method of the document organization (classification and catalog) in the library. The goal is to understand the document organization and master the knowledge and thinking skills necessary as a library librarian

情報資源組織演習

山口 洋

配当年次／単位：2～4 年次／ 4 単位

開講時期：年間授業

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、分類や目録作業を通して受講生が主題分析、分類付与の方法、目録作成の技術を習得し、図書館資料の組織化に関わる能力を身につけることを目標とします。具体的には、『日本十進分類法』（NDC）、『基本件名標目表』（BSH）、『日本目録規則』（NCR）の構成とその使用方法を学びます。

【到達目標】

- ①『日本十進分類法』（NDC）を使用して、各主題分野に応じた適切な分類記号を与えることができる
- ②『基本件名標目表』（BSH）を使用して、各主題分野に応じた適切な件名を与えることができる
- ③『日本目録規則』（NCR）に従って、各種情報資源に対する目録データを作成できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は技術の習得を目的とした演習形式で進めます。各回は最初に解説を行い、その後課題を利用して各人の技術習得を目指します。課題については受講生に発表する機会があります。また個別指導も行い、各人のスキルアップを目指します。

【前期授業】初回授業は4／25（土曜日）になります。初回は ZOOM を使って簡単な説明を行います。以後、ZOOM を用いて必要に応じて指導を行います。（ZOOM の利用は授業支援システムなどで連絡します）

毎回の授業は、学習支援システムを使い、資料の配付（PowerPoint スライド、PDF ファイル資料）とテキストを使い、学習を進めてください。また毎回、小レポート等の課題を課すことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報資源組織化の意味	組織化の目的と仕組みの概観を解説する
第 2 回	『日本十進分類法』10 版 (NDC10)	日本十進分類法の解説
第 3 回	分類規程と主題判断	分類規程と主題判断について解説、演習を行う
第 4 回	NDC10 の一般補助表	形式区分、地理区分、海洋区分、言語区分の使用法
第 5 回	NDC10 の 0 類 1 類の分類法	NDC10 の 0 類（総記）1 類（哲学）の解説と演習
第 6 回	NDC10 の 2 類の分類法	NDC10 の 2 類（歴史）の解説と演習
第 7 回	NDC10 の 3 類の分類法	NDC10 の 3 類（社会科学）の解説と演習
第 8 回	NDC10 の 4 類の分類法	NDC10 の 4 類（自然科学）の解説と演習
第 9 回	NDC10 の 5 類の分類法	NDC10 の 5 類（技術、工学）の解説と演習
第 10 回	NDC10 の 6 類の分類法	NDC10 の 6 類（産業）の解説と演習
第 11 回	NDC10 の 7 類の分類法	NDC10 の 7 類（芸術）の解説と演習
第 12 回	NDC10 の 8 類の分類法	NDC10 の 8 類（言語）の解説と演習
第 13 回	NDC10 の 9 類の分類法	NDC10 の 9 類（文学）の解説と演習
第 14 回	分類の総合演習	NDC10 を利用して分類付与を行う。
第 15 回	図書記号と別置記号	図書記号と別置記号の解説。日本著者記号表の使い方
第 16 回	『基本件名標目表』（BSH）解説と件名作業	基本件名表目標の構造と件名作業の解説
第 17 回	一般件名規程	一般件名規程の解説と演習
第 18 回	特殊件名規程	特殊件名規程の解説と演習
第 19 回	件名付与演習	BSH を使った件名付与
第 20 回	『日本目録規則』（NCR）を用いた目録作成：単行書	『日本目録規則』（NCR87）の基本項目解説と単行書の記述方法
第 21 回	『日本目録規則』（NCR）を用いた目録作成：シリーズものの図書	シリーズものの図書の記述方法
第 22 回	『日本目録規則』（NCR）を用いた目録作成：分冊ものの、構成部分を持つ図書	分冊もののや、構成部分を持つ図書の記述方法
第 23 回	『日本目録規則』（NCR）を用いた目録作成：標目	標目の解説とタイトル標目、著者標目の作成方法

第 24 回	『日本目録規則』（NCR）を用いた目録作成：総合演習	応用問題を中心に技術の錬成を目指す
第 25 回	洋書・地図の記述	NCR による洋書の記述、地図資料の記述
第 26 回	録音・映像・電子・継続資料の記述	録音資料の記述、映像資料の記述、電子資料の記述、継続資料の記述
第 27 回	RDA による目録記述	RDA を用いた洋書目録作成の紹介
第 28 回	まとめと展望	まとめと展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習はテキストの該当箇所に目を通す程度で構いませんが、復習は繰り返し行い、習った内容が定着するように心がけてみましょう。また、分類は日頃より図書館の書架を利用して親しむ様に心がけるとよいでしょう。

【テキスト（教科書）】

竹之内慎ほか編著『情報資源組織演習：情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる』、ミネルヴァ書房、2016

【参考書】

小林康隆編著『NDC の手引き：「日本十進分類法」新訂 10 版入門』（JLA 図書館実践シリーズ：32）、日本図書館協会、2017
今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』、樹村房、2020

【成績評価の方法と基準】

平常点および演習課題を 40%、期末試験を 60%として、以下の点を評価します。

- 1)『日本十進分類法』（NDC）を使用して、各主題分野に応じた適切な分類記号を与えることができるか
- 2)『基本件名標目表』（BSH）を使用して、各主題分野に応じた適切な件名を与えることができるか
- 3)『日本目録規則』（NCR）に従って、各種情報資源に対する目録データを作成できるか

【学生の意見等からの気づき】

学外での復習や発展学習のポイントを示すようにします。

【その他の重要事項】

「情報資源組織論」を履修済みまたは履修中であることを前提として授業を進めます。

【授業中に求められる学習活動】

C,D,E,F,G

【Outline and objectives】

Learn subject analysis, classification method, cataloging skills.

図書館演習

丹 一信

配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

開講時期：年間授業

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルスの影響により、シラバスを 4 月 19 日付で大幅に修正しています。本シラバスの内容を十二分に理解してください。

当科目は、図書館司書課程における基礎的内容を理解した上で履修することを想定しており、履修登録に際しては、【その他の重要事項】を確認してください。前年度までに修得しておくことが望ましい望ましい科目もあります。（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。図書館司書課程の応用かつ実践的授業と位置付けています。授業の概要は以下の通り。

1. 情報検索のスキルの向上を目指します。
2. 情報リテラシーの向上を目指します。
3. 図書館に関する総合的な学びの機会とします。

【到達目標】

春学期の到達目標は、情報検索のスキルを検索技術者検定 3 級合格レベルとすることです。各種のデータベース、ツール等を用いて、情報検索を効率的に行うスキルを身につけます。

秋学期は、実用に耐えるパスファインダーの製作し発表することです。さらに社会情勢が許せば、専門図書館を対象として図書館サービスの調査に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、検索技術者検定 3 級合格を目指して、情報検索について総合的に学習します。各種データベースの演習を徹底して行います。

秋学期は、また図書館サービスの一環としてのパス・ファインダーを作成します。

また社会情勢によりですが、実地見学を行うことにより、図書館の実際についての理解を深めます。さらに専門図書館・大学図書館・データベース提供事業者などの図書館関連の事業についても深く学び、情報専門職とは何かを学びます。

なお初回授業日は 4 月 24 日配信予定です。ただし初回授業は、履修登録を行う上でのガイダンス資料の配布（動画も含む）が主です。履修登録はこのガイダンスの内容を理解した上で行ってください。

また学習支援システムの説明も熟読してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	春学期授業の進行説明及び授業用グループウェア (HULiC) の利用方法
第 2 回	レポート論文の書き方	レポート論文の書き方について学習します。
第 3 回	情報検索概論	情報検索の基本理論と仕組みについて、学習します。
第 4 回	情報資源と情報サービス機関	データと情報：一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類などについて
第 5 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 6 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 7 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 8 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 9 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 10 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて	ネットワーク社会の諸問題：ネットワーク社会の法制度
第 11 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて	ネットワーク社会の諸問題：ネットワーク社会の法制度
第 12 回	ライブラリアン、サーチャー、インフォプロ、デジタルアーキビストについて	ライブラリアンの種類、インフォプロ、デジタルアーキビストなどの情報専門職について学びます。
第 13 回	休講	休講
第 14 回	休講	休講
第 15 回	秋学期ガイダンス 夏季課題の発表（web にて）	秋学期授業ガイダンス
第 16 回	パスファインダーの製作	図書館サービスとしてのパスファインダーの作成に取り組みます。

第 17 回	パスファインダーの製作	パスファインダーの概要について
第 18 回	パスファインダーの製作	テーマを検討する
第 19 回	パスファインダーの製作	テーマを決定し、資料収集を行う。
第 20 回	パスファインダーの製作	図書、雑誌の選定
第 21 回	パスファインダーの製作	論文、記事の選定
第 22 回	パスファインダーの製作	Web 上の情報源など
第 23 回	パスファインダーの製作	AV 資料などについて
第 24 回	事例研究	新型コロナウイルスは、図書館にどのような影響を与えたか。

第 25 回 事例研究

第 26 回 専門図書館について 1

第 27 回 専門図書館について 2

第 28 回 専門図書館について 3

企業図書館とは何か、知財部門における調査やサービスの事例を学習します。専門図書館とは何かを学び、実際に調査対象とする専門図書館を選定します。調査対象の専門図書館に対する調査項目や調査票の作成。図書館調査の概要を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館への見学や調査が必須となります。夏季休業期間に、国立国会図書館や武蔵野ブレイス、大原社会問題研究所への見学を行います。

また第 22 回図書館総合展、2020 年 11 月 4 日（水）、5 日（木）、6 日（金）の 3 日間開催（パシフィコ横浜）への見学課題などが必須となります。（上記はあくまで 4 月下旬時点での予定です。社会情勢の変化により中止もあります）

また検索技術者検定 3 級受験を強く推奨します。＜＝こちらは授業内容と強く関わります。https://www.infosta.or.jp/kensaku-kentei/

平素からの専門図書館、大学図書館や情報センターへの関心が重要です。本授業の準備学習・復習時間は概ね各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) 原田 智子, 吉井 隆明, 森 美由紀, 検索スキルをみがく：検索技術者検定 3 級公式テキスト., 樹村房, 2018, ix, 144pp.

今春、改訂版が刊行予定です。担当教員の指示を必ず確認の上、購入してください。

【参考書】

(1) 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会, 図書館年鑑, 日本図書館協会, 2018, 冊 p.

(2) 専門図書館協議会 https://jsla.or.jp/

【成績評価の方法と基準】

提出物（60%）および平常点（40%） 演習のため出席は極めて重要。

【学生の意見等からの気づき】

少人数です。その利点を生かした授業を行います。夏季学期中に図書館への見学なども行っています。出来るだけ多くの知見が得られる様な見学を行っています。図書館見学は毎年好評ですので、今年度も行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

PC

Hulic

https://lc.i.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】

「図書館情報学概論Ⅰ及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱ」が履修済みであることが極めて望ましい科目です（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。

＜＝多摩キャンパスについては、履修登録の抽選は行いません。但し上記の点をよく理解した上で、履修登録を行ってください。

「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー 1 級（データベース検索技術者）としての実務経験をもとに情報検索演習を徹底し、情報リテラシーの向上に向けた授業を行います。

【Outline and objectives】

The outline of the lesson is as follows.

1. We will aim for improvement of information literacy
2. We aim to improve the skill of information retrieval.
3. We will make a comprehensive learning opportunity for libraries.

学校図書館メディアの構成

有山 裕美子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館メディアの種類、組織化、選択法と分類、目録の基礎を学ぶ。学校図書館メディアの構成に関する理解と実務能力の育成を通して、使いやすい学校図書館をつくる上での基礎的な知識を身につける。

【到達目標】

学校図書館の現場に必要な学校図書館メディアについての知識、選択にあたっての心構えを身につける。メディアをどう使うかを考えながら、実際の学校図書館で利用者にわかりやすい分類をつけられるようにする。検索のための目録の基礎を知る。配架、レイアウトの基本を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各種メディアの種類と特性を理解し、授業においてどう活用するかをまず考える。学校図書館メディアの構築のために、資料・情報の選択と収集・提供に必要なメディアを評価する力をつける。選択・収集・更新・廃棄の基準等の実務を知る。メディアの組織化に関しては、その基本を知り、演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学校図書館メディアの教育的意義と役割	学校図書館のメディアと教育の関わり
2	学校図書館メディアの授業での活用	複数のメディアを活用した授業事例
3	学校図書館メディアの種類	学校図書館メディア基準等
4	学校図書館メディア、組織化の流れ	選択・購入から配架まで
5	学校図書館メディアの選択1	考慮するポイント、収集方針等
6	学校図書館メディアの選択2	予算、組織、方法等
7	分類1	分類の意義、種類
8	分類2	NDC のしくみと応用
9	分類3	分類演習1
10	分類4	分類演習2
11	目録1	目録の意義、種類、NCR 目録演習1
12	目録2	記述と記述を構成する書誌的事項 目録演習2
13	図書館レイアウト	レイアウト計画
14	学校図書館メディアの実際	最近の動き等 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけ学校図書館に実際に行き、全体のレイアウト、分類、目録、配架を見る。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

『改訂新版 学校図書館メディアの構成』北克一 平井尊士 放送大学教育振興会 2016

『学校図書館メディアの構成』小田光宏編 樹村房 2016

【成績評価の方法と基準】

授業時の発言など授業への積極的な貢献度、レポート課題、演習課題。

平常点（授業への積極的な貢献度、授業時の小課題）：40 %

提出レポート「複数のメディアを使った授業を考える」：20 %

演習課題①分類②目録：40 %

【学生の意見等からの気づき】

授業目標の明示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使用する。できるだけ登録を行うこと。

【その他の重要事項】

本科目は司書教諭資格取得のための科目である。

【Outline and objectives】

Students learn how to use school library's functions and resources for teaching. For that purpose they learn an inquiry learning and

information literacy. This subject is a weak point in Japanese school library. To realize that teaching needs using school library, librarians (teacher librarian and school librarian) have to appeal the meaning of school library to teachers.

学習指導と学校図書館

松田 ユリ子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、情報リテラシー教育、メディア・リテラシー教育、言語活動、探究型学習についての理解を深め、学校図書館がいかに教科学習を支えているかを考える。

【到達目標】

授業のゴールとしては、受講生各自が司書教諭としてのオリジナルな授業案をつくることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する。翌週までにコメントを受け取り、指定された時間にやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをオンラインでディスカッションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回 4/25	オリエンテーション	講義のすすめ方と最初の課題を支援システム上で各自確認する。
第 2 回 5/2	学校図書館と学習指導の 関わり	教科書の第 1 章～第 2 章を熟読し、課題を提出する。
第 3 回 5/9	学校図書館と学習指導の 関わり	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
第 4 回 5/16	探究的な学習	教科書の第 3 章～第 4 章を熟読し、課題を提出する。
第 5 回 5/23	探究的な学習	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
第 6 回 5/30	情報リテラシーと探究学 習	教科書の第 5 章～第 8 章を熟読し、課題を提出する。
第 7 回 6/6	情報リテラシーと探究学 習	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
第 8 回 6/13	探究プロセス	教科書の第 11 章～12 章を熟読し、課題を提出する。
第 9 回 6/20	探究プロセスと小学校の 授業実践	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
第 10 回 6/27	探究プロセスと中学校高 校の授業実践	教科書の第 13 章～14 章を熟読し、課題を提出する。
第 11 回 7/4	コラボレーション	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
第 12 回 7/11	授業案	授業案の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が卒業した小学校、中学校、高等学校における学校図書館の状況（職員体制・授業での活用状況）を確認しておくこと。教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に示すこと。

【テキスト（教科書）】

齋藤泰則編著『学習活動と学校図書館（司書教諭テキストシリーズ II・3）』樹村房, 2016

【参考書】

塩谷京子編著『すぐ実践できる情報スキル 50:学校図書館を活用して育む基礎力』ミネルヴァ書房, 2016
 塩谷京子著『探究の過程におけるすぐ実践できる情報活用スキル 50:単元シートを活用した授業づくり』ミネルヴァ書房, 2019
 全国学校図書館協議会「情報資源を活用する学びの指導体系表」<http://www.j-sla.or.jp/pdfs/20190101manabinosidoutaikieihyou.pdf>
 日本図書館協会図書館利用教育委員会編著『問いをつくるスパイラル:考えることから探究学習をはじめよう!』日本図書館協会, 2011
 堀川照代, 塩谷京子著『学習指導と学校図書館』改訂新版、放送大学教育振興会, 2016

【成績評価の方法と基準】

各レポートの提出が必須である。レポート 60 %（各レポート 10 %づつ）、最終レポート 40 %の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要だが、用意できない場合は相談すること

【Outline and objectives】

Students will demonstrate competency in multiple literacies (literacy, information literacy and media literacy etc.) and inquiry-based-learning of the school library profession.

To understand the importance of collaboration between school library specialist, teachers and students.

読書と豊かな人間性

有山 裕美子

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館における読書活動について、「学び」と「読書」を軸にしながら、読書活動の意義と目的について押さえる。さらに、読書教育の歴史や児童文学の変遷について系統的に学ぶ。また、子どもの発達段階に応じた作品や指導方法を念頭に置きながら、心の教育としての読書、そして教育カリキュラムを支える読書のあり方についても考察する。

【到達目標】

学校図書館における読書活動について、その意義や実施方法等について多方面から考察するとともに、司書教諭としての基礎的、実践的な力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

演習や発表等を随時行い、受講生が主体的に学習に参加できるようにする。また、授業毎のリアクションペーパー提出の他、学生からの積極的な発信を期待する。可能であれば、実際に読書指導等を行っている場所への見学や外部ゲスト講師の招聘も検討したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、授業の進め方、課題、評価の方法など。
第 2 回	読書活動の意義と目的	読書とは何か、学校図書館における読書指導の意義とは何かについて考える。
第 3 回	読書教育の歴史	子どもの読書活動の歴史、および子どもの読書活動の法律の変遷について学ぶ。
第 4 回	児童文学の変遷	日本や海外における子どものための作品がどのような変遷をたどってきたかについて学ぶ。読み継がれてきた本、新しい本の動向について理解する。
第 5 回	読書能力の発達	子どもの発達段階に応じた、読書能力の発達と、読書興味の発達について学ぶ。
第 6 回	発達段階に応じた読書の指導計画①	読書の導入的指導について、楽しみや生き方に関わる読書を中心に、発達段階に応じた資料を提示しながら考える。
第 7 回	発達段階に応じた読書の指導計画②	読書の展開的指導について、調べ学習を中心に、教科指導や総合的な学習の時間等における指導に重点を置きながら学ぶ。
第 8 回	読書資料の多様化と種類	子どもを取り巻く読書環境の現状、様々な形態やジャンルの図書について学ぶ。電子書籍や ICT を活用したものなど、出来るだけ新しい動向を取り入れる。
第 9 回	読書資料の選択	その発達段階に応じて、子どもに提供する本をどのように選んでいくかについて学ぶ。
第 10 回	読書体験の表現と交流	読書感想文や読書会、ビブリオバトルなど様々な読書体験の方法について学ぶ。
第 11 回	読書の指導方法①	読書に関する指導方法やイベント企画など、どのようなアプローチが考えられるか検討する。
第 12 回	読書の指導方法②	実際に企画した読書の指導方法等についての実演や発表を行う。
第 13 回	読書活動の展開 家庭や地域、公共図書館との連携	学校図書館活動の中で展開する読書活動について、図書委員会活動や図書館活動などの広報活動を中心に学ぶ。また、家庭や地域、公共図書館との連携を考える中で、生涯学習としての読書のあり方について学ぶ。
第 14 回	振り返りとまとめ 学校図書館における読書の現状と今後の課題	これまでの学習内容を振り返り、学校図書館における読書活動及び読書指導についてまとめるとともに、現状や今後の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業で学んだことを復習し、次の講義に備える。適宜プレゼンテーションや課題に向けての準備を行う。指示されたテキストを事前に読むなど。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。適宜資料を配布する。

【参考書】

『アプローチ児童文学』関口安義・編 2008 年 翰林書房（2160 円）
『子どもと絵本』藤本朝巳・著 人文書院 2015 年（2160 円）
『鍛えよう!読むチカラ—学校図書館で育てる 25 の方法』『読むチカラ』プロジェクト・桑田てるみ・編 2012 年（1944 円）
『読書イベント実践事例集: 学校図書館が動かす』牛尾直枝・高桑弥須子・著 少年写真新聞社 2016 年（1944 円）、ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加態度、課題・レポート、試験を総合的に評価する。演習やディスカッション等、積極的に講義に取り組む姿勢は、特に高く評価する。平常点（課題発表等を含む）50 点、課題・レポート 20 点、期末試験 30 点。

【学生の意見等からの気づき】

講義等における学生の意見を尊重しながら、講義を進める。

【授業中に求められる学習活動】
D,E,F,G

【Outline and objectives】

Regarding reading activities at school libraries, our course will focus on their meaning and purpose with a particular emphasis on the learning and reading. Besides, you will systematically learn about the history of reading education and the transition of child literature. While keeping in mind the school work and teaching method corresponding to children's formative stage, you will view reading as an education of the brain and look into the way it can support the curriculum.

情報メディアの活用

有吉 末充

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

司書教諭資格を取得しようとしている学生を対象に、学校図書館における多様な情報メディアの特性とその活用方法を習得できることをめざす。

【到達目標】

学校図書館における様々な情報メディアの特性を理解する。データベースを用いた情報検索スキルを身につける。図書館からの情報発信の方法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報メディアに関する知識を習得するだけでなく、様々な情報メディアを実際に活用できるように演習を行い、スキルを身に付けることを目指す。授業の予定は **Hoppii** の「お知らせ」と資格課程学習支援システム **HULiC** で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と授業支援システム「HULiC」の説明
2	情報メディアの特性	学校図書館と情報メディア
3	情報化社会と学校図書館	学校教育の情報化、情報リテラシー
4	学校図書館メディアの種類と特性	学校図書館で取り扱うメディアの種類と特性の理解
5	デジタルメディア	デジタルメディアの特性、コンピュータの基礎知識
6	インターネットの基礎	インターネットで使われる基本的技術（IP アドレス、DNS、パケット通信など）
7	データベースの基礎	データベースの基礎と Web 検索のテクニック
8	情報検索演習（1）	新聞データベース等を使った情報検索演習
9	情報検索演習（2）	インターネットを使った情報検索演習
10	情報検索演習（3）	その他のデータベースを使った情報検索演習
11	情報倫理	著作権をはじめとする知的財産制度
12	情報表現演習（1）	学校ホームページからの情報発信
13	情報表現演習（2）	学校ホームページ作成演習映像メディアの特性と活用
14	図書館からの情報発信	図書館からの情報発信プランの制作と発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料提示・連絡・課題提出には、図書館司書課程専用の授業支援システム「HULiC」を用いる。 <http://lc.i.hosei.ac.jp/>

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて資料を配布。

【参考書】

講義の中で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席状況を含む） 30%

小レポート（授業中に課題を数回出す予定） 40%

期末レポート 30%

レポートは「HULiC」へアップロードして提出する。

【学生の意見等からの気づき】

授業目標の明示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

授業用コンピュータを使用する。

【その他の重要事項】

情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

We learn how to utilize information, media, and technology in school libraries.

学校経営と学校図書館

松田 ユリ子

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館の本質的な意義に迫る。まずは学校教育における学校図書館の位置づけを、法律・制度・歴史・学習理論などの面から考察する。その上で学校図書館運営の実際について、事例を豊富に交えながら概観し、受講者とともに理想的な学校図書館のあり方を探る。

【到達目標】

講義の内容を踏まえて、受講生が理想の学校図書館像を明確に捉え、他者に説明できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する

翌週までに講師からのコメントを受け取り、指定された時間にやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをオンラインでディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のすすめ方と最初の課題を支援システム上で各自確認する。
第 2 回	学校図書館の意義	教科書の第 1 章～第 5 章を熟読し、課題を提出する
第 3 回	学校図書館の歴史と制度	教科書の第 6 章～第 8 章を熟読し、課題を提出する
第 4 回	学校図書館法	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
第 5 回	学校図書館の歴史と制度	教科書の第 6 章～第 8 章を熟読し、課題を提出する
第 6 回	学校図書館専門職	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
第 7 回	学校図書館のサービス	教科書の第 10 章を熟読し、課題を提出する
第 8 回	学校図書館のサービス	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
第 9 回	学校図書館における教育活動	教科書の第 11 章を熟読し、課題を提出する
第 10 回	学校図書館における教育活動	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
第 11 回	学校図書館の設計とマネジメント	教科書の第 12 章から 14 章を熟読し、課題を提出する。
第 12 回	学校図書館の設計とマネジメント／まとめ／最終レポート提示	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。最終レポートを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に示すこと。

【テキスト（教科書）】

中村百合子編著『学校経営と学校図書館（司書教諭テキストシリーズ II・1）』樹村房、2015

【参考書】

金沢みどり編著『学校司書の役割と活動：学校図書館の活性化の視点から』学文社、2017

全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携：理論と実践』改訂版、悠光堂、2017

野口武悟、前田稔編著『学校経営と学校図書館』改訂新版、放送大学教育振興会、2017

堀川照代編著『学校図書館ガイドライン』活用ハンドブック 解説編、悠光堂、2018

【成績評価の方法と基準】

各レポートの提出が必須である。レポート 60 %（各レポート 10 % づつ）、最終レポート 40 % の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

課題を出すタイミングを的確にする

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要だが、準備できない場合は相談すること

【Outline and objectives】

Students will articulate the history, values, legal and foundational principles of the school library profession.

To provide a broad understanding of the field of school library, and facilitate the exploration of the rich possibilities of practice in the field.

PHL200CA

倫理学 A

齋藤 範

サブタイトル：倫理学 I

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【教職】受講生が主として教職に就くことを前提とし、「自己と他者」をめぐってテーマをケーススタディとして示しながら、倫理学の基礎となる考え方や諸問題について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、倫理学が扱う諸問題や基盤となる学説や具体的な考え方について正確に理解し、広い視野のもと、現代社会における倫理的諸課題について自ら主体的に考察し、そのうえで自分の考えを論理的かつ適切に表現する能力を養うことを目標とする。具体的には、生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉など、人間としての生き方に直接関係の深い倫理的諸課題を、他者と共に生きる自らの課題として考察を深めるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業開始日は 5 月 6 日で、授業は Google Classroom を使い、録音付きのスライド教材の視聴という「オンデマンド配信型」で行います。Google Classroom 入室のための「クラスコード」は今後学習支援システムでお知らせします。この授業では、倫理学の基本的な構図と主要な学説を、基礎的概念の解説を通して概説し、倫理学が何を問題とし、またどのような方法を用いて議論と考察を展開するか、講義する。変化の激しい現代社会においては人々の倫理的判断も多様化し、人間としての在り方や生き方が日々問われている。そうしたなか、この授業では、自己、他者、文化、宗教、家族、地域社会、国際社会、自然環境にかかわる具体的な事例をとりあげながら、主権者として、また、良識ある公民として、めざすべき社会や民主政治の在り方について主体的に考察できるよう講義する。授業回によっては発言を求めたり、リアクションペーパーを利用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	倫理学の基本的構図①	課題と方法について
3	倫理学の基本的構図②	考察と実践について
4	倫理学の基本的構図③	事例と判断について
5	倫理学の基本的構図④	幸福や利益について
6	倫理学の主要な学説①	功利主義の基礎
7	倫理学の主要な学説②	功利主義の展開
8	倫理学の主要な学説③	義務論の基礎
9	倫理学の主要な学説④	義務論の展開
10	現代社会の倫理学①	社会と公共をめぐる諸問題について
11	現代社会の倫理学②	国際社会をめぐる諸問題について
12	現代社会の倫理学③	環境をめぐる諸問題について
13	現代社会の倫理学④	自己と他者をめぐる諸問題について
14	復習と試験	教育における倫理学の意味の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとったノートや、内容を思い返しながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録する。また、授業で紹介する参考文献などを必要に応じて参照し、理解を深める。さらに、現代社会において具体的にどのような倫理問題がどのようなかたちで議論されているか、新聞等のメディアを通じて情報を収集し、考察する。特に「教育」に関する問題には敏感に反応すること。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要する。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する予定です。具体的な方法と基準は、授業開始日以降、決まり次第学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

主として PowerPoint による講義を予定しているが、クラス状況によっては映像メディアや文献を利用し、倫理的な問題について議論することもある。いずれにしても、積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】

In this lecture, students acquire basic knowledge about ethics and learn ethics concerning various problems of modern society.

PHL200CA

倫理学 B

齋藤 範

サブタイトル：倫理学Ⅱ

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【教職】受講生が主として教職に就くことを前提とし、「生命・健康・医療・教育」に関わる問題をテーマとしながら、倫理的思考や背景となる事実問題について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、倫理学が扱う諸問題や基盤となる学説や具体的な考え方について正確に理解し、広い視野のもと、現代社会における倫理的諸課題について自ら主体的に考察し、そのうえで自分の考えを論理的かつ適切に表現する能力を養うことを目標とする。具体的には、生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉など、人間としての生き方に直接関係の深い倫理的諸課題を、他者と共に生きる自らの課題として考察を深めるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、生命をめぐる倫理学の基本的な構図と主要な学説を、基礎的な概念の解説を通して講義する。変化の激しい現代社会において、とりわけ生命をめぐる人生観や死生観は複雑に多様化し、人間としての在り方や生き方が日々問われている。そうしたなか、この授業では、生命、医療、技術、健康、家族、宗教、そして人生観と死生観にかかわる具体的な事例をとりあげながら、主権者として、また、良識ある公民として、めざすべき人間の生き方と生命の在り方について主体的に考察できるよう講義する。授業回によっては発言を求めたり、リアクションペーパーを利用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	生命倫理学の基礎①	課題と方法について
3	生命倫理学の基礎②	考察と実践について
4	死生観をめぐる倫理①	現代の生と死をめぐる
5	死生観をめぐる倫理②	脳死と臓器移植について
6	死生観をめぐる倫理③	尊厳死と安楽死について
7	医療と技術をめぐる倫理①	現代の社会と病をめぐる
8	医療と技術をめぐる倫理②	遺伝子と医療について
9	医療と技術をめぐる倫理③	家族と生殖について
10	生命と誕生と家族をめぐる倫理①	現代社会と出生をめぐる
11	生命と誕生と家族をめぐる倫理②	妊娠中絶について
12	生命と誕生と家族をめぐる倫理③	生命と人格の問題について
13	障害と福祉をめぐる生命の倫理について	障害学の展開
14	復習と試験	教育における倫理学の意味の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとったノートや、内容を思い返しながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録する。また、授業で紹介する参考文献などを必要に応じて参照し、理解を深める。さらに、現代社会において具体的にどのような倫理問題がどのようなかたちで議論されているか、新聞等のメディアを通じて情報を収集し、考察する。特に「教育」に関する問題には敏感に反応すること。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要する。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）と期末試験（40 %）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

主として PowerPoint による講義を予定しているが、クラスの状況によっては映像メディアや文献を利用し、倫理的な問題について議論することもある。いずれにしても、積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】

In this lecture, students acquire basic knowledge about ethics and learn ethics concerning various problems of modern society.

PHL200CA

哲学 A

齋藤 範

サブタイトル：哲学 I

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【教職】受講生が教職に就くことを前提とし、「世界とは何か」という問題を中心に据えながら、哲学および思想文化の基本的な問題や概念や考え方について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、哲学の基本的な問題や概念について正確に理解し、現代のさまざまな哲学的課題について自ら主体的に考察し、さらにその考えを論理的かつ適切に表現する能力や態度を養うことを目標とする。具体的には、人間観や世界観を先哲に学び、それらを自分とのかかわりにおいて捉え、自ら思索しつつ形成できるようになるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業開始日は 5 月 6 日で、授業は Google Classroom を使い、録音付きのスライド教材の視聴という「オンデマンド配信型」で行います。Google Classroom 入室のための「クラスコード」は今後学習支援システムでお知らせします。この授業では、古代から近世までの哲学と思想文化全般について時代を追って解説し、哲学が何を問題とし、またどのような概念を用いて思考を展開してきたか、講義する。過去のそれぞれ哲学は、一方では各々の時代背景や社会情勢に固有な特殊性を有しつつも、他方ではどんな時代や社会にも通底し、現代においても十分参照する価値のある普遍性を有している。この授業では、そうした特殊性と普遍性の両方を広く視野に入れながら、世界観や人間観に関してこれまでどのような議論や考察がなされ、また現代においてもなされつつあるか、概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	哲学の草創期と初期自然学	古代ギリシアとソクラテス以前の哲学者たち
3	アテナイ古典哲学①	哲学者ソクラテス
4	アテナイ古典哲学②	プラトンの哲学
5	アテナイ古典哲学③	アリストテレスの哲学
6	ヘレニズム期の哲学①	キュニコス派・エピクロス派の哲学
7	ヘレニズム期の哲学②	ストア派・懐疑派の哲学
8	ローマ帝政期の哲学	新プラトン派の哲学
9	ユダヤ・キリスト教の思想	宗教思想と哲学
10	中世の哲学①	教父哲学とスコラ哲学
11	中世の哲学②	神学と哲学・普遍論争
12	ルネサンス期の哲学①	宗教や文化や芸術をめぐる新しい思想
13	ルネサンス期の哲学②	フィチーノやクザヌスらの新しい人間観と世界観
14	復習と試験	総括として教育における哲学の意義の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとったノートや、内容を思い返しながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録する。授業で配布する資料や、紹介する参考文献を自ら読み、自ら考察して理解を深める。特に「教育」という観点を常に意識しながら学習するとよい。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要する。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する予定です。具体的な方法と基準は、授業開始日より、決まり次第学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

主として PowerPoint による講義を予定しているが、クラスの状況によっては映像メディアや文献を利用し、哲学的な問題について議論することもある。いずれにしても、積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】

In this lecture, students acquire the basic knowledge about philosophy, and consider philosophically about human beings and the world.

PHL200CA

哲学B

齋藤 範

サブタイトル：哲学Ⅱ

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【教職】受講生が主として教職に就くことを前提とし、「人間（あるいは「私」）とは何か」という問題を中心に据えながら、哲学および思想文化の基本的な問題や概念や考え方について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、哲学の基本的な問題や概念について正確に理解し、現代のさまざまな哲学的課題について自ら主体的に考察し、さらにその考えを論理的かつ適切に表現する能力や態度を養うことを目標とする。具体的には、人間観や世界観を先哲に学び、それらを自分とのかかわりにおいて捉え、自ら思索しつつ形成できるようになるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、近代から現代までの哲学と思想文化全般について解説し、哲学が何を問題とし、またどのような概念を用いて思考を展開してきたか、講義する。近代以降の哲学は、科学を初めとする他学問や社会状況の変化とより緊密に連携・連動し、これらはそのまま現代の人間、社会、世界をめぐる諸問題として、いまなお活発に考察と議論がなされている。この授業では、これらの哲学的問題を現代を生きる自らの課題として引き受け、さらに多様化する現代哲学・現代思想に学びながら、共に考察しつつ講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	近代哲学の課題	哲学と科学
3	大陸合理論の哲学①	デカルト
4	大陸合理論の哲学②	スピノザ、ライプニッツ
5	イギリス経験論の哲学①	ロック、バークリ
6	イギリス経験論の哲学②	ヒューム
7	ドイツ観念論の哲学①	カント
8	ドイツ観念論の哲学②	ヘーゲル
9	生の哲学	ニーチェ
10	実存主義の哲学	キルケゴール、サルトル
11	現代哲学の諸相①	精神分析と言語学
12	現代哲学の諸相②	現象学と身体論
13	現代哲学の諸相③	構造主義以降
14	復習と試験	総括として教育における哲学の意義の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとったノートを、内容を思い返しながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録する。授業で配布する資料や、紹介する参考文献を自ら読み、自ら考察して理解を深める。特に「教育」という観点を常に意識しながら学習するとなおよい。これらの授業時間外学習には4時間ほど要する。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）と期末試験（40%）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

主として PowerPoint による講義を予定しているが、クラスの状況によっては映像メディアや文献を利用し、哲学的な問題について議論することもある。いずれにしても、積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】

In this lecture, students acquire the basic knowledge about philosophy, and consider philosophically about human beings and the world.

HIS200CA

日本史 A

岩橋 清美

サブタイトル：日本史Ⅰ

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史の調べ方、歴史的なものの見方や考え方を養うことをめざす。教科書の記述のもとになった学説を取り上げ、関連史料を読み解きながら、日本史の大きな流れを把握するとともに、歴史を学ぶ意義を考える。

【到達目標】

日本史に関する基礎的な知識と歴史学の方法論を身につける。具体的には、先行研究や関連文献・史料を読み解きながら歴史像を構築する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、原始・古代から近現代にいたる歴史の展開を、政治史を中心としながら、国際環境や地理的条件などに関連づけながら講義する。各時代の特色とその変遷に総合的な考察を通じて日本の伝統形成過程を考える。授業は講義を中心に進め、基本的な知識の習得につとめるとともに、近年の日本史研究の成果も紹介し、より専門的な事柄についても学ぶ。史料や文献の調べ方、読み方、および文獻・史料に基づいて歴史像を構築する力を養うために、授業中に、適宜、史料を提示する。

本授業の開始日は２０２０年４月２７日（月）です。授業は学習支援システムを使って行います。
本授業を履修する学生は、２０２０年４月２７日（月）に学習支援システムを必ず確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	本授業のガイダンス・日本列島への人類の到来	気候変動／旧石器人の生活／縄文人の生活
2	弥生時代から古墳時代へ	弥生時代の始期／水田稲作と金属器／巨大古墳の出現
3	律令国家の成立と展開	乙巳の変と諸政策／白村江の戦い／戸籍と軍団制
4	摂関政治と地方の争乱	対外関係の変化／摂関政治／東国の自立の伝統／西国武士の特色
5	鎌倉幕府と中世国家	東国国家／幕府と朝廷／承久の乱／中世的枠組みの成立／モンゴルの来襲
6	織豊政権	検地と刀狩／惣無事令／秀吉の対外政策
7	東アジアと近世社会	幕藩体制／長崎貿易／朝鮮と琉球・蝦夷
8	近世社会の変容	三大改革の捉え方／自然災害と復興／地域社会の自立
9	近代国家の成立	憲法制定と国会開設／日清戦争と三国干渉／日露戦争
10	第一次世界大戦と日本	大正政変／政党政治の成立／ワシントン体制と協調外交
11	満州事変からアジア太平洋戦争へ	満州事変／軍部の台頭／日中戦争／戦局の拡大
12	占領から国際社会への復帰	占領政策／サンフランシスコ平和条約／55年体制／デタント期の政治と外交
13	** * * * *	** * * *
14	** * * * * *	** * * *

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①レポートの作成。

②『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(文部科学省)と高等学校の日本史の教科書の内容をよく読んで確認しておくこと。

③授業中に提示した参考文献に目を通しておくこと。

④図書館や博物館などを利用して史料を収集・文献の調査などを行い、理解を深め、教案（授業案）作成にむけた準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、授業支援システムに資料と授業の内容（講義内容をまとめたもの）をアップしておきますので、必ず確認して下さい。

【参考書】

『日本の時代史』全 30 巻（吉川弘文館）、『日本史講座』全 10 巻（東京大学出版会）に目を通し、日本史の大きな流れを把握し、知識を深めることを心がけてください。

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

レポート 70%

課題提出 30%

レポートは授業支援システムを通じて提出する。

学習支援システムを通じて、課題を3～4回ほど発表しますので、それを期日までに学習支援システムに提出して下さい。

本授業は授業支援システムを利用して進めていきます。

【学生の意見等からの気づき】

日本史の専門用語や学説について、できるだけ、わかりやすい説明を行います。
基本的な文献の探し方、教案（授業案）作成に必要な文献についても紹介します。

【その他の重要事項】

興味・関心をもって授業にのぞんでほしいと思います。

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（文部科学省）に読んでおくこと。

【Outline and objectives】

We aim to acquire the knowledge necessary for teaching Japanese history at junior and senior high schools, how to investigate history, and how to view and think about historical things. Taking up the theory underlying textbook descriptions, reading the related historical materials, grasping the big flow of Japanese history and thinking about the significance of learning history.

HIS200CA

日本史 B

岩橋 清美

サブタイトル：日本史Ⅱ

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は中学校社会科・高等学校地理歴史の教員を目指すにあたり、必要な専門的知識の習得と諸資料を用いて歴史像を構築する力を養うことを目的とする。あわせて、歴史史的なものの見方や考え方を身につけることを目標とする。

【到達目標】

日本史に関する基礎的な知識と歴史学の方法論を身につける。
先行論文や諸資料などを読み解きながら歴史像を構築できるようになる。
大きな歴史の流れを理解すると同時に、各時代の特徴をとらえられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、原始・古代から近現代にいたる歴史の展開を、社会経済史を中心にしながら国際環境や地理的条件などと関連づけながら考える。各時代の特色とその変遷の統合的な考察を通じて、日本の伝統文化の形成過程を学ぶ。教科書記述の基盤となっている学説の紹介、さらには近年の新しい研究成果も取り上げ、一つの歴史事実に対して様々な見方や考え方があることを述べる。また、文献史料だけではなく、絵画や地図・写真などを用いて文化財・文化遺産に関する理解を深める。
授業は基本的には講義形式で行うが、適宜、史料等を提示して、履修生に意見を求める。文献・史料の調べ方・読み方を身につけるため、レポートを作成してもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本文化の黎明とヤマト政権	旧石器の遊動生活／縄文・弥生人の生活と信仰／巨大古墳と副葬品／倭の五王の外交
2	律令国家と天平文化	律令と官僚制／初期荘園／遣唐使と正倉院宝物
3	摂関政治と国風文化	国際関係の変化／国文学の発達／浄土の信仰／荘園の発達
4	鎌倉幕府の成立と展開	武士の生活／中世百姓の地位と権利／定期市と見世棚／鎌倉仏教
5	室町幕府と東アジア	南北朝統一／勘合貿易／婆娑羅の文化／北山文化と東山文化
6	戦国の争乱と天下統一	戦国大名の地域政策／鉄砲と木綿／南蛮貿易／桃山文化
7	江戸幕府の成立と構造	幕府と藩／村と百姓／三都の発展／農業生産の上昇と諸産業の発展
8	江戸幕府の展開と動揺	自然災害と飢饉／藩士と百姓の帰属意識／開国と幕末の動乱
9	明治国家の成立	国民国家の形成／文明開化と殖産興業／方言と標準語
10	戦間期の日本	大戦景気と恐慌／都市と農村／関東大震災／大衆文化
11	満州事変と日中戦争	満州事変の経緯／国際連盟脱退／軍部の台頭
12	第二次世界大戦	戦争拡大の理由／戦局の展開／戦時下の生活と文化／開拓民の生活
13	占領期の日本	民主化政策／日本国憲法の制定／生活の混乱と闇市
14	高度経済成長の時代	朝鮮特需と経済復興／高度経済成長／大衆消費社会の出現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①レポートの作成
- ②『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（文部科学省）を読んでおくこと。
- ③授業時に提示した参考文献に目を通しておくこと。
- ④図書館や博物館などを利用して史料の収集・文献の調査などを行い、理解を深め、教案（授業案）作成に向けた準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリントを配布する。

【参考書】

『日本の時代史』全 30 巻（吉川弘文館）、『日本史講座』第 10 巻（東京大学出版会）に目を通し、日本史の基礎知識の習得を心がけてください。

【成績評価の方法と基準】

試験・レポート・平常点を総合して評価します。
試験（60 %）レポート（30 %）平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

歴史学の専門用語や研究史等で難解なものがあるので、わかりやすく説明します。
文献や史料の探し方について指導し、教案（授業案）作成にむけた知識とスキルの習得をめざします。

【その他の重要事項】

興味・関心を持って授業に出席してほしいと思います。『高等学校学習指導要領 地理歴史編』（文部科学省）に目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】

We aim to acquire the knowledge necessary for teaching Japanese history at junior and senior high schools, how to investigate history, and how to view and think about historical things. Taking up the theory underlying textbook descriptions, reading the related historical materials, grasping the big flow of Japanese history and thinking about the significance of learning history.

HIS200CA

世界史 A

鈴木 茂

サブタイトル：外国史 I

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中高生の「世界史離れ」、あるいは「世界史嫌い」が叫ばれて久しい。この授業では、中学校、高等学校の授業を念頭に置いて、いかに世界の歴史への関心を引き出すか、その方法について、受講者とともに考えます。また、史料（文字史料、映像）を用いた世界史教育の方法について、史料の読解のスキルや映像を利用する際に必要となるメディアリテラシーについて、実践的に学ぶ。今学期は「世界史における隷属」を軸として、古代～近代までの社会経済の変化、その政治的背景を中心に学びます。

【到達目標】

この授業は、高校新学習指導要領を踏まえ、歴史的思考力を養う歴史教育の方法を身につけることを目標とする。具体的には、（１）歴史への関心を引き出す方法、（２）史料を使った歴史教育の方法、（３）世界史の大きな流れの理解、の３点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【新型コロナウイルス感染拡大への措置】さしあたり第１回～第４回はオンデマンド授業を行います。全体の授業回数が減りますので、映画鑑賞を取りやめます。「国民の創生」は今のところ日本語字幕版を YouTube で鑑賞できるようですが、課題とするかは状況を見て早めに判断します。あとはオンデマンドの授業資料での指示、および授業支援システムの「お知らせ」をご覧ください。

A. 通常のの授業は次のように行います。（１）授業の冒頭の２０分程度を使い、予め配布しておいた資料に基づき、指定する課題について小レポートを作成してもらいます。（２）次に、作成したレポートについて、何人かの出席者に報告してもらい、出席者の間で意見交換してもらいます（２０分程度）。（３）講義。（４）授業についてのリアクションペーパー作成。授業終了時に、作成した小レポート、リアクションペーパーを提出してもらいます。

B. 映像鑑賞の回は、コメントをリアクションペーパーとして授業内に提出してもらいます。鑑賞した次の回に講評し、討論の時間を取ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と進め方。
第 2 回	変わる歴史教育	戦後学制改革と「社会科 世界史」の誕生。新学習指導要領の理念。
第 3 回	史料から考える世界史	史料を使った世界史教育の方法。
第 4 回	世界史における「隷属」	地中海世界、東アジア、南北アメリカの比較
第 5 回	地中海世界の成立と古代の奴隷制度。	共和政ローマにおける奴隷制社会と奴隷反乱。
第 6 回	映画鑑賞	映画「スパルタカス」(1960) 鑑賞。
第 7 回	近世のグローバル化	世界システム論の観点から大航海時代の意味を考える。
第 8 回	大西洋世界の成立	ラテンアメリカ、カリブ海地域の植民地化。
第 9 回	南北アメリカの黒人奴隷制度	大西洋奴隷貿易の歴史的意味。
第 10 回	大西洋世界における北アメリカ	「南北戦争・再建」の時代。
第 11 回	映画鑑賞 2	マーガレット・ミッチェルと「南部史観」と映画「国民の創生」(1914) 鑑賞。
第 12 回	歴史教育とメディアリテラシー	「南北戦争の南部史観」から歴史における記憶を考える
第 13 回	近代アジアをめぐる人の移動	日本からの海外移住と多文化化する現代日本社会
第 14 回	まとめ	隷属から見た世界史からわかること

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定する参考文献を読むこと。
高校時代に使用した「世界史」の教科書を通読しておくとい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

歴史学研究会編『史料から考える世界史 20 講』岩波書店、2014 年。この本の中から 3 章を選び、小レポートを提出してもらいます。できる限り、自分で購入して、レポートの課題とならなかった章も読んでください。教職希望者は、必ず購入して熟読してください。

【参考書】

各自の高等学校世界史教科書。
本田創造『新版 アメリカ黒人の歴史』岩波新書、1991 年。
土井正興『新版 スパルタカスの蜂起』青木書店、1988 年。
弓削達『地中海世界とローマ帝国』岩波書店、1977 年。
弓削達『ローマ帝国とキリスト教』河出書房新社、1989 年。
マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』全 5 冊、新潮文庫、1977 年。
岩波文庫版あり。
本田創造『新版 アメリカ黒人の歴史』岩波新書、1991 年。
青木富貴子『「風とともに去りぬ」のアメリカ』岩波新書、1996 年。
ナタリー・Z・デーヴィス（中條献訳）『歴史叙述としての映画』岩波書店、2007 年。
森谷公俊『学生をやる気にさせる歴史の授業』青木書店、2008 年。
津野田興一『世界史読書案内』岩波書店、2010 年。
桃木至朗『わかる歴史 面白い歴史 役に立つ歴史』大阪大学出版会、2009 年。
大学の歴史教育を考える会『わかる・身につく 歴史学の学び方』大月書店、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

(1) 毎回の授業時に実施する課題、および映画評 60% (2) 教科書の中から指定した 3 本の論考に関する小レポート 30% (3) 平常点 (授業内での発表等、授業への参加度) 10%。なお、期末試験は実施しません。

【学生の意見等からの気づき】

高校で「世界史 B」を履修していない受講者にもできるだけ配慮して授業を進めます。世界史の基本的な知識が足りないと感じている履修者は、高校「世界史 A」で使用了教科書を読み直しておくことを勧めます。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

(1) この授業は教職資格取得を目指す学生を対象としていますが、大学で世界史を学び直したいと考える受講者も歓迎します。
(2) 出席を重視します。教育実習、介護実習、対外試合等、正当な理由で欠席する場合は、できるだけ事前に連絡してください。やむを得ない場合は、事後でも構いません。
(3) 秋学期開講の「世界史 B」も履修することを勧めます。
(4) 期末試験は実施しません。毎回の小レポート、リアクションペーパー、授業に取り組む姿勢を中心に成績評価を行います。したがって、代理出席は試験の不正行為と同等と見なします。

【Outline and objectives】

Since several years ago, Junior and senior high school students' "aversion to the world history" became apparent. In this class, we will think about how to draw out the interest to the world history together. Students will acquire skills of reading and comprehension of historical materials and the media literacy using movies. In this class, we will think about world history focusing various types of "servitude" in the history.

HIS200CA

世界史 B

鈴木 茂

サブタイトル：外国史Ⅱ

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中高生の「世界史離れ」、あるいは「世界史嫌い」が叫ばれて久しい。この授業では、中学校、高等学校の授業を念頭に置いて、いかに世界の歴史への関心を引き出すか、その方法について、受講者とともに考えます。また、史料（文字史料、映像）を用いた世界史教育の方法について、史料の読解のスキルや映像を利用する際に必要となるメディアリテラシーについて、実践的に学ぶ。今学期は近代世界の成立を軸として、「地理上の発見」以降のヨーロッパの膨張と世界各地の政治、社会経済の変化、思想・文化の創造を中心に学びます。

【到達目標】

この授業は、高校新学習指導要領を踏まえ、歴史的思考力を養う歴史教育の方法を身につけることを目標とする。具体的には、（１）歴史への関心を引き出す方法、（２）史料を使った歴史教育の方法、（３）世界史の大きな流れの理解、の３点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

A. 通常の授業は次のように行います。（１）授業の冒頭の 20 分程度を使い、予め配布しておいた資料に基づき、指定する課題について小レポートを作成してもらいます。（２）次に、作成したレポートについて、何人かの出席者に報告してもらい、出席者の間で意見交換してもらいます（20 分程度）。（３）講義。（４）授業についてのリアクションペーパー作成。授業終了時に、作成した小レポート、リアクションペーパーを提出してもらいます。
B. 映像鑑賞の回は、コメントをリアクションペーパーとして授業内に提出してもらいます。鑑賞した次の回に講評し、討論の時間を取ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と進め方。
第 2 回	「社会化世界史」の誕生と新学習指導要領	高校「世界史 A」と「世界史 B」の考え方の異同、新学習指導要領の「歴史的思考力」。
第 3 回	「グローバルヒストリー」とは何か	新しい世界史の枠組み。
第 4 回	歴史としての 20 世紀	「短い 20 世紀」と「長い 20 世紀」
第 5 回	映画鑑賞	映画「ここで君たちを待っている」鑑賞。
第 6 回	ルネサンス・宗教改革・地理上の発見 1	モア『ユートピア』から「地理上の発見」の影響を考える。
第 7 回	「ルネサンス・宗教改革・地理上の発見 2	デフォー、スウィフトの旅から近代世界成立を考える。
第 8 回	産業革命と大西洋交易圏	スミス『国富論』から見える産業革命直前の世界。
第 9 回	近代資本主義とカリブ海	「周辺」の視点から、近代世界を捉え直す。
第 10 回	世界システムと日本	「世界システム」から見る日本近世・近代。
第 11 回	植民地主義の歴史をどう考えるか	フランツ・ファノン『黒い皮膚と白い仮面』を読む。
第 12 回	映画鑑賞	映画「マルチニクの少年」（1983）。
第 13 回	一国史観と世界史	大塚久雄「横倒しの世界史」の問題点。
第 14 回	まとめ	「近代世界」は 21 世紀に何を残したか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校で使用した「世界史」教科書をじっくり読んでおくことを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

歴史学研究会編『史料から考える世界史 20 講』岩波書店、2014 年。教職希望者は、必ず自分で購入して、レポートの課題の章だけでなく全巻読んでください。

【参考書】

各自の高等学校世界史教科書。
小川幸司『世界史との対話』全 3 巻、地歴社、2013 年。
川北稔『砂糖の世界史』岩波ジュニア新書（1996 年）。
大阪大学歴史教育研究会編『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014 年。
木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波新書、2014 年。
川北稔『砂糖の世界史』岩波ジュニア新書（1996 年）。

村井章介『海から見た戦国時代』ちくま新書（1997 年）。

森谷公俊『学生をやる気にさせる歴史の授業』青木書店、2008 年。

津野田興一『世界史読書案内』岩波書店、2010 年。

桃木至朗『わかる歴史 面白い歴史 役に立つ歴史』大阪大学出版会、2009 年。
大学の歴史教育を考える会『わかる・身につく 歴史学の学び方』大月書店、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

（１）毎回の授業時に作成する小レポート、映画評、およびリアクションペーパー 60%（２）教科書の中から指定した 3 本の論考に関する小レポート 30%（３）平常点（授業内での発表等、授業への参加度）10%。なお、期末試験は実施しません。

【学生の意見等からの気づき】

高校で「世界史 B」を履修していない履修者にも配慮して、授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

（１）この授業は教職資格取得を目指す学生を対象としていますが、大学で世界史を学び直したいと考える受講者も歓迎します。
（２）出席を重視します。教育実習、介護実習、対外試合等、正当な理由で欠席する場合は、できるだけ事前に連絡してください。やむを得ない場合は、事後でも構いません。
（３）春学期開講の「世界史 A」も履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

Since several years ago, Junior and senior high school students' "aversion to the world history" became apparent. In this class, we will think about how to draw out the interest to the world history together. Students will acquire skills of reading and comprehension of historical materials and the media literacy using movies. In this class, we will think about world history focusing on the formation of modern world since "expansion" of Western Europe.

HUG200CA

人文地理学 I

濱田 博之

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では中学社会および高校地歴の地理的分野を学ぶにあたって基本となる、地図に関する知識や技能の習得を目標とする。

【到達目標】

中学校や高等学校における「地理」は地図の利用が前提とされており、指導にあたっては地図に関する深い造詣が求められる。本講義では読図など地図の利用に関する技能のみならず、地図利用の意義を歴史的な経緯を含め深く学んでいく。さらに統計資料などをもとに地図を作成し地域理解に利用する手法や、情報通信ネットワークや GIS（地理情報システム）等の活用が重視されている現状から、これらの技術的な概説と利用についても触れていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は 5 月 8 日（11:10～）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

現在のところ授業は zoom などによる映像配信を基本とし、毎回の授業の最後にはまとめとしてリアクションペーパーのオンラインでの提出を求める計画である。同時間に参加できなかった学生に対しては録画での視聴を求め不利益とはならないよう配慮したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	中学校・高等学校における地理の指導と地図活用の現状
2	方向感覚と空間認知	人間や他の動物における原始的なナビゲーション
3	地図の原理 I	緯度経度や時差など地球上での位置決定における基礎事項
4	地図の原理 II	球体である地球を平面で表現するのに用いられる地図投影法
5	地図の歴史 I	古代ギリシア〜ルネサンス期の主にヨーロッパにおける地球観と地図
6	地図の歴史 II	仏教の影響を強く受けた室町時代以前の日本における地球観と地図
7	地図の歴史 III	主に江戸幕府による地図作成事業と庶民の間に流布した地図
8	測量技術の発展 I	三角測量に代表される近現代の測量とそれにより作成された地図
9	測量技術の発展 II	航空機や人工衛星を用いることで正確さを増した現代の測量技術
10	地図とコンピュータ I	GIS に関する技術的な概説と実生活における利用
11	地図とコンピュータ II	主に教育現場における GIS 活用の利点と実践事例
12	国家の領域 I	地図を用いることで決定される国家の領域と現代の国際関係
13	国家の領域 II	日本の国土の範囲と周辺に存在する領土問題
14	まとめと試験	これまでの内容の復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めない。毎講義ごとに前回の復習を簡単に行うが、理解を深めるためにも、各自が積極的に復習をしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

地図の歴史については、織田武雄『地図の歴史 世界編・日本編』講談社現代新書などが参考となる。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（50%）、学期末の試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

教育現場等における地図やコンピュータの活用について、実際の事例を紹介していきたい。

【Outline and objectives】

In this lecture, we learn about the history of map and knowled of the map. It is a basic part in learning geography at junior high school and senior high school. Map is the most basic field of geography and it is a field to be learned whenever teaching geography as faculty.

HUG200CA

人文地理学Ⅱ

松永 和子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科学に視点をおきつつ、地理学独自の視点を大切にします。世界的な課題である環境・人口・食糧問題の原因を説き、その解決方法を探ります。身につけた内容を教育実践できることを目標とします。

【到達目標】

地図・統計の読み方、利用についての知識を身につけて、地理学の基本的知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を中心に、一部映像資料やプリント作業で構成します。
毎回アクションペーパーの提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	現代世界と地理	講義の方針と 世界的課題を地理学の視点で学ぶ意義について
第 2 回	地球の大きさと地図（1）	経度・緯度、時差などについて グローバル化する世界を考える
第 3 回	地球の大きさと地図（2）	メルカトル図法と正距方位図法の違いと利用について
第 4 回	災害と人間 東日本大震災	震災被害の実態と復興過程について ハザードマップの活用
第 5 回	地域からの断絶	人権侵害である「ハンセン病」を地域からの隔絶という観点で考える
第 6 回	環境問題 世界遺産について	世界自然遺産登録と保護のあり方について考える
第 7 回	沖縄と現代	米軍基地と戦後沖縄の経済について考える
第 8 回	アジアと日本 多文化共生について	地域にねざす在日コリアンとの共生を、大阪から学ぶ
第 9 回	世界のエネルギー政策	エネルギー資源の分布・利用 原発の「安全神話」の背景とこれからのエネルギーについて
第 10 回	領土と国境	国境の島に生きる人々を中心に、領土問題を考える
第 11 回	世界の食糧問題	世界の食糧生産、食料自給率、セカンドハーベストについて
第 12 回	森は海の恋人 漁師とともに山に木を植える	山の植林と海の環境に関わる気仙沼の漁師の取り組みを中心に、林業・水産業の将来を考える
第 13 回	武器ではなく命の水を	乾燥地域に緑の耕地を蘇らせた故中村哲医師の仕事
第 14 回	まとめと試験	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

都市と農村の地域をテーマとして歩く。地図帳を繰り返し読み、判読できる態勢を作る。地理・歴史・公民など社会科関連の学習会への積極的参加を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高校地図帳を必ず持参してほしい。
毎回テーマに関するプリントを配布します。

【参考書】

『新版 地理授業で使いたい教材資料』（地教研編・清水書院）
『第 5 版 授業のための世界地理』（地教研編・古今書院）
『第 5 版 授業のための日本地理』（地教研編・古今書院）
『地理を楽しく！子どもを引きつける 60 のポイント』（地教研編・高文研）
『知るほど面白くなる日本地理』（地教研編・日本実業出版社）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50 %
小テスト・レポート課題・平常点（毎回の出席確認と授業への取組を重視します） 50 %
学期末に試験を実施します。
教育（介護）実習以外への出席配慮はしません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

DVD と VTR を使用します。

【その他の重要事項】

授業計画はあくまでも予定であり、変更もあります。
教育実習、介護実習の予定を事前に知らせてください。

【Outline and objectives】

While keeping a point of view on social science, we value our own viewpoint of geography. We will explain the causes of environmental problems, global population and food problems, and explore how to solve them. I will aim to be able to teach and practice what I learned.

GEO200CA

自然地理学 I

原 芳生

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校社会科地理的分野・高等学校地理歴史科の教科内容のうち、自然地理学分野の、気候学的内容についての基礎的な考え方・知識を学ぶ。それらの考え方や知識は教材研究のために必要なものである。中・高の教科書の記述内容や指導要領にも触れながら、気候学の基礎知識をもとに、気候環境（大気現象）と人間生活の関わりについて考察する。

【到達目標】

地理の教科内容の自然地理学的内容のうち地球的規模の環境問題とも関わる「気候学」的項目を主たるテーマとする。自然地理学的な基礎が理解でき、人文地理学的及び地誌学的内容をより一層を理解しやすくなり、地理分野全体の教科内容を深めることができるようになる。中学校や高等学校の地理分野において示されている気候学の教科内容を科学的に理解し、それを活かした教材研究ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義は教科書を用い、その内容の説明と補足を教員が行っていく授業形式となる。毎授業、簡単なアクションペーパーの提出を求める。オンライン講義のかたちで始めるため、第1回目の講義（4月24日）は支援システムに参考文献と講義内容の板書した資料を提示する。2回目以降は教科書の内容をまとめて解説することになるであろう。その後、オンライン授業が続けば、何回か教科書の内容をまとめたレポートを支援システムより提出してもらうことを考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	地理学、自然地理学とは。自然環境の捉え方。	地理学及び自然地理学の学問体系と社会科教育の中の自然地理学。惑星としての地球でおこる自然現象の捉え方。
2	気候要素と気候因子。	大気現象を自然地理学的に捉える方法。
3	気候表現の方法。	気候データ利用と気候景観の利用。
4	地球のエネルギー収支と大気大循環。	地球的な規模での大気現象とその成因。
5	世界の気候区分①。	中等社会科教育での気候区分。経験的な気候区分の方法。
6	世界の気候区分②。	総観的な気候区分の方法。
7	日本の気候の特徴①。	時間的な変化から見た日本の気候。
8	日本の気候の特徴②。	空間的な特性から見た日本の気候。
9	気象災害。	気象災害の素因と誘因。防災教育の視点。
10	地域スケールの気候①。	都市気候の成因と特徴。
11	地域スケールの気候②。	局地循環による局地気象。
12	気候の変化や変動。	自然史の中での大気の変化。
13	地球的規模の環境問題。	地球の温暖化や酸性雨、オゾン層の破壊。
14	今学期の総復習と試験。	まとめと試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義内容については前の回の終わりに指示するので、その範囲について教科書を読んでくる。わからない語句などは、指示された辞書・事典などの参考文献で、まず自分で調べてみる。質問があればその都度明らかにする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『自然地理学概論』 高橋日出男・小泉武栄編著、朝倉書店、2008、¥3,300。

【参考書】

「環境気候学」 吉野正敏・福岡義隆編著、東京大学出版会。
「最新気象百科」 ドナルド・アーレン、丸善。
「日本の気候景観」 増補版 青山高義他編、古今書院。
「日本気候百科」 日下博幸・藤部文昭編、丸善出版。
「気象・防災情報の見方と使い方」 平井信行、第一法規。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となるので成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容は使用テキストの内容以外にも拡げ、興味のある受講生には自分で進んで調べるきっかけにしたい。

【その他の重要事項】

授業の展開によっては多少の授業計画の変更はある。

【Outline and objectives】

This course is prepared for the students who want to get the teacher's license. The lecture aims to understand the field of physical geography which involved in the contents of Geography Field in Social Studies at Junior High School and Geography and History subject at Senior High School in Japan. Especially, in this semester, the contents of the lectures are focused on the field of climatology. By the climatological point of view and knowledges, students will be able to consider about the relationship between natural environment and human activities. In other words, this is the main topic for geographical studies of Social Studies in Japanese High School.

GEO200CA

自然地理学Ⅱ

原 芳生

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校社会科地理的分野・高等学校地歴科地理の教科内容のうち、自然地理学分野の、地形学的内容についての基礎的な考え方・知識を学ぶ。それらの考え方や知識は地理の教材研究のために重要かつ必要なものである。中・高の教科書の記述内容や指導要領にも触れながら、地球表面の形態である地形の成因を考察することによって、環境要素としての地形、生活の舞台である土地の性質を理解し、地震や洪水などの自然災害ともかかわる「地形学」的項目を取り上げ、その理解を深め、人間生活との関わりを考える。

【到達目標】

地理の教科内容のうち、自然地理学的内容のうち地形学の教科内容について理解を深めることを主なテーマとする。自然地理学の基礎が理解できると、人文地理学・地誌学の内容をより一層理解することができるようになる。中学校社会科地理的分野・高等学校地歴科地理の教科内容として示されている、地形学的内容について理解し、それを活かした教材研究ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義は教科書を使用し、その内容の解説と補足の説明を教員が行っていく講義形式をとる。講義終了後に、毎時間簡単なリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	地理学、自然地理学とは。	地理学及び自然地理学の学問的体系。自然環境の捉え方。社会科教育の中の自然地理・地形の内容。
2	地形の基本的な捉え方①	地形の認識と営力論的な地形の考え方。
3	地形の基本的な捉え方②	自然史から考える地形の発達論的考え方。
4	大地形の形成。	大地形の形成とプレートテクトニクス。
5	日本列島の成り立ち。	日本列島の山と平地の地形発達史。
6	内的営力による地形形成。	火山活動、断層地形、活断層。断層と地震災害。
7	山地と丘陵。	組織地形や斜面形成。
8	気候変化と地形。	気候地形の基本的な考え方。
9	氷河・周氷河地形。	世界各地の氷河・周氷河地形の性質。
10	平野・台地の形成①	沖積平野の地形的特徴。
11	平野・台地の形成②	台地の発達とその特徴の利用。
12	地形の改変。	人工的な地形の改変とその問題点
13	地形災害	地形変化が発生する自然災害。社会科の中での防災教育。
14	本学期的総復習と試験。	まとめと試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義内容については前の回の終わりに指示するので、その範囲について教科書を読んでくる。わからない語句などは、指示された辞書・事典などの参考文献で、まず自分で調べてみる。質問があればその都度明らかにする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『自然地理学概論』 高橋日出男・小泉武栄編著、朝倉書店、2008、¥3,300。

【参考書】

『東京の自然史』 貝塚爽平著、講談社学術文庫
 『技術者のための地形学入門』 熊木洋太他編著、山海堂
 『日本地誌 1・日本総論 I（自然編）』 中村和郎他編、朝倉書店
 『地形がわかるフィールド図鑑』 青木正博他著、誠文堂新光社
 『写真と図で見る地形学』 貝塚爽平他編、東京大学出版会
 『日本列島 100 万年史』 山崎晴雄・久保純子、講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（80％）と平常点＜毎回提出してもらう、その日の講義内容に関する質問のリアクションペーパー＞（20％）を総合して評価する。

*毎時間出席の確認をするので、各種実習や就職活動等で欠席する場合は、必ず書面で届を提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容は使用テキストの内容以外にも広げ、興味のある受講生には自分で進んで調べるきっかけにして欲しい。

【その他の重要事項】

授業の展開や、社会の現象によっては多少の授業計画の変更はある。

【Outline and objectives】

This course is prepared for the students who want to get the teacher's license. The lecture aims to understand the field of physical geography which involved in the contents of Geography Field in Social Studies at Junior High School and Geography and History subject at Senior High School in Japan. Especially, in this semester, the contents of the lectures are focused on the field of geomorphology, study of landforms. By the geomorphological point of view and knowledges, students will be able to consider about the relationship natural environment and human activities. In other words, this is the main topic for geographical studies of Social Studies in Japanese High School.

GEO200CA

地誌 I

松永 和子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科学に視点をおきつつ、世界の諸地域の課題を地域の日線と理解することを目的とします。国際理解のためにも諸地域の文化、社会、経済、政治状況を多角的に学習します。

【到達目標】

地理学の基礎的知識を学び、地図や統計から地域の特徴を読み取る方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を中心に、一部映像資料やプリント作業などで構成します。毎回アクションペーパーの提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	現代世界と地理 講義の方針、地域区分	地理学と地理教育、地域区分などについての概論
第 2 回	環境問題Ⅰ 東日本大震災からみる災害・防災・減災	大震災と人間生活との関連について、学校でどのように生徒の命を守るかを考える
第 3 回	環境問題Ⅱ 水俣病 60 年	戦後最大の環境破壊（公害）問題から、産業発展と人権について考える
第 4 回	アフリカ 南北問題について	エチオピアのコーヒー生産と消費の関係から南北問題を考える
第 5 回	アジアⅠ イスラム世界を知る	アラブ地域とイスラム世界を文化圏としてとらえ、国際理解のあり方を考える
第 6 回	アジアⅡ 中国	経済大国に向かう中国の経済拡大と地域格差について考える
第 7 回	ヨーロッパⅠ ヨーロッパの国々	自然環境、宗教と言語からみるヨーロッパ文化について
第 8 回	ヨーロッパⅡ 拡大する EU	ヨーロッパ統一の歴史と、岐路に立つヨーロッパの現状について EU を軸に考える
第 9 回	アメリカⅠ 多民族国家	移民の拡大で成長してきたアメリカの歴史と「公民権運動」について
第 10 回	アメリカⅡ 農業大国アメリカ	世界をリードするアメリカの農牧業と世界の食糧分配について
第 11 回	ラテンアメリカ 日系移民	熱帯林が減少するブラジルで、環境保全の先頭に立ち持続可能な農業をめざす日系移民について
第 12 回	オセアニア	水没の危機に瀕する太平洋の島々
第 13 回	高地・極地	ヒマラヤに住む人々・グリーンランドに住む人々の暮らしについて
第 14 回	沖縄の歴史と現代 まとめと試験	離島の暮らしと歴史（沖縄戦から学ぶ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

都市と農村の地域をテーマとして歩く。地図帳を繰り返し読み、判読できる態勢を作る。地理・歴史・公民など社会科学関連の学習会への積極的参加を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高校地図帳を必ず持参すること。
毎回テーマに関するプリントを配布します。

【参考書】

『新版 地理授業で使いたい教材資料』（地教研編・清水書院）
『第 5 版 授業のための世界地理』（地教研編・古今書院）
『第 5 版 授業のための日本地理』（地教研編・古今書院）
『知るほど面白くなる日本地理』（地教研編・日本実業出版社）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50 %
小テスト・レポート課題・平常点（毎回の出席確認と授業への取組を重視します） 50 %
学期末に授業内試験を実施します。
教育（介護）実習以外の出席配慮はしません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

DVD・VTR を使用します。

【その他の重要事項】

授業計画はあくまでも予定であり、変更もあります。
教育実習、介護実習の予定を事前に知らせてください。

【Outline and objectives】

It aims to understand the problems of various regions of the world from the viewpoint of the region while keeping a point of view on social science. In order to understand international understanding, we will learn culture, society, economy and political situation of various regions diversely.

GEO200CA

地誌Ⅱ

濱田 博之

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地の生活や文化、自然環境などの多様性についての理解を深める。

【到達目標】

世界各地の文化的・自然的景観についてリアリティをもってその多様性を把握する。さらにはそこで発生している諸課題について、いかなる背景によってもたらされたものかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、授業の前半では対象となる地域・テーマに焦点をあてたドキュメンタリー番組などの映像を紹介し、各地で起きている問題について具体的なイメージを把握する。その上で後半では、それらの問題が引き起こされた背景について解説する。まとめとして毎回の授業においてリアクションペーパーの提出を求める。

下記の授業計画は、時事的な状況をみて適宜変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	中等教育における地誌と映像教材の意義
2	東アジアⅠ	中国における少子高齢化の進展と一人っ子政策の廃止
3	東アジアⅡ	韓国における経済格差の拡大と若者を中心とした失業率の悪化
4	東南アジア	ASEAN の結成とインドシナ半島における経済交流の拡大
5	南アジア	インドにおけるカースト問題の現代的課題
6	西アジア・北アフリカ	サウジアラビアにおけるイスラム文化
7	ヨーロッパⅠ	ギリシアにおける中東からの難民流入と住民対立
8	ヨーロッパⅡ	ドイツにおけるベルリンの壁崩壊と東西冷戦の終結
9	ロシアと周辺諸国	ロシアにおける大統領制の背景
10	北アメリカⅠ	アメリカにおける中南米からの子供移民の増加
11	北アメリカⅡ	アメリカにおける IT 企業の増加と経済格差の拡大
12	南アメリカ	ブラジルにおけるサッカーワールドカップの開催と経済格差の拡大
13	アフリカ	エジプトにおけるナイル川流域大規模開発と遺跡の保護
14	オセアニア	パラルにおける海面上昇への対応と移民の増加

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は求めないが、普段から新聞やニュースなどに注意し、世界の社会情勢についての認識を深めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

各国・各地域についての詳細については朝倉書店「世界地誌シリーズ」（現在 11 冊刊行）原書房「地図で見るハンドブックシリーズ」（現在 17 冊刊行）などが参考となる。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（50%）、学期末のレポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

時事的な社会情勢の理解の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱っていくきたい。

【Outline and objectives】

We will deepen our understanding of diversity such as life, culture and natural environment around the world.

COT300CB

データベースと情報システム

坂本 憲昭

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 情報システム概観を学ぶとともに、データベースの役割を理解します。例えば図書館システムにおけるデータの流れやデータベースシステムを取り上げます。(2) 正規化を学び、基礎的なリレーショナルデータベースを設計します。そのために正規化を学びます。(3) Access を使用した実習により、データベースを管理・運用する技術を学びます。あわせて SQL 言語を習得します。(4) 実社会において構築されたデータベースの情報が社会に及ぼす影響と課題を理解し、情報セキュリティの確保、利用者の個人認証や暗号化などの技術的内容や情報セキュリティポリシーの策定など情報セキュリティを高めるための様々な方法を習得します。

【到達目標】

情報を蓄積し管理・検索するためのデータベースの概念を理解し、データベースを中心とした情報システムに関する知識を習得します。情報システムの設計・管理分野などの基本知識を習得し、基礎的なデータベースを設計できるようになります。問題解決においてデータベースを活用しているビジネス事例を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パソコン実習室にて、講義のほかに、実際に演習しながらデータベースの設計および構築をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報システム概観	情報システム概観、インフラとして社会におよぼす影響、セキュリティについて
第 2 回	情報システムにおけるデータベースの位置付け	情報システムとデータベースについて、情報の保護について
第 3 回	データベースの基本構成	実際のデータベースの紹介と要求定義から詳細設計について
第 4 回	データベース製品とデータセンター	リレーショナルデータベースの実際の商品とデータセンターの紹介
第 5 回	正規化を学ぶ	統計データとデータファイルの違い、正規化の必要性
第 6 回	正規化の実習	表計算ソフトを用いて正規化手法を実習
第 7 回	リレーショナルデータベースの構成	データベースの設計演習
第 8 回	SQL 言語	SQL 言語とは
第 9 回	SQL 言語の実習	SQL に関する演習問題
第 10 回	データベースファイルの構築	表計算ソフトウェアによるデータファイルの設計とデータ入力
第 11 回	データベースシステムの作成実習、基礎構築	Access の操作方法
第 12 回	データベースシステムの詳細設計	Access による SQL 演習
第 13 回	データベースシステムの構築実習	Access によるデータベースの作成
第 14 回	総合演習問題	振り返りと総合演習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料の予習、演習問題の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せずに担当教員による自作資料を配布します。

【参考書】

西村めぐみ、Access ではじめるデータベース入門、技術評論社、2017
奥野幹也、理論から学ぶデータベース実践入門～リレーショナルモデルによる効率的な SQL、技術評論社、2015

【成績評価の方法と基準】

実習の成果物を 100 点満点 (100%) として、60 点以上で合格になります。

【学生の意見等からの気づき】

データベース作成の実習制作規模を縮小し、理解度を高めます。

【その他の重要事項】

2020.4.13 追記

学習支援システムを使用して授業を行います。詳細は学習支援システムに掲載したガイダンスファイルを参照してください。

【Outline and objectives】

This course aims at understanding information technology centered around information system. You will acquire basic knowledge such as an outline of an information system, information technology system, and important points on planning, which is essential in this modern society.

- Understand the overview of the information system and the role of the database. For instance, we will discuss data flow and database system in a library system.
- Learn normalization and design a basic relational database.
- Gain skills to manage and operate a database through practices using Access. Learn the SQL language as well.
- Understand the power and problems of database information which is built in real society, and find various means to ensure information security, such as personal authentication, encryption of users, and its formulation.

FRI300CB

情報メディアと画像処理

坂本 憲昭

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 講義により、情報メディア・情報デザイン・表現メディア・情報コンテンツが社会や情報産業に果たしている役割を理解します。(2) 実習により、アナログデータをデジタル化することからネット配信まで情報コンテンツ等に関する知識と技術を習得します。(3) 知的財産権の学習により、著作権、音や映像、形状などが法律により保護されていることを学びます。(4) 実際のビジネス事例を研究します。情報を表現し伝達する業種について、時間を越えて情報を伝達するビジネスモデル、空間を超えて情報を伝達するビジネスモデルを紹介します。

【到達目標】

情報メディアに関する知識と技術を習得し、情報コンテンツの制作・発信を適切に行うために必要となる特性等を理解します。実習により実際に適切かつ効果的に活用できるように、実践的な能力を身に付けます。また、個人情報の保護や著作権に関する内容等、情報コンテンツを取り扱う際に、技術や情報に関する守秘義務や法令遵守などの社会的な責任や知的財産権を習得します。最近の関連する情報産業のビジネスモデルを把握します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パソコン実習室にて講義のほか、フリーソフトや表計算ソフトなどにより、実際に操作演習しながら画像データの処理をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報メディアの概観	情報メディアが社会や情報産業に果たしている役割
第 2 回	情報メディアの種類	情報メディアのほか、デザイン・表現メディア・コンテンツなど関係する種類と特性
第 3 回	情報メディアのハードウェアに関する基礎知識	情報メディアを活用するためにデータ収集、分析、発信などにおいて基礎的な知識
第 4 回	関連する最近のビジネスモデル	新しい情報産業、インターネットを活用したビジネスモデルの事例紹介
第 5 回	知的財産権	知的財産権について最近のマルチメディアに関する保護の学習と事例紹介
第 6 回	マルチメディアに関する定石	ポスター、新聞、雑誌などのデザイン、Web デザインの定石について
第 7 回	デジタルデータの取り扱い	音声や映像アナログデータのデジタル化実習
第 8 回	音声編集	音声編集の実習
第 9 回	映像編集	映像編集の実習
第 10 回	音声・映像と Web との連携実習	情報コンテンツの各種アプリケーションソフトウェアの紹介と基本的な操作実習
第 11 回	情報コンテンツの実習	情報コンテンツのアプリケーションソフトウェアによる実習課題の取り組み
第 12 回	デジタルデータの保存および運用管理について	デジタルデータの配信について実習
第 13 回	演習問題	情報コンテンツに関する資格試験の紹介、サンプル問題の取り組み
第 14 回	情報産業の事例紹介	振り返りと情報産業の事例紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料の予習と実習問題の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せずに担当教員による自作資料を配布します。

【参考書】

ウェブデザイン技能検定、色彩検定、CG クリエイター検定、マルチメディア検定、デジタル技術検定など「デザイン・クリエイティブ」に関する資格試験の教材、実施協会・団体のホームページにある練習問題など

【成績評価の方法と基準】

実習および課題の成果物を 100 点満点 (100%) として 60 点以上で合格になります。

【学生の意見等からの気づき】

Excel の操作に戸惑うことがないように適宜復習をしながら実習を進めます。

【Outline and objectives】

This course aims at understanding information technology centered around information system. You will acquire basic knowledge such as an outline of an information system, information technology system, and important points on planning, which is essential in this modern society.

- Understand the role of information media, information design, expressive media, and information contents in society or information industry in lectures.
- Gain knowledge and skills on information contents from the digitization of analog data to online distribution in practical lessons.
- Understand that laws protect copyright, sounds, images, shapes, and so on by studying intellectual property rights.
- Study actual cases in business. From industries that express and communicate information, we discuss some business models which convey information beyond time and space.

FRI300CB

情報と職業 A

坂本 憲昭

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校生の情報産業に対する職業観について指導できる教養を身に付けることを目的とします。さらに、昨年 50%を超える大学への進学率を鑑みると、情報産業に興味ある高校生は就業する前に大学学部等の選択が求められます。そのため大学の履修内容、すなわち、情報システムに関する教養を習得し、情報産業とのつながりを理解しておく必要があります。A ではそのために必要な知識習得が中心です。

【到達目標】

高校生の情報に関する職業感や概要、関連する進路指導などのアドバイスができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

適宜 PC 実習室においてインターネットによる情報収集や調査、レポート作成をおこないます。情報関係の技術は栄枯盛衰が早く、常に最新の情報や知識が必要なため、情報過多の時代において自らが情報収集して整理して、まとめるスキルが要求されます。そのために解説後、自分で調査してレポートにするプロセスで授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	高校情報教科書内容	指導要領から必要な関連知識を把握する
第 2 回	官公庁による情報戦略	戦略、政令や施策などを理解する、情報通信白書の概要を理解する
第 3 回	情報処理試験の概要	国家資格から民間による試験まで一覧と内容を知る
第 4 回	情報分野の知的財産権	知的財産権のなかから情報システムに関する内容を学ぶ
第 5 回	情報倫理	情報漏えいの原因や取り組み事例を学ぶ
第 6 回	前半のまとめと演習問題	演習問題に取り組む、理解が不足な内容について補足をする
第 7 回	前半のまとめとレポート発表	これまでに取り組んだレポートのまとめを発表する
第 8 回	大学理系学部の履修内容	各大学のシラバスを参照して履修内容を調べる、職業訓練の内容を知る
第 9 回	インターネットに関する技術の基礎知識	インターネットの仕組みなどを学ぶ
第 10 回	情報システム技術の基礎知識	情報システムがインターネットを利用する際の技術的背景を学ぶ
第 11 回	ビジネスインダストリアルアナログデータ収集	情報システムに用いられる技術について IoT のための機器を中心に学ぶ
第 12 回	ビジネスインダストリアルネット活用	情報システムに用いられる技術について ネット活用を中心に学ぶ
第 13 回	後半のまとめと演習問題	演習問題に取り組む、理解が不足な内容について補足をする
第 14 回	後半のまとめと成果発表	これまでに取り組んだ内容の成果発表をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の授業内容は自宅等で課題等に取り組めます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布します。

【参考書】

情報と職業 第 2 版、SCC、2018
 情報通信白書、総務省公式 Web サイト
 TECH ビジネス大全（日経 BP ムック）日経 ×TECH、2019
 TECH ビジネス最新線（日経 BP ムック）日経 ×TECH、2019

【成績評価の方法と基準】

レポート（合計 100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

PC 実習室を使用します。必要に応じて USB メモリなどを準備してください。

【その他の重要事項】

2020.4.13 追記

学習支援システムを使用して授業を行います。詳細は学習支援システムに掲載したガイダンスファイルを参照してください。

2020.4.14 追記

念のため確認ですが、情報免許取得のための科目で卒業単位にはなりません。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to acquire a culture that can teach high school students about the occupational view of the information industry. Furthermore, considering the college enrollment rate of more than 50% these days, high school students who are interested in the information industry are required to select a college or university before starting work. Therefore, it is necessary to acquire the contents of university courses, that is, the education related to information systems, and to understand the connection with the information industry.

FRI300CB

情報と職業B

坂本 憲昭

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校生の情報産業に対する職業観について指導できる教養を身に付けることを目的とします。さらに、昨年 50%を超える大学への進学率を鑑みると、情報産業に興味ある高校生は就業する前に大学学部等の選択が求められます。そのため大学の履修内容、すなわち、情報システムに関する教養を習得し、情報産業とのつながりを理解しておく必要があります。B では多様化する情報産業を知るとともに、具体的な事例研究が中心です。

【到達目標】

- (1) システム導入における構築までの流れを理解している。
- (2) 情報システムの仕組みを説明できる。具体的にデータの流れ、データ入出力に用いられるデバイスなどの基礎知識がある。
- (3) 情報産業の事例を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

適宜 PC 実習室においてインターネットによる情報収集や調査、レポート作成をおこないます。情報関係の技術は栄枯盛衰が早く、常に最新の情報や知識が必要なため、情報過多の時代において自らが情報収集して整理して、まとめるスキルが要求されます。そのために解説後、自分で調査してレポートにするプロセスで授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報システム設計	システム設計の流れを理解する、RFPとは、見積り工数手法を学ぶ
2	教育機関における情報インフラ	身近な事例として大学における情報インフラを学ぶ
3	ユニバーサルデザイン	Web サイトなどのユニバーサルデザインを知る
4	デジタルマーケティング概観	デジタルマーケティング手法の概観
5	デジタルマーケティング事例	デジタルマーケティングの事例
6	デジタルマーケティング調査	事例のレポート作成
7	IT を活用した業務改革としてビッグデータ利用を中心に解説	ビッグデータの取扱、商品としてのビッグデータ事例について学ぶ
8	IT を活用した業務改革として人工知能を中心に解説	人工知能の基礎と活用事例を学ぶ
9	IT を活用した業務改革として RPA 解説	RPA 活用事例を学ぶ
10	IT を活用した業務改革として介護および農業分野	介護テック、農業テック
11	IT を活用した業務改革として空港および流通分野	空港テック、流通テック
12	システム障害	事例研究（規模や影響、損失額など）
13	後半のまとめとして確認問題	授業内アンケートおよび確認問題により理解が不足な内容について補足をする
14	後半のまとめとして成果発表	これまでに取り組んだレポートを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の授業内容については課題等に取り組みます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布します。

【参考書】

情報と職業 第 2 版、SCC、2018
 システムを「外注」するときに読む本、ダイヤモンド社、2017
 TECH ビジネス大全（日経 BP ムック）日経 ×TECH、2019
 TECH ビジネス最前線（日経 BP ムック）日経 ×TECH、2019

【成績評価の方法と基準】

レポート（合計 100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

PC 実習室を使用します。必要に応じて USB メモリなどを準備してください。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to acquire a culture that can teach high school students about the occupational view of the information industry. Furthermore, considering the college enrollment rate of more than 50% these days, high school students who are interested in the information industry are required to select a college or university before starting work. Therefore, it is necessary to acquire the contents of university courses, that is, the education related to information systems, and to understand the connection with the information industry.

教職入門

綿貫 公平

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「学校のいま」と、子どもたちとともに生きる「教師の困難と希望」、これからの学校と教育の課題、教職の意義及び教員の役割を学び合い、語り合い、その在り方を問う。

※授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

【到達目標】

教職を将来の選択肢の一つとして考え、教職の意義、教員の役割、職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

今なお「競い合う」学校と教育は強化され、その政策動向は社会的に大きな論争の課題となっている。当時、就学前だった（であろう）学生のみならず、可能な限り具体的に「教職」の現状と課題を考えること。みなさん一人ひとりがテーマを持って「教職」に一步踏み出す、近づいていただくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

＊教職（学校の仕事）をめぐる現状と課題、意義と役割を、講師の体験や具体的事例を通して伝え、時にグループワークも加えて、実践的に考察する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	自己紹介…教職の意義及び教員の役割を考える。4年間の学びをイメージする。
②	教師の一日	教職の困難と希望「学校は、子どもたちは変わったのか」
③	教科指導	ともに学ぶ「勉強は何のために？」
④	生徒指導	ともに学ぶ「うざい、きもい、むかつく、死ね！」N子との出会い。
⑤	生徒指導	ともに学ぶ「登校拒否・不登校」の問題から考えること。
⑥	生徒指導	教職の課題「いじめ」問題から考えること（1）生徒会活動
⑦	生徒指導	教職の課題「いじめ」問題から考えること（2）「道徳」の時間に
⑧	生徒指導	学校給食：「食の教科書としての…」
⑨	特別活動	学校行事をつくる
⑩	特別活動	「部活動」をどうする？！
⑪	進路指導	「キャリア教育」心がけたこと～つなぎ・つなげる・つながら学校と地域
⑫	進路指導	「キャリア教育」教師としての転換点：同時代・同世代を生きること
⑬	進路指導	「キャリア教育」文学や映像作品に学ぶ「人間的成長」
⑭	まとめ、期末テスト	今日の学校と教育の課題（今日の課題整理、あらためて教員の職務内容など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分自身の「小学校／中学校／高校時代」を、その時々・事前のアンケート等で思い起こしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。内容に即して毎回検討資料を配布する。

【参考書】

全国進路指導研究会編『働くことを学ぶ』（明石書店／2006）、吉野源三郎『君たちはどう生きるか』（岩波文庫）、朝日新聞教育チーム『いま、先生は』（岩波書店／2011）、学習指導要領、生徒指導提要（文部科学省※ PDF でダウンロード可能）他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業への参加姿勢、授業への貢献（RP 用紙）70%、「中間レポート」及び講義のまとめとしての「期末考査」30%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

＊学生の指摘もあり、「グループワーク」の機会を増やし、今日の課題なテーマも取り上げた。引き続き、教職を目指す学生らしい、目的意識的な参加を求めたい。

【学生が準備すべき機器他】

DVD、ビデオ等。

【その他の重要事項】

講師は、2012年まで都内公立中学校に35年間勤務した。定年退職後は、子ども・若者の支援を主とする NP O法人理事兼若者支援事業スタッフとして、引きこもっていた若者の就労に向けた活動をおこなっている。また、全国進路指導研究会の世話人として、学校現場に資する研究活動を続けている。2007～2014年：法政大学キャリアデザイン学部で兼任講師「キャリア教育／学校論」を担当した。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教職入門

綿貫 公平

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「学校のいま」と、子どもたちとともに生きる「教師の困難と希望」、これからの学校と教育の課題、教職の意義及び教員の役割を学び合い、語り合い、その在り方を問う。

※授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

【到達目標】

教職を将来の選択肢の一つとして考え、教職の意義、教員の役割、職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

今なお「競い合う」学校と教育は強化され、その政策動向は社会的に大きな論争の課題となっている。当時、就学前だった（であろう）学生のみならず、可能な限り具体的に「教職」の現状と課題を考えること。みなさん一人ひとりがテーマを持って「教職」に一步踏み出す、近づいていただくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

＊教職（学校の仕事）をめぐる現状と課題、意義と役割を、講師の体験や具体的事例を通して伝え、時にグループワークも加えて、実践的に考察する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	自己紹介…教職の意義及び教員の役割を考える。4年間の学びをイメージする。
②	教師の一日	教職の困難と希望「学校は、子どもたちは変わったのか」
③	教科指導	ともに学ぶ「勉強は何のために？」
④	生徒指導	ともに学ぶ「うざい、きもい、むかつく、死ね！」N子との出会い。
⑤	生徒指導	ともに学ぶ「登校拒否・不登校」の問題から考えること。
⑥	生徒指導	教職の課題「いじめ」問題から考えること（1）生徒会活動
⑦	生徒指導	教職の課題「いじめ」問題から考えること（2）「道徳」の時間に
⑧	生徒指導	学校給食：「食の教科書としての…」
⑨	特別活動	学校行事をつくる
⑩	特別活動	「部活動」をどうする？！
⑪	進路指導	「キャリア教育」心がけたこと～つなぎ・つなげる・つながら学校と地域
⑫	進路指導	「キャリア教育」教師としての転換点：同時代・同世代を生きること
⑬	進路指導	「キャリア教育」文学や映像作品に学ぶ「人間的成長」
⑭	まとめ、期末テスト	今日の学校と教育の課題（今日の課題整理、あらためて教員の職務内容など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分自身の「小学校／中学校／高校時代」を、その時々・事前のアンケート等で思い起こしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。内容に即して毎回検討資料を配布する。

【参考書】

全国進路指導研究会編『働くことを学ぶ』（明石書店／2006）、吉野源三郎『君たちはどう生きるか』（岩波文庫）、朝日新聞教育チーム『いま、先生は』（岩波書店／2011）、学習指導要領、生徒指導提要（文部科学省※ PDFでダウンロード可能）他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業への参加姿勢、授業への貢献（RP用紙）70％、「中間レポート」及び講義のまとめとしての「期末考査」30％で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

＊学生の指摘もあり、「グループワーク」の機会を増やし、今日の課題なテーマも取り上げた。引き続き、教職を目指す学生らしい、目的意識的な参加を求めたい。

【学生が準備すべき機器他】

DVD、ビデオ等。

【その他の重要事項】

講師は、2012年まで都内公立中学校に35年間勤務した。定年退職後は、子ども・若者の支援を主とする NP O法人理事兼若者支援事業スタッフとして、引きこもっていた若者の就労に向けた活動をおこなっている。また、全国進路指導研究会の世話人として、学校現場に資する研究活動を行っている。2007～2014年：法政大学キャリアデザイン学部で兼任講師「キャリア教育／学校論」を担当した。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教育原理

御園生 純

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育や学びの場面は学校の中に限られたものではありません。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していくことを通じて、「関係性の中で学ぶ」ということへの理解を深めていきたい。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去のエデュケーションの概念を理解することをねらいとしています。

【到達目標】

教育の理論的・歴史的背景の理解
学校の制度的な位置づけ
教員の職制と専門性の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学校・教育にかかわる時節的なテーマを取り上げ、それらについてのさまざまな主張や意見の紹介を骨子にした講義形式の授業スタイルです。また、受講者からの意見もその都度メールなどを利用して集約し、授業中に紹介していきます。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を歴史・現在あわせて紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していきます。その際、とりわけ近年注目されている学習理論や教育関係理論、また学校を取り巻く新しい課題「情報化・国際化・人権・環境」といった時節的なテーマを題材にし、それらの現象の理解を深めていきます。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去のエデュケーションの概念を理解することもねらいとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教育とはなにか？ その起源と学校～近代以前	学校の始まり～ヒマ人の集うところ？
2	教育とはなにか？ その起源と学校～近代以降	なぜ学校が必要だったのか？
3	人間の誕生の特質と発達観	子どもとはなにか？ おとなになるということ
4	発達の多様性と教育の課題	発達を保障するための教育の役割
5	教育思想の源流と現在（西洋）古代から中世～近代そして現代	子どもの発見
6	教育思想の源流と現在（日本）近世から近代そして現代	日本の教育の始まりと発展
7	発達の保障と共生の課題 (1)	発達保障論の系譜
8	発達の保障と共生の課題 (2)	発達保障と共生理論
9	学習理論の歴史と現段階—関係性のなかで学ぶ (1)	なぜ初歩から学ぶのか？
10	学習理論の歴史と現段階—関係性のなかで学ぶ (2)	分かち持たれる知性
11	教育関係論の過去と現在—おとなと子どもの関係論	おとなと子どもの境界線
12	教育関係論の過去と現在—発達段階と教育保障	発達論から関係論へ
13	学校教育の機能と役割を問う (1)	学校の相対化
14	学校教育の機能と役割を問う (2)	IT 技術と教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくにありません。授業中に配布するプリント類は重要かもしれませんが、プリントさえ手に入れば授業を受けなくても何とかなる、というものでもありません。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

双方向性を重視し、問題提起型の授業により受講者に考察可能な実際の学校で起こっている教育にかかわる諸問題の解決方法を討議の対象とする。また、講義と同期した **twitter** のハッシュタグ等を利用したりリアルタイムポストなども実施していきたい。

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

教育の制度・経営

荒井 文昭

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 13 日（水曜）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

※以下の計画は変更します。変更する内容は、学習支援システムでお知らせします。

授業計画（100 分 × 14 回）

毎回の授業は、前半を講義、後半をグループディスカッションとリアクションペーパー提出を基本とする予定。

第 1 回目のイントロダクションにて、本授業の具体的なすすめ方、評価の仕方について説明をする。受講希望者は必ず出席すること。

なお、受講者の関心に応じて、シラバスを修正していくことが十分にありうる。

第 1 回：イントロダクション（現代社会と学校改革）

第 2 回：世界の教育改革

第 3 回：憲法・教育基本法

第 4 回：教育行政のしくみ

第 5 回：学習指導要領と教科書制度

第 6 回：教育財政制度と無償化

第 7 回：学校組織の法としくみ

第 8 回：学級経営

第 9 回：学校と教員の評価

第 10 回：教員の成長と同僚性

第 11 回：子どもの人権と学校

第 12 回：学校の危機管理と安全

第 13 回：「チームとしての学校」

第 14 回：地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり

定期試験

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（現代社会と学校改革）	授業の目標・概要・計画・評価ーシラバスに基づき講義内容を説明する。
2	世界の教育改革	子どもの権利や生徒の学校参加を切り口に、世界における動向を概観し、日本の固有性について確認する。
3	憲法・教育基本法	日本国憲法および教育基本法において規定される、教育に関する権利、その権利を保障する諸原則について解説する。
4	教育行政のしくみ	戦後日本における教育制度に規定される教育行政の三原則について概観する。
5	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領の性質及び、各学校における教育課程との関係性について検討する。
6	教育財政制度と無償化	教育の無償性（制）について、関連する教育財政制度から解説する。
7	学校組織の法としくみ	学校組織のあり方に関する法制度から、学校づくりについて考える。
8	学級経営	学級経営、児童・生徒指導、そこにおける教員の役割について考える。
9	学校と教員の評価	学校と教員に対する評価制度の法的根拠と評価を通じた、生徒、保護者や地域住民の学校への参加について説明する。
10	教員の成長と同僚性	教員の力量形成について、教員研修に関わる制度の動向から検討する。
11	子どもの人権と学校	子どもの人権と教員による指導文化、学校文化との関係性について説明する。

12	学校の危機管理と安全	学校で起こる事件・事故について解説する。
13	「チームとしての学校」	学校運営について基本的な仕組みを解説する。
14	地域・家庭・多様な専門家に関わった学校づくり	学校と保護者や地域住民、多様な専門家を含む関係当事者との連携について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定せず、適宜、講義資料を配布する。

【参考書】
市川須美子ほか編著『教育小六法 2020』学陽書房
教育科学研究会編『教育』（月刊誌）旬報社
文部科学省ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、下記の成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。定期試験 70%、レポート 30%。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし。ただし、ネットワークに接続できるノートパソコンやタブレット、またはスマホなどがあれば、それらを積極的に活用することが望ましい。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育原理

御園生 純

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育や学びの場面は学校の中に限られたものではありません。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していくことを通じて、「関係性の中で学ぶ」ということへの理解を深めていきたい。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことを通じて過去のエデュケーションの概念を理解することをねらいとしています。

【到達目標】
教育の理論的・歴史的背景の理解
学校の制度的な位置づけ
教員の職制と専門性の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学校・教育にかかわる時節的なテーマを取り上げ、それらについてのさまざまな主張や意見の紹介を骨子にした講義形式の授業スタイルです。また、受講者からの意見もその都度メールなどを利用して集約し、授業中に紹介していきます。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を歴史・現在あわせて紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していきます。その際、とりわけ近年注目されている学習理論や教育関係理論、また学校を取り巻く新しい課題「情報化・国際化・人権・環境」といった時節的なテーマを題材にし、それらの現象の理解を深めていきます。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことを通じて過去のエデュケーションの概念を理解することもねらいとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
1	教育とはなにか？ その起源と学校～近代以前	学校の始まり～ヒマ人の集うところ？
2	教育とはなにか？ その起源と学校～近代以降	なぜ学校が必要だったのか？
3	人間の誕生の特質と発達観	子どもとはなにか？ おとなになるということ
4	発達の多様性と教育の課題	発達を保証するための教育の役割
5	教育思想の源流と現在（西洋）古代から中世～近代そして現代	子どもの発見
6	教育思想の源流と現在（日本）近世から近代そして現代	日本の教育の始まりと発展
7	発達の保障と共生の課題 (1)	発達保障論の系譜
8	発達の保障と共生の課題 (2)	発達保障と共生理論
9	学習理論の歴史と現段階—関係性のなかで学ぶ (1)	なぜ初歩から学ぶのか？
10	学習理論の歴史と現段階—関係性のなかで学ぶ (2)	分かち持たれる知性
11	教育関係論の過去と現在—おとなと子どもの関係論	おとなと子どもの境界線
12	教育関係論の過去と現在—発達段階と教育保障	発達論から関係論へ
13	学校教育の機能と役割を問う (1)	学校の相対化
14	学校教育の機能と役割を問う (2)	IT 技術と教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
とくにありません。授業中に配布するプリント類は重要かもしれませんが、プリントさえ手に入れば授業を受けなくても何とかなる、というものでもありません。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

双方向性を重視し、問題提起型の授業により受講者に考察可能な実際の学校で起こっている教育にかかわる諸問題の解決方法を討議の対象とする。また、講義と同期した **twitter** のハッシュタグ等を利用したリアルタイムポストなども実施していきたい。

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

教育心理学

安齊 順子

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキストとパソコンを利用した講義、課題によってはグループ学習の形式も取り入れる（例、アンガーマネジメント実習）。リアクションペーパーは毎回提出する。授業の後半はカウンセリングの実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の学習 新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談・心理学・臨床心理学・心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「使える」教育心理学 服部環他著 北樹出版

【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第3版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原 雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版 会沢信彦・安斎順子編著

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70％）、授業への積極的参加（30％）で評価

【学生の意見等からの気づき】

毎回プリントを配布して、授業後の感想をもとにやりとりのある授業を心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

教員はスクールカウンセラーの体験があるためそれについて語る場合がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

安齊 順子

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・ 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・ 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・ 主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達過程並びに特徴を理解する。
- ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキストとパソコンを利用した講義、課題によってはグループ学習の形式も取り入れる（例、アンガーマネジメント実習）。リアクションペーパーは毎回提出する。授業の後半はカウンセリングの実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の学習 新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談・心理学・臨床心理学・心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「使える」教育心理学 服部環他著 北樹出版

【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
 文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
 「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原 雅彦他著
 「教師のたまごのための教育相談」北樹出版 会沢信彦・安斎順子編著

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】

毎回プリントを配布して、授業後の感想をもとにやりとりのある授業を心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

教員はスクールカウンセラーの体験があるためそれについて語る場合がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育相談

沼田 あや子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育相談活動の基礎知識、方法、対人援助のための姿勢を学ぶ

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業はオンライン授業が中心となります。1 回目のガイダンスのみ文書配信でおこないます。

4 月 24 日（金）5 限開始時間に授業支援システムから PDF ファイルを配信するので、まずよく読んでください。2 回目以降はオンライン授業です。配信される講義動画を見て学んでいただき、コメントを提出することで出席とします。学校現場の具体的な事例をもとに、子どもの理解と対処方法を一緒に考えていきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文書によるガイダンス (授業支援システムから 文書を配信します)	授業概要と成績評価方法についての説明。教師がカウンセリングについて学ぶ意味を考える。
2	スクールカウンセリング の実際：問題の見方、対 策の立て方	具体的な相談事例をもとに、学校内外との連携について学ぶ。
3	幼児期、児童期の発達	身体、思考、対人関係の発達など、人間の発達の基礎知識について学ぶ。
4	思春期、青年期の発達	思春期、青年期の心理発達の諸理論を学び、現代の若者理解について考える。
5	発達障害とは	発達障害（自閉症スペクトラム、学習障害、ADHD）の基礎知識について学ぶ。
6	発達障害をもつ子への支 援	発達障害をもつ児童生徒に対して、学校現場での具体的な支援について学ぶ。
7	精神障害と虐待	気分障害、身体表現性障害、統合失調症について学ぶ。また、PTSD の背景にある児童虐待について学ぶ。
8	カウンセリングの諸技法	カウンセリングの理論と技法を知り、話を聴くこと、語ることを体験してみる。
9	不登校	現在の不登校事情とその支援について考える。
10	いじめ	いじめのメカニズムと介入方法について考える。
11	非行・問題行動	非行・少年犯罪とはなにか、その背景、支援について考える。
12	保護者対応	保護者との実際のトラブルを想定して、対応の仕方を学ぶ。
13	教師のストレスと対処方 法	教師自身のストレスマネジメントについて学ぶ。
14	まとめ	自分が教師になったとき、どのような教師でいたいのか、児童生徒とどう向き合うかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する文献、自分の興味のあるトピックに関するニュースや本を積極的に読みましょう。そしてどんなテーマのものでも、自分の感想、自分の考えをもつよう心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、文書もしくは動画の配信をします。

【参考書】

都築学（編）『やさしい心理学』ナカニシヤ出版

文部科学省『学習指導要領』

※その他、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中毎回コメントの提出を求めます。成績評価は学期末 1 回のレポート（60 %）、授業時のコメント（40 %）によりおこないます。コメントやレポートは、正解はあるような出題内容ではありません。自分で考えて自分の言葉で書いているかどうかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

スクールカウンセリングの現場の話題を取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の受講は、できればパソコンが望ましいのですが、スマートフォンでも受講できるような教材にします。

【その他の重要事項】

・「教育相談」は後期にも開講されます。9 月以降、新型コロナウイルスの感染状況が変わり対面授業が再開される可能性もありますので、ほかの授業とのバランスを考慮して、前期後期どちらで履修するかを決めてください。
・履修状況によっては、授業スケジュールが前後する可能性があります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

沼田 あや子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育相談活動の基礎知識、方法、対人援助のための姿勢を学ぶ

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義中心となります。ただし、教育相談においては意見の多様性が大切ですので、ディスカッションもおこないます。学校現場の具体的な事例をもとに、子どもの理解と対処方法を一緒に考えていきましょう。ゲストを招いての講義を1回おこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要と成績評価方法についての説明。教師がカウンセリングについて学ぶ意味を考える。
2	スクールカウンセリングの実践：問題の見方、対策の立て方	具体的な相談事例をもとに、学校内外との連携について学ぶ。
3	幼児期、児童期の発達	身体、思考、対人関係の発達など、人間の発達の基礎知識について学ぶ。
4	思春期、青年期の発達	思春期、青年期の心理発達の諸理論を学び、現代の若者理解について考える。
5	発達障害とは	発達障害（自閉症スペクトラム、学習障害、ADHD）の基礎知識について学ぶ。
6	発達障害をもつ子への支援	発達障害をもつ児童生徒に対して、学校現場での具体的な支援について学ぶ。
7	精神障害と虐待	気分障害、身体表現性障害、統合失調症について学ぶ。また、PTSD の背景にある児童虐待について学ぶ。
8	カウンセリングの諸技法	カウンセリングの理論と技法を知り、話を聴くこと、語ることを体験してみる。
9	グループカウンセリングの諸技法	グループワークの理論と技法を知り、話を聴くこと、語ることを体験してみる。
10	不登校・いじめ	不登校、いじめの現状と支援について考える。
11	非行・問題行動	非行・少年犯罪とはなにか、その背景、支援について考える。
12	若者支援の実践	学校での学習につまずいた若者の多様な背景と支援実践を知る。
13	部活動における支援	スポーツ障害をめぐる心理、身体と心の関係を学び、部活動において児童生徒とどう向き合うか考える。
14	まとめ	自分が教師になったとき、どのような教師でいたいのか、児童生徒とどう向き合うかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する文献、自分の興味のあるトピックに関するニュースや本を積極的に読みましょう。そしてどんなテーマのものでも、自分の感想、自分の考えをもつよう心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用せず、適宜プリントを配布します。

【参考書】

都築学（編）『やさしい心理学』ナカニシヤ出版

文部科学省『学習指導要領』

※その他、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中毎回リアクションペーパーの提出を求めます。成績評価は学期末1回のレポート（60％）、授業時のリアクションペーパー（40％）によりおこないます。レポートとリアクションペーパーは、正解はあるような課題は出しませんが、自分で考えて自分の言葉で書いているかどうかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

スクールカウンセリングの現場の話題、ディスカッションを多く取り入れます。

【その他の重要事項】

ゲスト講義の日程調整のため、授業スケジュールが前後する可能性があります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

道徳教育指導論

村松 灯

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐるのは、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なのか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
①道徳教育の現状と課題について把握する。
②道徳の本質を説明できる。
③道徳教育の歴史について理解する。
④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式とするが、模擬授業やグループワーク等の機会を設ける。また、コメントシートの提出を必須とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	道徳教育を学ぶ意義について	授業の目的や進め方、評価方法についてガイダンスを行い、道徳教育を学ぶ意義を検討する。
2	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領を踏まえて、道徳の教科化とその学習評価について検討する。
3	道徳教育の歴史	戦前・戦後の道徳教育を検討する。
4	心の教育について—学習指導要領における「心の教育」	学習指導要領を踏まえて、「心の教育」について検討する。
5	いのちの教育について—学習指導要領における「いのちの教育」	学習指導要領を踏まえて、「いのちの教育」について検討する。
6	人権教育について—学習指導要領における「人権教育」	学習指導要領を踏まえて、「人権教育」について検討する。
7	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論を踏まえて、道徳性が発達するとはどのようなことかを検討する。
8	悪の体験と子どもの発達	悪の体験から子どもの発達、教育の限界点について検討する。
9	情報モラル	情報モラルについて確認したうえで、情報モラル教育について検討する。
10	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育と道徳教育の重なりとずれを検討する。
11	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型の道徳教育について、その意義と課題を検討する。
12	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案作成のポイントについて検討する。
13	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに、「道徳」の実践例を紹介し、それらについて検討する。
14	全体のふりかえりとまとめ	本講義のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業までに前回の学習内容の復習をする。授業中に提示された資料や参考文献を読み理解を深めるとともに、課題については必ず取り組んだうえで授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016 年）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業におけるコメントシートおよび小テスト（60 %）と達成度テスト（40 %）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

生徒・進路指導論

谷川 由佳

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は 4 月 22 日（資料配信型形式）とする。

4 月および 5 月の当面の間の授業は資料配信型の授業を予定している。

それ以降については、双方向オンライン型の授業を予定しているが、状況をみでの判断となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とガイダンス	授業計画の概要、すすめ方、評価等についての説明とアンケート
2	生徒指導の意義と役割	教育課程における生徒指導の位置付け
3	生徒指導の方法	生徒指導の基本的な考え方、方法
4	生徒指導における集団指導	生活集団と学習集団
5	集団指導の組織的な推進体制	家庭・地域・専門機関等との連携を含む体制のあり方
6	生徒指導における個別指導（暴力行為、いじめ等への対処）	いじめ・暴力問題への生徒指導
7	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	不登校の現在と生徒指導
8	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導における今日的課題と期待される実践
9	進路指導の意義と役割	進路指導の基本的な考え方
10	進路指導の歴史と方法	進路指導の歴史の変遷、方法
11	キャリア教育の意義と役割	学校間接続・学校から仕事への移行とキャリア教育
12	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	若者の進学と労働を踏まえた進路指導・キャリア教育の実践
13	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	進路指導・キャリア教育における専門職・機関との連携、教育の実践
14	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	進路指導・キャリア教育における今日的課題と期待される実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業時にレジュメや資料を配布する。

【参考書】

折出健二編『生活指導：生き方についての生徒指導・進路指導とともに』学文社、2014 年

林尚示・伊藤秀樹編『生徒指導・進路指導 第 2 版:理論と方法』学文社、2018 年

『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法を変更する。具体的な方法については、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業時にリアクションペーパー等の提出を求めることがある。また、その内容は匿名化したうえで授業内で紹介することがある。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

生徒・進路指導論

谷川 由佳

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は 4 月 22 日（資料配信型形式）とする。

4 月および 5 月の当面の間の授業は資料配信型の授業を予定している。

それ以降については、双方向オンライン型の授業を予定しているが、状況をみでの判断となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とガイダンス	授業計画の概要、すすめ方、評価等についての説明とアンケート
2	生徒指導の意義と役割	教育課程における生徒指導の位置付け
3	生徒指導の方法	生徒指導の基本的な考え方、方法
4	生徒指導における集団指導	生活集団と学習集団
5	集団指導の組織的な推進体制	家庭・地域・専門機関等との連携を含む体制のあり方
6	生徒指導における個別指導（暴力行為、いじめ等への対処）	いじめ・暴力問題への生徒指導
7	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	不登校の現在と生徒指導
8	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導における今日的課題と期待される実践
9	進路指導の意義と役割	進路指導の基本的な考え方
10	進路指導の歴史と方法	進路指導の歴史の変遷、方法
11	キャリア教育の意義と役割	学校間接続・学校から仕事への移行とキャリア教育
12	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	若者の進学と労働を踏まえた進路指導・キャリア教育の実践
13	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	進路指導・キャリア教育における専門職・機関との連携、教育の実践
14	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	進路指導・キャリア教育における今日的課題と期待される実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業時にレジュメや資料を配布する。

【参考書】

折出健二編『生活指導：生き方についての生徒指導・進路指導とともに』学文社、2014 年

林尚示・伊藤秀樹編『生徒指導・進路指導 第 2 版:理論と方法』学文社、2018 年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法を変更する。具体的な方法については、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業時にリアクションペーパー等の提出を求めることがある。また、その内容は匿名化したうえで授業内で紹介することがある。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

特別活動論

桐島 次郎

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、これからの特別活動のあり方を考える上で必要となる文献、実践等を紹介し、検討していく。毎回授業の最後に、各自の意見、論点をコメントペーパーにまとめ提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方等の説明
2	教育課程の中の特別活動	特別活動の教育課程における位置づけ、およびその指導の特徴について考える。
3	特別活動の歴史	特別活動の変遷をたどり、今日の特別活動へと引き継がれている内容について考える。
4	学習指導要領と特別活動	特別活動に求められる新たな視点、および各教科等との関連性について考える。
5	特別活動の目標と展開	特別活動の目標についての理解を深め、実践を展開する上で必要な観点について考える。
6	特別活動の評価と改善	特別活動にふさわしい評価のあり方、また改善のすゝめ方について考える。
7	話し合い活動とその指導	対話と討論を通じた相互理解と合意形成にむけて、指導の課題を考える。
8	学級・ホームルーム活動	信頼関係に基づく学級づくり、仲間づくりの意義と方法について考える。
9	児童会・生徒会活動	参画と自治、協同性によって学校生活をより良いものへとつくり変えていくために必要な能力について考える。
10	学校行事	発見と共感、創造性によって運営される学校行事固有の魅力、特性について考える。
11	部活動	「文化」の共有をととして仲間とつながり、その成果を地域社会へとひろげていく部活動の可能性について考える。
12	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	ボランティア学習、社会への貢献的活動等を通じて育まれていく「市民性」の意味について考える。
13	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	学習の成果を社会の課題とつなぎ、自己の実現とよりよい集団の形成を達成していくための方法を考える。
14	まとめ：特別活動の課題と可能性	講義全体を振り返り、特別活動の展望と課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業において配付する関連資料を次回までに読了する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーと参加姿勢（60%）、課題レポートの内容（40%）

【学生の意見等からの気づき】

授業後に提出してもらうコメントペーパーのいくつかを毎回授業のはじめに紹介し、前回の授業の内容等に関する「気づき」について述べる。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

特別活動論

桐島 次郎

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、これからの特別活動のあり方を考える上で必要となる文献、実践等を紹介し、検討していく。毎回授業の最後に、各自の意見、論点をコメントペーパーにまとめ提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方等の説明
2	教育課程の中の特別活動	特別活動の教育課程における位置づけ、およびその指導の特徴について考える。
3	特別活動の歴史	特別活動の変遷をたどり、今日の特別活動へと引き継がれている内容について考える。
4	学習指導要領と特別活動	特別活動に求められる新たな視点、および各教科等との関連性について考える。
5	特別活動の目標と展開	特別活動の目標についての理解を深め、実践を展開する上で必要な観点について考える。
6	特別活動の評価と改善	特別活動にふさわしい評価のあり方、また改善のすゝめ方について考える。
7	話し合い活動とその指導	対話と討論を通じた相互理解と合意形成にむけて、指導の課題を考える。
8	学級・ホームルーム活動	信頼関係に基づく学級づくり、仲間づくりの意義と方法について考える。
9	児童会・生徒会活動	参画と自治、協同性によって学校生活をより良いものへとつくり変えていくために必要な能力について考える。
10	学校行事	発見と共感、創造性によって運営される学校行事固有の魅力、特性について考える。
11	部活動	「文化」の共有をととして仲間とつながり、その成果を地域社会へとひろげていく部活動の可能性について考える。
12	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	ボランティア学習、社会への貢献的活動等を通じて育まれていく「市民性」の意味について考える。
13	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	学習の成果を社会の課題とつなぎ、自己の実現とよりよい集団の形成を達成していくための方法を考える。
14	まとめ：特別活動の課題と可能性	講義全体を振り返り、特別活動の展望と課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業において配付する関連資料を次回までに読了する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーと参加姿勢（60%）、課題レポートの内容（40%）

【学生の意見等からの気づき】

授業後に提出してもらうコメントペーパーのいくつかを毎回授業のはじめに紹介し、前回の授業の内容等に関する「気づき」について述べる。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

教育課程論

三浦 芳恵

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式・リアクションペーパー提出あり

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この授業の概要について説明をします。
2	カリキュラムとは	実際のカリキュラムづくりを通して、教育課程の構成要素を把握します。
3	教育内容の選択	実際のカリキュラムづくりを通して、「文化からの選択」について検討します。
4	学習指導要領とは	学習指導要領に関して、歴史的にどのような議論があったのかを把握します。
5	教育内容の組織化	経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラムなど、カリキュラムの組織化の種類について把握し、検討します。
6	学習指導要領の変遷	学習指導要領の成立から、1970 年代までの変遷について把握します。
7	学力論の系譜	「ゆとり教育」導入時の学力をめぐる議論を中心に、学力とは何かを検討します。
8	学習指導要領改訂の要点	現行の学習指導要領に関する分析を行います。
9	カリキュラム・マネジメント	定時制高校の教育実践から、生徒の実態に即した教育課程づくりについて検討します。
10	社会に開かれた教育課程	高校の教育実践から、地域に開かれた教育課程づくりのあり方について検討します。
11	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	中学校の総合的な学習の時間に関する実践について検討します。
12	教育課程と指導計画－通時性と共時性	キャリア教育の実践から、長期的な教育計画について検討します。
13	カリキュラム評価	近年の教育課程評価の動向について、実際の事例から検討します。
14	授業のまとめ	この授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のテーマに関連するような文献（新聞・雑誌・専門書など）を読み、自分なりの関心を持つこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。適宜資料を配布する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（30 %）、試験（70 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークの時間を有意義なものにできるよう、問いの立て方や受講者たちへの接し方を工夫したいと思います。

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育課程論

三浦 芳恵

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式・リアクションペーパー提出あり

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この授業の概要について説明をします。
2	カリキュラムとは	実際のカリキュラムづくりを通して、教育課程の構成要素を把握します。
3	教育内容の選択	実際のカリキュラムづくりを通して、「文化からの選択」について検討します。
4	学習指導要領とは	学習指導要領に関して、歴史的にどのような議論があったのかを把握します。
5	教育内容の組織化	経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラムなど、カリキュラムの組織化の種類について把握し、検討します。
6	学習指導要領の変遷	学習指導要領の成立から、1970 年代までの変遷について把握します。
7	学力論の系譜	「ゆとり教育」導入時の学力をめぐる議論を中心に、学力とは何かを検討します。
8	学習指導要領改訂の要点	現行の学習指導要領に関する分析を行います。
9	カリキュラム・マネジメント	定時制高校の教育実践から、生徒の実態に即した教育課程づくりについて検討します。
10	社会に開かれた教育課程	高校の教育実践から、地域に開かれた教育課程づくりのあり方について検討します。
11	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	中学校の総合的な学習の時間に関する実践について検討します。
12	教育課程と指導計画－通時性と共時性	キャリア教育の実践から、長期的な教育計画について検討します。
13	カリキュラム評価	近年の教育課程評価の動向について、実際の事例から検討します。
14	授業のまとめ	この授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のテーマに関連するような文献（新聞・雑誌・専門書など）を読み、自分なりの関心を持つこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。適宜資料を配布する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（30 %）、試験（70 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークの時間を有意義なものにできるよう、問いの立て方や受講者たちへの接し方を工夫したいと思います。

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育方法論

酒井 英光

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、教育の方法及び技術を学ぶ。(情報機器及び教材の活用を含む)特に、「授業」とは何か、「授業」はいかにあるべきか、「授業」をいかに準備し、実践するかということに重点を置く。

【到達目標】

実際に授業を準備し、イメージ豊かに組み立て・展開する力をつけ、指導案の形で表現し、実際に授業をおこなう能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」による授業を 4 月 24 日（金）に始める。

シラバスの変更の詳細は「学習支援システム」の教材のところにファイルを載せておくのでそちらを見てほしい。「授業計画」も大幅に変更するので、そちらを参照してほしい。

この講義では、いくつかの授業例を紹介し、分析・評価をしてゆく。その中で授業づくりの段取りや技術、教材の活用方法等についても説明する。板書の要領、プリントの作成などについても話すつもりでいる。授業例としては、受講生の取得希望免許科目と講師の経験的制約のため、公民や地歴、社会科系の授業の紹介が多くなる。情報科のみ、福祉科のみ、あるいは保健体育科の免許を取得しようとする諸君には、最低でも一回はそれぞれの教科の授業事例を取りあげるので、許容していただきたい。尚、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の予定など。時事問題の仮想小試験。
2	授業実践例 1 と授業論	「中学地理的分野」授業紹介、分析。授業の成立要件。
3	授業実践例 2 と授業論	「高校世界史」授業紹介、分析。授業のあり方。
4	授業の諸類型とその特徴	授業の諸類型とその特徴。講義型、問答型、討論型など。
5	授業実践例 3 「情報」科の授業論	ゲストによる「情報」の授業紹介と討論。「情報」の授業とアクティブラーニングの目的。
6	第 1 回「時事問題小試験」授業評価の視点	第 1 回「時事問題小試験」実施。世界の動き、授業評価の視点。
7	授業実践例 4 と「福祉」科の授業論	「福祉」科授業紹介、分析。「福祉」科授業の目標等。
8	授業実践例 5 と「健康・保健」の授業論	「健康・保健」の授業紹介、分析。「保健」授業の目標等。
9	授業実践例 6 と「歴史」の授業論	「高校日本史または中学歴史的分野」の授業紹介、分析。
10	授業準備の手順	一時間の授業をどう準備するか、事例をあげて解説。
11	授業構成と指導案の書き方	歴史教育の実践例紹介。授業の構成、指導案の書き方。
12	授業評価の視点その 2	模擬授業例の紹介、分析・検討。授業評価について。
13	模擬授業 授業実践と批評 評価の視点	2 本の模擬授業を実施。分析の視点について解説。
14	第 2 回「時事問題小試験」授業評価の視点	第 2 回「時事問題小試験」。世界の動き、授業評価の視点。大レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、免許を取得する教科について、深く広く学習すること。各種新聞を毎日読み、テレビのニュースなどを視聴すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤学『教育の方法』2010 年刊 放送大学叢書 左右社 ￥1524(税別)

【参考書】

文部省「中学校学習指導要領」、「高等学校学習指導要領」

『新版 社会・地歴・公民の教育』大森正・石渡延男編著 2009 年 梓出版刊

【成績評価の方法と基準】

「指導案」を主とする最後の大レポートが最も大きな評価の材料となる。70 %。「時事問題小テスト」を実施。2 回で 15 %ほど。紹介した授業に関する小レポートも書いていただく（7 %程）。何回かはその授業内に感想・批評を書いていただくこともある（3～5 %程）。模擬授業に対する批評（3～5 %程）はいずれも評価の材料とする。

模擬授業を引き受けた場合、相当の得点が与えられる。30 から 70 %（模擬授業者は最後の指導案レポートは免除される）。

教室授業が再開されるのであれば、時事問題の小試験を 2 回実施する予定である。

第一回目の授業である 4 月 24 日（金）には、「学習支援システム」の「教材」のところに、「時事問題小試験の紹介」を載せておくのでやってみてほしい。いずれの問題もインターネットなどで調べれば一瞬にして答えの分かるものだが、まずは何も見ないで解いてみてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

以前よりも大幅に課題を縮小した。現在の課題は適量の模様である。

【Outline and objectives】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

教育方法論

酒井 英光

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、教育の方法及び技術を学ぶ。（情報機器及び教材の活用を含む）特に、「授業」とは何か、「授業」はいかにあるべきか、「授業」をいかに準備し、実践するかということに重点を置く。

【到達目標】

実際に授業を準備し、イメージ豊かに組み立て・展開する力をつけ、指導案の形で表現し、実際に授業をおこなう能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この講義では、いくつかの授業例を紹介し、分析・評価をしてゆく。その中で授業づくりの段取りや技術、教材の活用方法等についても説明する。板書の要領、プリントの作成などについても話すつもりでいる。授業例としては、受講生の取得希望免許科目と講師の経験的制約のため、公民や地歴、社会科系の授業の紹介が多くなる。情報科のみ、福祉科のみ、あるいは保健体育科の免許を取得しようとする諸君には、最低でも一回はそれぞれの教科の授業事例を取りあげるので、許容していただきたい。尚、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の予定など。時事問題の仮想小試験。
2	授業実践例1と授業論	「中学地理的分野」授業紹介、分析。授業の成立要件。
3	授業実践例2と授業論	「高校世界史」授業紹介、分析。授業のあり方。
4	授業の諸類型とその特徴	授業の諸類型とその特徴。講義型、問答型、討論型など。
5	授業実践例3「情報」科の授業論	ゲストによる「情報」の授業紹介と討論。「情報」の授業とアクティブラーニングの目的。
6	第1回「時事問題小試験」授業評価の視点	第1回「時事問題小試験」実施。世界の動き、授業評価の視点。
7	授業実践例4と「福祉」科の授業論	「福祉」科授業紹介、分析。「福祉」科授業の目標等。
8	授業実践例5と「健康・保健」の授業論	「健康・保健」の授業紹介、分析。「保健」授業の目標等。
9	授業実践例6と「歴史」の授業論	「高校日本史または中学歴史的分野の授業」紹介、分析。
10	授業準備の手順	一時間の授業をどう準備するか、事例をあげて解説。
11	授業構成と指導案の書き方	歴史教育の実践例紹介。授業の構成、指導案の書き方。
12	授業評価の視点その2	模擬授業例の紹介、分析・検討。授業評価について。
13	模擬授業 授業実践と批評 評価の視点	2本の模擬授業を実施。分析の視点について解説。
14	第2回「時事問題小試験」授業評価の視点	第2回「時事問題小試験」。世界の動き、授業評価の視点。大レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、免許を取得する教科について、深く広く学習すること。各種新聞を毎日読み、テレビのニュースなどを視聴すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤学『教育の方法』2010 年刊 放送大学叢書 左右社 ￥1524(税別)

【参考書】

文部省「中学校学習指導要領」、「高等学校学習指導要領」
『新版 社会・地歴・公民の教育』大森正・石渡延男編著 2009 年 梓出版刊

【成績評価の方法と基準】

「指導案」を主とする最後の大レポートが最も大きな評価の材料となる。70%。「時事問題小テスト」を実施。2回で15%ほど。紹介した授業に関する小レポートも書いていただく（7%程）。何回かはその授業内に感想・批評を書いていただくこともある（3～5%程）。模擬授業に対する批評（3～5%程）はいずれも評価の材料とする。

模擬授業を引き受けた場合、相当の得点が与えられる。30から70%（模擬授業者は最後の指導案レポートは免除される）。

【学生の意見等からの気づき】

以前よりも大幅に課題を縮小した。現在の課題は適量の模様である。

【Outline and objectives】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

道徳教育指導論

水野 多満司

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子ども達の置かれた現状を把握し、子どもを理解し、子ども同士、他とどうつながっていけばよいかを考えていきます。「人権を身につける」活動を行います。

「道徳」とは何かを考え、また、道徳は「生き方探し、自立への道・ステキでつながる」をテーマとします。また、地域についての理解や伝統文化や先人の知恵にも学んでいきます。

【到達目標】

道徳の教科化を踏まえ、子どもへの肯定感、自分への肯定感を養い、子どもを信じ、子どもの考えや言動を受け入れ、「優しく待てる」先生、伝統文化を伝えられる先生を目指します。子どもの人権を尊重し、子ども心のあり方や理解の方法、手段を学び、様々な構想ができることがその到達点です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

子どもの現状を踏まえ（様々な事例を紹介します）受講生の体験や思いを取り上げ、子ども達の心の成長、自立をどう応援するか、考えます。また、道徳の指導案の例や実践の紹介を通して授業作りをを検討します。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法や資料などを、4月24日までに学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	道徳とは何か、生き方を考える 授業のすすめ方
2	テーマ設定	心の発達と人権・環境・平和のテーマを提示し、自身の重点テーマ選ぶ
3	道徳とは何か1	教科化を踏まえて、子供理解、ステキ探しの実践から考える
4	道徳とは何か2	命の大切さ、自分は大事・他人も大切の感覚、人権感覚についてかんがえる
5	指導案の研究1	指導案の作り方、及び実践の検討
6	子ども理解1	環境と子どもの関係の事例検討
7	子ども理解2	子どもの純粋さを信じ、子どもの伸ばし方考える
8	子ども集団を作る 道徳実践1	ステキでつながる人間関係の構築を考える
9	子どもの活動から1 道徳実践2	人権の調べ学習と意見表明を学ぶ
10	子どもの活動から2 道徳実践3	人権・環境の意見表明から学ぶ
11	子どもの活動から3 道徳実践4	人権・環境・平和の意見表明から考える
12	表現すること 子どもの心を知る	意見表明の「場」を作る構想を考える
13	道徳指導案の研究2 指導案2本を示し、比較検討する	共感を広げる授業の作り方を検討する 子どもの活動を生かした指導案の研究 1・2
14	まとめ、論述試験	命。人権・環境・平和の大切さのまとめ 人権・環境・平和をテーマに論述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

道徳のあり方や人権・環境・平和を日常のテーマとし、各種のニュースに関心を持ち、自分としての意見をもてるようにしましょう。また、自分が設定したテーマに関して、調べたり読書しておくことをお願いします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践で用いた「学年だより」、講義のためのレジュメ・プリントなどを用います。

【参考書】

特に指定しませんが、人権問題、環境問題、平和について道徳的観点から常に関心を持って、文献・ニュース等に触れてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・発言・提出物）と論文試験（自己テーマの意見表明）を評価の対象とします。

※提出物 → 毎回、講義の内容についての、当日レポート（質問・感想・意見・要望など、どれか一つ以上）を書いて提出します。

【学生の意見等からの気づき】

講義ごとの、学生の意見・感想・質問を反映し、交流、参加の講義をさらに目指します。前授業の振り返りと本時とのつながりが大切なことを再度確認したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

この授業は春期のみです。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

教職実践演習（中・高）

御園生 純

配当年次／単位：4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、将来の教育専門職に相応しい知識、技能などの理解を深め、4 年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】

学習の目標は以下の通りです。

- ①学校現場における授業づくりの実践力量の深化、
- ②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化、
- ③生徒理解や学級・学校運営に関する実践力量の深化、
- ④教育職に関する理解の深化と各自の目標の設定、
- ⑤教育専門職としての他者との関わり・自己表現の深化、

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同学習、模擬授業づくりのサポートを通した経験報告やアドバイス、期末報告の発表会などによって構成されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 本講義の目的と位置づけ	①本講義の性格、課題、到達目標の確認。②本演習の期末課題に関する説明。課題は「教育関係者のヒアリング報告・後輩に残す教科教材の作成・教職に関する研究レポート」から学生が選択し決定する。
2	教職課程のふりかえり交流（1 回目）	これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、報告と討論を行う。
3	教職課程のふりかえり交流（2 回目）	前回の報告と討論を踏まえて、次年度教育実習予定者へのメッセージを作成する。
4	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	次年度教育実習予定者に対して、教育実習への準備の在り方、授業づくりのあり方、実習授業の展開などを伝える。
5	グループディスカッションに向けた準備作業。	これからの教職実践の問い（授業づくり、生徒理解）を出し合い、グループディスカッションのテーマを決め、準備をおこなう。
6	グループディスカッション①	「授業づくり」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるディベート形式の討論。
7	グループディスカッション②	「生徒理解」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるディベート形式の討論。
8	期末課題のテーマの起案と計画書の提出	期末課題の計画書を作成・提出する
9	期末課題製作作業①	第 12 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
10	期末課題製作作業②	第 13 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
11	期末課題製作作業③	第 14 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
12	期末課題発表会①	完成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者など教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、コメントを受ける。
13	期末課題発表会②	各自の発表に対する講評と問題点や改善点の抽出。
14	期末課題発表会③	前回の授業を踏まえて加筆修正した最終課題の再発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・7 月にオリエンテーションをおこないますので、必ず参加ください。
- ・期末課題の作成には、グループワークが必要になります。
- ・次年度教育実習予定者のクラスに何度か参加して、後輩の支援・指導にあたります本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・特に指定しません。必要に応じて、文献や資料などを指定あるいは配布します。

【参考書】

- ・『文部科学白書』最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ
- ・教育実践記録（講義の最初に提示します）
- ・『中学校・高等学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します

【学生の意見等からの気づき】

現時点では特にありませんが、授業期間の途中でも、積極的な意見を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

この授業では授業支援システムの利用を予定しています。

【その他の重要事項】

7 月にオリエンテーションをおこないますので、必ず参加ください。

【授業中に求められる学習活動】

学生がつくる授業ですので授業への積極的な参加が要求されます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.

教職実践演習（中・高）

高橋 繁

配当年次／単位：4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来教職を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、4 年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】

- ①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化
- ②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化
- ③子ども理解及び学級・学校の実際の理解
- ④教育職に向けた意欲と各自の目標の設定
- ⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーションの技能向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通じた経験報告やアドバイス、期末課題の発表会などによって構成されます。授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①本講義の概要説明。「履修カルテ」および「教職課程のふりかえり～自己評価と課題」レポートの提出の指示。
第 2 回	各自のふりかえり交流	②本演習の期末課題に関する説明。提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行う。
第 3 回	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	3 年生に対して、教育実習への準備の在り方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝え、応答をおこなう。
第 4 回	「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐるグループディスカッションのテーマの起案。	テーマ設定にあたっては、「教科教育・生徒指導・学校・学級運営」についてそれぞれ起案する。今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門職性の高度化について考える。
第 5 回	グループディスカッション準備	ディスカッションに向けた準備。
第 6 回	グループディスカッション①	「教科教育」を通じた専門職性をめぐる討論
第 7 回	グループディスカッション②	「生徒指導・学校・学級運営」を通じた専門職性をめぐる討論
第 8 回	期末課題製作作業①	第 11 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこなう。
第 9 回	期末課題製作作業②	第 12 回発表予定者は中間報告
第 10 回	期末課題製作作業③	第 13 回発表予定者は中間報告
第 11 回	期末課題発表会①	期末課題の発表会。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3 年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。
第 12 回	期末課題発表会②	前回に続き、期末課題の発表を行う。
第 13 回	期末課題発表会③	前回に続き、期末課題の発表を行う。あわせて、後期に教育実習を行った学生の報告も行う。
第 14 回	まとめ	これまでの授業をふりかえるとともに、課題を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・7 月にオリエンテーションを行いますので必ず参加下さい。
- ・期末課題の作成には、学外でのフィールドワークなど課外活動が必要になります。
- ・教育実習予定者を対象とした「教育実習事前指導」に数回参加して、模範授業の実施、後輩の模擬授業づくりへのサポートをおこないます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

- ・必要文献、資料などを適宜指定、紹介、あるいは配布します。

【成績評価の方法と基準】

①期末課題とその発表・報告に対する評価（50 %）②演習への参加と積極的な役割の遂行や討論への参加状況（40 %）③レポート課題（10 %）を総合的に勘案して評価をおこないます。なお、最終的評価については、必要に応じて個別評価面接を実施する事があります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションなどを通して、目標がより深化するよう努めています。

【学生が準備すべき機器他】

この授業では学習支援システムの利用を予定しています。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.

教職実践演習（中・高）

小嶋 常喜

配当年次／単位：4 年次／2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、以下のいくつかの観点から、将来教職を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、4 年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】

- ①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化、
 - ②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化、
 - ③子ども理解及び学級・学校の実際の理解、
 - ④教育職に向けた意欲と各自の目標の設定、
 - ⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーションの技能向上、
- の五点を学習の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通した経験報告やアドバイス、最終報告（プレゼンテーションや報告）の発表会などによって構成されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	本講義の目標と性格について	本講義の性格、課題、到達すべき目標の確認。「履修カルテ」および「教職課程のふりかえり～自己評価と課題」レポート（1500 字程度）の提出（あるいはその指示）。
2	①各自のふりかえり交流（1 回目） ②期末課題のテーマ登録	②本「演習」の期末課題に関する説明。課題は「教育関係者のヒアリング報告・後輩に残す教科教材の作成・教職に関する研究レポート」から学生が選択し決定する。
3	各自のふりかえり交流（2 回目）	提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行う。
4	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	前回に引き続き、提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行い、そのまとめを踏まえて、次年度教育実習予定者へのメッセージを作成する。
5	①「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐる講義ならびにグループディスカッションのテーマの起案 ② 期末課題の計画書提出	教育実習に向けて準備をしている 3 年生に対して、教育実習への準備の在り方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝え、3 年生との応答をおこなう。（グループ分けによって多くの学生の報告を可能にする）
6	①「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐる講義ならびにグループディスカッションのテーマの起案	テーマ設定にあたっては、「教科教育・生徒指導・学校・学級運営」についてそれぞれ起案する。今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門職性の高度化について考える。
7	② グループディスカッション① ③ グループディスカッション②	テーマ設定にあたっては、「教科教育・生徒指導・学校・学級運営」についてそれぞれ起案する。今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門職性の高度化について考える。
8	④ グループディスカッション③	グループディスカッションに向けた準備作業。
9	⑤ 期末課題製作作業①	「教科教育」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論
10	⑥ 期末課題製作作業②	「生徒指導・学校・学級運営」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論
11	⑦ 期末課題製作作業③	第 12 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
12	⑧ 期末課題発表会①	第 13 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
13	⑨ 期末課題発表会②	第 14 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
14	⑩ 期末課題発表会③	成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3 年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。以下第 13 回、14 回も同様。

第 13 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
第 14 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3 年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。以下第 13 回、14 回も同様。
期末課題発表会②
期末課題発表会③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリエンテーション時に提示した課題への取り組み
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しない

【参考書】

必要に応じて提示する

【成績評価の方法と基準】

教職実践演習は通常の評価をおこないます。実習教科ですので、評価にあたっては、出席、授業への積極的参加・発言、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。評価の割合と基準は以下の通りです。

- (1) 教育実習後レポート（20%）：教育実習を基本的な振り返りができたか。
- (2) 授業内での発表・取り組み（40%）：自らの実習体験を 3 年生に有用な形で伝えることができたか。
- (3) 修了作品（40%）：教育実習の成果と課題をまとめることができたか。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業への相互の講評を今後も大事にしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.

教職実践演習（中・高）

本山 明

配当年次／単位：4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、いくつかの観点から、将来教職を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、4 年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】

- ①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化
 - ②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化
 - ③子ども理解及び学級・学校の実際の理解
 - ④教育職に向けた意欲と各自の目標の設定
 - ⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーションの技能向上
- の五点を学習の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通した経験報告やアドバイス、最終報告（プレゼンテーションや報告）の発表会などによって構成されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	①本講義の目標と性格について——本講義の性格、課題、到達すべき目標の確認②本「演習」の期末課題に関する説明	「履修カルテ」および「教職課程のふりかえり～自己評価と課題」レポート（1500 字程度）の提出（あるいはその指示）。課題は「教育関係者のヒアリング報告・後輩に残す教科教材の作成・教職に関する研究レポート」から学生が選択し決定する。
第 2 回	①各自のふりかえり交流（1 回目）②期末課題のテーマ登録	提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行う。
第 3 回	各自のふりかえり交流（2 回目）	前回に引き続き、提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行い、そのまとめを踏まえて、次年度教育実習予定者へのメッセージを作成する。
第 4 回	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	教育実習に向けて準備をしている 3 年生に対して、教育実習への準備の在り方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝え、3 年生との応答をおこなう。（グループ分けによって多くの学生の報告を可能にする）
第 5 回	①「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐる講義ならびにグループディスカッションのテーマの起案。②期末課題の計画書提出	テーマ設定にあたっては、「教科教育・生徒指導・学校・学級運営」についてそれぞれ起案する。今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえて、その専門職性の高度化について考える。
第 6 回	グループディスカッションに向けた準備作業	準備作業。
第 7 回	グループディスカッション①	「教科教育」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論。
第 8 回	グループディスカッション②	「生徒指導・学校・学級運営」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論。
第 9 回	期末課題製作作業①	第 12 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
第 10 回	期末課題製作作業②	第 13 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
第 11 回	期末課題製作作業③	第 14 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。

第 12 回 期末課題発表会①

完成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3 年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。

第 13 回 期末課題発表会②

完成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3 年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。

第 14 回 期末課題発表会③
まとめ、期末課題の提出

完成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3 年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。
まとめと課題提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・7 月にオリエンテーションをおこないますので、必ず参加ください。
- ・期末課題の作成には、学外でのフィールドワークなど課外活動が必要になります。
- ・次年度教育実習予定者のクラスに何度が参加して、後輩の支援・指導にあたります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・特に指定しません。毎回必要文献、資料など指定、あるいは配布します。

【参考書】

- ・『文部科学白書』最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ
- ・教育実践記録（講義の最初に指示する）
- ・『中学校・高等学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】

特に期末テストは行わない。期末課題の提出をもって、終了とする。①期末課題とその発表・報告に対する評価、②演習への参加と積極的な役割の遂行や討論への参加状況、を総合的に勘案して評価をおこないます。なお、最終的評価については、必要に応じて個別評価面接を実施する事があります。平常点 50 %、期末課題 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

あり

【学生が準備すべき機器他】

あり

【その他の重要事項】

上記以外に別途、次年度教育実習予定者を対象とした「教育実習事前指導」に各自数回参加して、模範授業の実施、ないしは後輩の模擬授業づくりへの指導・サポートをおこなう。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.

教育実習（事前指導）

御園生 純

配当年次／単位：3～4 年次／0 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、次年度に教育実習に臨むための、関門・ハードルとしての役割を持ちます。従って、出席や課題提出などについて、非常に厳しい扱いをせざるをえません。よく認識してください。後期授業ですが、7月に第一回目の授業を行います。その時、夏期課題を提示します。7月授業の出席が第一関門です。必ず出席してください。

【到達目標】

次年度に行う教育実習のために、実習の重み・責任を強く認識し理解することが大切です。具体的には、グループワークによる模擬授業を行い、教育実習に欠かせない教材研究・教案作成の方法と実践力をつけ、教壇実習実施のための最低条件を学習・習得すること、さらに実施のためのチームワークを身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導を行います。加えて、実習を経験した上級生から、授業（教案を含む）、生徒理解、その他、つまり教育実習総体の経験を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（7月実施）	必ず出席。グループ編成、夏期課題の提示・説明
2	授業案の講評	夏期課題の返却と講評
3	授業研究	4年生（教員）の模擬授業から学ぶ
4	生活指導研究	4年生（教員）の実習報告から学ぶ
5	模擬授業の準備	模擬授業準備のグループワーク
6	模擬授業1	担当グループの模擬授業
7	模擬授業2	担当グループの模擬授業
8	模擬授業3	担当グループの模擬授業
9	模擬授業4	担当グループの模擬授業
10	模擬授業5	担当グループの模擬授業
11	模擬授業6	担当グループの模擬授業
12	模擬授業のふりかえり	全員による検討・討議
13	交流学習	実習経験者・実習予定者の交流学習
14	事前指導のまとめ	振り返りレポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・7月のオリエンテーション（初回授業）出席。夏期課題＝夏期休暇中に提出しますが、不十分な場合、再提出することになります。
・模擬授業はグループで取り組みますので、授業時間外のグループワークが必要です。
・教材研究や教案作成・資料作成など、模擬授業に関する準備と振り返りがあります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

中学校・高等学校の各種教科書および指導関連の図書が図書館にありますので、積極的に利用してください。その他、参考図書についての詳細は、7月オリエンテーションで行います。

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導は、○と×で評価を行います。×の評価を受けると、次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

現時点で特にありませんが、授業期間中でも積極的な意見を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

・模擬授業は、実施グループがビデオで撮影して自己点検を行えるようにしています。
・授業支援システムの利用を予定しています。

【その他の重要事項】

教職課程履修上の、この授業の特別な位置づけについて、3年次を対象とした4月冒頭のオリエンテーションでお話します。なお、7月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となります。各学部掲示板で、日程確認を怠らぬようくれぐれも留意してください。

教育実習（事前指導）

高橋 繁

配当年次／単位：3～4 年次／0 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、次年度に教育実習に臨むためのいわば関門、ハードルとしての役割をもつものです。従って、出席や課題提出などについて、大変厳しい扱いをせざるを得ませんので、あらかじめよく認識してください。また7月に初回授業としてオリエンテーションを実施し、夏休み課題を提示します。オリエンテーションへの参加が受講の条件になります。

【到達目標】

次年度の教育実習を前に、実習がもつさまざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。授業計画は授業の展開によって、若干の変更はあり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	グループ編成・夏休み提出課題の提示
第 2 回	学習指導案の書き方	夏休み提出課題の返却と講評。グループ研究。
第 3 回	授業研究	4 年生による模擬授業と交流
第 4 回	生活指導研究	4 年生による発表と交流
第 5 回	模擬授業 1	第 1 グループによる模擬授業および批評会
第 6 回	模擬授業 2	第 2 グループの模擬授業と批評会
第 7 回	模擬授業 3	第 3 グループの模擬授業と批評会
第 8 回	模擬授業 4	第 4 グループの模擬授業と批評会
第 9 回	模擬授業 5	第 5 グループの模擬授業と批評会
第 10 回	模擬授業 6	第 6 グループの模擬授業と批評会
第 11 回	模擬授業 7	第 7 グループの模擬授業と批評会
第 12 回	模擬授業のふりかえり	模擬授業で学んだことをまとめる
第 13 回	現代の教育課題	実習経験者・実習予定者の交流学習
第 14 回	まとめ	4 年生の発表を聞く 実習経験者・実習予定者の交流学習 教育実習までに準備しておくことをまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

7 月に実施するオリエンテーション（初回授業）で提示する夏休み課題への取り組み

後期授業でおこなうグループ模擬授業の準備・反省

教育実習修了者（4 年生）の学習発表への参加本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

中学校・高等学校の各種教科書および指導関連の図書が図書館にありますので、積極的に利用してください。

必要文献、資料などを適宜紹介、あるいは配布します。

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導は、○と × で評価をおこないます。× の評価を受けると、次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業のグループ分けや準備方法を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

模擬授業は、実施グループがビデオで撮影することを予定しています。

そのため、後期の冒頭、授業開始前にビデオ講習（撮影のみ）を受講してもらいます。

【その他の重要事項】

この授業では、学習支援システムの利用を予定しています。

【授業中に求められる学習活動】

・教職課程履修上の授業の特別な位置づけについて、3 年次生対象の 4 月のオリエンテーションでお話します。

・7 月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意してください

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（事前指導）

小嶋 常喜

配当年次／単位：3～4 年次／0 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、次年度に教育実習に臨むためのいわば関門、ハードルとしての役割をもつものです。従って、出席や課題提出などについて、大変厳しい扱いをせざるを得ませんので、あらかじめよく認識してください。また7月に初回授業としてオリエンテーションを実施し、夏休み課題を提示します。オリエンテーションへの参加が受講の条件になります。

【到達目標】

次年度の教育実習を前に、実習がもつ様々な意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	ガイダンス
第2回	教育実習の実際と実習に向けての準備のあり方	教育実習の意味と目的について
第3回	授業の進め方や実習に向けての準備・心構えについて	中学・高校教員に求められる資質とは
第4回	実習ガイダンス 生活指導について	生活指導のあり方について
第5回	実習ガイダンス 2 教育実習全般の注意	実習期間中の過ごし方
第6回	実習ガイダンス 3 校務分掌	教職員の服務 生徒指導
第7回	実習ガイダンス 4 学校運営全体における情報科担当教員の役割	左記のとおり
第8回	教科指導 授業の事前準備の方法	年間計画と単元計画
第9回	教科指導 学習指導案の作成	副教材の作成方法
第10回	教科指導 学習指導案に即して	発問・板書・まとめ・考査の方法
第11回	教科指導 模擬授業の実施と検討	授業を演出する意味について
第12回	担任指導	生活・進路指導
第13回	ホームルーム指導の実際	生徒指導の実際例を引いてその効果的な指導方法などをまなぶ
第14回	特別活動の指導	HR や行事の教育的な効果について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
模擬授業についてはこれとは別に十分な準備時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

「中学校学習指導要領」（社会）およびその「解説」
「高等学校学習指導要領」（地歴・公民）およびその「解説」

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導は、不合格の評価を受けると次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。
模擬授業の運営と、それにかかわる準備・授業計画の立案等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際に授業ができる。
様々な局面における適切な生徒指導ができる。

【学生が準備すべき機器他】

模擬授業の際に自分が必要な教材、機材

【その他の重要事項】

・教職課程履修上のこの授業の特別な位置づけについては、4月に実施される3年生対象のオリエンテーションでお話しますので必ず確認ください。
・7月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意ください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（事前指導）

本山 明

配当年次／単位：3～4 年次／0 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

次年度に教育実習を行うにあたり、これまで学んだ教職課程の集大成として、教員に求められる資質を身につけるとともに、授業の構成の方法・生徒指導のあり方などを、各自の模擬授業を通して実践的かつ総合的に学びます。

【到達目標】

次年度の教育実習を前に、実習がもつさまざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（グループ編成・夏休み提出課題の提示）	授業の目的と方法や全体の概要、今後の予定を説明します。
2	夏休み提出課題の返却、講評	提出課題の特徴と注意点を説明します。
3	授業研究（4 年生との交流授業）	授業の方法、展開の仕方、授業案の作成について説明します。
4	生活指導研究（4 年生との交流授業）	生徒とのコミュニケーションの取り方について説明します。
5	模擬授業準備のグループワーク	グループごとに模擬授業の準備をします。
6	模擬授業とその評価①	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
7	模擬授業とその評価②	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
8	模擬授業とその評価③	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
9	模擬授業とその評価④	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
10	模擬授業とその評価⑤	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
11	模擬授業とその評価⑥	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
12	模擬授業とその評価⑦	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
13	模擬授業のふりかえり ふりかえりレポートの作成	模擬授業全体を通して到達点と課題を確認します。
14	実習経験者・実習予定者の交流学習	教育実習の経験を経た 4 年生と意見交換を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・7月に実施するオリエンテーション（初回授業）で提示する夏休み課題への取り組み
・後期授業でおこなうグループ模擬授業の準備と反省
・教育実習修了者（4 年生）の学習発表への参加
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

オリエンテーション時に配布します。

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導は、○と × で評価をおこないます。× の評価を受けると、次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。

【学生の意見等からの気づき】

全員が模擬授業を必ず行っておくことが大切です。

【学生が準備すべき機器他】

模擬授業は、実施グループがビデオで撮影することを予定しています。

【その他の重要事項】

・教職課程履修上のこの授業の特別な位置づけについては、4月に実施される3年生対象のオリエンテーションでお話しますので必ず確認ください。
・7月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意ください。
・この授業では、授業支援システムの利用を予定しています。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（中・高）

平塚 眞樹

配当年次／単位：4 年次／ 5 単位

開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実際の中学校・高等学校に赴き、教育実習生として 2 週間ないし 3 週間にわたり、授業、学級運営、課外活動指導などにあたる。

【到達目標】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第 3 年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義、教育実習指導教員からの教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習（3 週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	事後指導は、教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚することを目的とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する授業の授業案の作成など本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各プロセスで指示

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

実習校の採点を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習レポートの採点および事後指導の結果を加味して、総合的に出される。なお、評価は、この両者を総合評価するが、それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない

【Outline and objectives】

This course is teaching practice in secondary schools for 2 or 3 weeks. Students will work on teaching, class management and extra curricular activities as trainees.

教育実習（高）

平塚 眞樹

配当年次／単位：4 年次／ 3 単位

開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実際の高等学校に赴き、教育実習生として 2 週間ないし 3 週間にわたり、授業、学級運営、課外活動指導などにあたる。

【到達目標】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第 3 年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義、教育実習指導教員からの教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習（2 週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	事後指導は、教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚することを目的とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する授業の授業案の作成など本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各プロセスで指示

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

実習校の採点を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習レポートの採点および事後指導の結果を加味して、総合的に出される。なお、評価は、この両者を総合評価するが、それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない

【Outline and objectives】

This course is teaching practice in secondary schools for 2 or 3 weeks. Students will work on teaching, class management and extra curricular activities as trainees.

社会教育経営論

荒井 容子

配当年次／単位：2～4 年次／ 4 単位

開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会での、おとなから子どもまで、人々の学びの多様な実態を理解し、それを支える社会教育について、社会教育施設、民間の社会教育事業・活動等の現状を理解し、施設経営、事業展開について、その成果を評価し、課題を析出するための理念と手法を知ることとする。

【到達目標】

地域社会で人々の学びを支える多様な取り組みの意義を、人々の学びに対する地域社会の諸機関・諸団体からの期待とも関連させながら、地方自治体の社会教育行政施策のあり方も含め、全体としてとらえることができる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず地域社会における人々の学び、個々の人々にとってのその意味の多様性を確認する。その上で地域社会での人々の学習活動の実態について、その把握の方法と課題について学ぶ。次に地域社会における人々の学びを支援する社会教育の方法について、人々がその企画・運営の担い手なることまで視野にいれ、その実態を、成果を評価する方法も含めて学んでいく。次に、そのような社会教育による支援の多様な「仕組み」を、法制度、施設整備、民間諸団体の活動の歴史を踏まえうえて、現在それらが共通して抱えている課題である、予算獲得・資金調達、情報収集・広報、地域諸機関・諸団体との連携、職員体制の整備に焦点をあて、その課題と工夫について学ぶ。最後に、講義の途中で課す特定地域の実態調査結果を再分析し、地域社会における人々の学びを支援する「仕組み」全体を意識して、各自で課題の提示を試み、受講者集団で、実践現場を想定した討議を行う。

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。授業開始日は 4 月 23 日で、実施方法はすでに学習支援システムの「お知らせ」で提示済みである。またそれにともなう各回の授業計画の変更もその都度、学習支援システムに提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学びの多様性	社会教育経営の前提となる、人間にとっての「学び」の意味について解説する。
2	社会教育経営の前提となる、人間にとっての「学び」の意味について解説する。	人々にとっての地域社会の多様な意味について解説する。
3	日常生活と地域社会	人々の日常生活と地域社会の関係の多様性について解説する
4	地域社会での人々の学びの全体像	地域社会での人々の学びの多様性について解説する。
5	人々の学びに関する統計調査	地域社会での人々の学びに関する既存の統計調査をもとにその価値と限界について解説する。
6	人々の学びに関する事例調査	地域社会での人々の学びに関する既存の事例調査をもとにその価値と限界について解説する。
7	人々の学びに関する歴史的把握	地域社会での人々の学びを歴史調査から把握することの価値と限界について解説する
8	人々の学びの支援	人々の学びを支援するとはどういうことか、教育論から解説する。
9	学びを支援する多様な形態	地域社会での人々の学びを支援する担い手・内容の多様性について解説する。
10	教育機関を通じた施設提供	社会教育施設・学校による施設提供について、その実際と成果を評価する方法について解説する。
11	教育施設以外の施設提供	教育施設以外の施設の提供について、その実際と成果を評価する方法について解説する。
12	学習者が施設提供の担い手になる意義	学習者としての地域住民が施設の提供者になることについて、その実際と成果を評価する方法について解説する。
13	地域住民からの期待に応える学習プログラム等	学習者としての地域住民からの期待に応える学習プログラム等の実際とその成果を評価する方法について解説する。

14	地域の諸機関・諸組織から求められる学習プログラム等	地域の学校等諸機関や諸組織からの期待に応える学習プログラム等の実際とその成果を評価する方法について解説する。
----	---------------------------	--

秋学期

回	テーマ	内容
1	地域住民自身が学習プログラム等の企画者になる意義	学習者としての地域住民が事業企画の担い手となることの実際とその成果を評価する方法
2	地域社会での人々の学びの支援の実際	受講生による実態調査報告（春学期の学習成果を踏まえた調査報告）
3	社会教育に関わる法制度	地域社会における社会教育に関わる法制度の歴史と現状について解説する
4	社会教育施設等の歴史と現状	地域社会における社会教育施設整備の歴史と現状について解説する。
5	民間諸団体による社会教育活動の歴史と現状	民間諸団体による社会教育活動の歴史と現状について解説する。
6	施設運営・事業展開のための費用	社会教育活動のための予算獲得・資金調達の歴史と課題、方法について解説する。
7	施設運営・事業展開のための情報収集・広報	社会教育施設経営・社会教育事業展開のための情報収集・広報に関する歴史と課題、方法について解説する。
8	諸機関・諸組織の連携	社会教育機関・学校・民間組織との連携の全体像と歴史について解説する。
9	学校との連携	社会教育機関と学校との連携の歴史と現状、課題について解説する。
10	民間諸組織との連携	民間諸組織との連携
11	職員体制のあり方	施設運営・事業展開を担う職員体制のあり方について解説する。
12	職員体制整備の方法	施設運営・事業展開のための有給職員確保の課題と方法について解説する。
13	地域社会で人々の学びを支える「仕組み」の課題	自治体職員、民間諸団体被雇用職員、民間諸団体運営者、民間企業経営者、地域団体組織リーダー、学習する地域住民等、多様な立場から、課題の全体像をつかむために受講生全体で討議し、それをふまえて解説する。
14	地域社会で人々の学びを支える「仕組み」の継続と改革	各自がまとめた実態調査結果について、改めて地域社会での人々の学びを支える仕組みのあり方として再評価し、課題を提示し合い、受講生間で討議する。その討議と関連させて、社会教育経営の課題について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から身近な社会教育施設やさまざまな学習活動、社会教育事業に興味をもち、自主的に参加して体験を積んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】

社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所（第 7 版）2005 年、（第 8 版）2011 年、（第 9 版）2017 年。

【成績評価の方法と基準】

春学期のまとめとして課すレポートを 35 % 程度、講義内でのその報告を 10 % 程度、秋学期のまとめとして課すレポートを 35 % 程度、講義内でのその報告を 10 % 程度、また毎回の講義での討議等への貢献度を 10 % 程度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初年度開講科目のためアンケートは行っていない。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】

In this course we grasp the variety of peoples' learning in their community lives from children to adults, and also understand the role of social education to support their learning activities through its facilities and practices both by public sectors and by private ones. Through this process we get the idea and methods to evaluate both the facility management and the practices of social education and found out their challenges.

社会教育総合演習（実習を含む）

江頭 晃子

配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育という学びの場を体験的に学びながら、自分の課題に向き合い、学びの受容者から、学びをつくり出す主体となる視点を持てるようになる。

【到達目標】

学びの場・交流の場などを自ら作り出す（講座企画、地域調査、フィールドワークなどの実施）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

5 月 7 日（木）より何らかの方法で授業を開始予定です。ご自身のネット環境（パソコンの有無、カメラやマイクの有無）やご希望などがありましたら、お知らせください。受講生の状況に応じてシラバスは随時変更します。施設見学や演習等については、後期に行いたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介と状況交換
2	教育とは	教育とは何か。 各自にとっての教育。
3	教育の3つの形	学校教育・社会教育・家庭教育
4	私の教育史	私の教育史を書いてみる
5	社会教育とは	社会教育とは何か
6	社会教育施設調査	自分の居住自治体の社会教育リソース調査
7	コロナ過における教育のありかた	自治体による違い
8	市民組織	市民組織の役割
9	地域の市民組織	自分の居住地域における市民組織を調べてみる
10	コロナ過における市民組織	現在でも動いている市民組織はあるか
11	私の課題と社会教育 1	自分にとっての課題を探り学習課題化する
12	私の課題と社会教育 2	自分にとっての課題を探り学習課題化する
13	私の課題と社会教育 3	自分にとっての課題を探り学習課題化する
14	夏休みの課題設定	自分にとっての課題を探り学習課題化する

秋学期

回	テーマ	内容
15	夏休みにおける課題研究の検討	各自の課題にあわせて夏休みの計画を練る
16	レポート報告 (1)	夏休みの課題研究の発表
17	レポート報告 (2)	夏休みの課題研究の発表
18	社会教育施設見学 (3)	各自の課題にあわせて講座に参加
19	学習課題を講座・学習会として企画する①	目的、対象の検討
20	学習課題を講座・学習会として企画する②	内容の検討
21	学習課題を講座・学習会として企画する③	講師や場所の検討
22	講座・学習会の最終企画	話し合い
23	講座・学習会の講師打ち合わせ	実践
24	講座・学習会の最終検討、役割分担	実践
25	講座・学習会実施①	実践
26	講座・学習会実施②	実践
27	講座・学習会等の反省会	話し合い
28	講座・学習会等の記録作成・相互評価	演習の反省と感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会教育施設（公民館など）の調査・見学、講座参加、地域の情報収集、企画書作成、記録作成等。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料配布。参考文献は授業内で提示。

【参考書】

授業内で提示。

【成績評価の方法と基準】

授業や演習への積極的参加 (70%)、レポート等提出物 (30%) を総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

社会教育主事資格のためだけでなく、学校教育から卒業した後、貴重な学びの場となる社会教育をいかに自分自身に役立てるようにするか、という視点も大切にしているため、参加学生の興味関心に沿って授業を組み立てています。

【Outline and objectives】

We learn about social education in Japan. Ane you get a method of the learning to solve social problems as a social member.

生涯学習支援論

栗山 究

配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

成人の学習論・学習支援論の基本的な特徴を探り、各地の住民の学びあいの実践と関連づけながら、地域教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、住民の学びあいとその学びあいを支える人たちの役割を考察します。

受講者自身が社会教育施設の職員になったことを想定し、実際生活に即した具体的な実践事例を素材に、適時、そこでの学習記録・実践記録を分析的に読み込むことから、相互学習の場を地域社会に創り出すことの難しさや醍醐味を体験的に考察していきます。

【到達目標】

- (1) さまざまな背景をもつ学習者の特性に応じた学習支援のあり方を社会教育・生涯学習の視点から理論的に説明できるようになり、実践的に体感できるようにになります。
- (2) 持続可能な地域社会づくりという観点から住民が地域社会で主体的に学んでいることの意味を捉えられるようになります。
- (3) 社会教育職員・学習支援者の役割や学習者の学習の条件整備のあり方を理解し、説明することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と演習（グループワーク・ディスカッションなど）を組み合わせを進めていきます。春学期から演習形式の展開（相互学習）が中心となりますので、自分なりに学習した内容をふりかえり、その内容を探究していこうとする姿勢や行動は積極的に応援していきます。秋学期は、受講者自身が社会教育施設の職員になったことを想定し、実際生活に即した具体的な実践事例を素材に、適時、そこでの学習記録・実践記録を分析的に読み込むことから、相互学習の場を地域社会に創り出すことの難しさや醍醐味を体験的に考察していく予定です。

少人数の受講者で構成される社会教育主事資格課程科目であるという例年の特徴を活かし、授業内での相互学習を踏まえ、可能な限り実際の社会教育施設を訪問し、住民・社会教育職員とともに学習を深めていく機会等を用意したいと考えています。従って、下記の「授業計画」は、受講者人数・受講者相互の問題意識や興味関心の程度および現場の条件に応じて柔軟に変更していく可能性があります。

【2020 年 4 月 20 日追記】

新型コロナウイルス感染拡大の影響および予防のため、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。

授業初回は、4 月 24 日とし、初回の授業受講のための具体的な事項については、学習支援システムの本科目の「お知らせ」にて、4 月 21 日より提示しますので、必ず確認のうえ、受講してください。

なお、初回授業日以後の回の変更点については、本科目の学習支援システムにて、その都度提示していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会教育職員のおかれる現在を確認し、昨年までの事例を参考に授業の進め方を話し合います
2	学習論の展開① 行動主義	1970 年代から今日に至る学習論の展開を検討します
3	学習論の展開② 構成主義	得られた知見を共有し、基本となる特徴や課題を考察します
4	学習論の展開③ 状況的学習論など	レイブ&ウェンガーの理論などに学びます
5	学習論の展開④ 成人の学習論	ノーブルズのベダゴジー・アンドラゴジー概念に学びます
6	基礎教育の課題と展望	人間として生きることと学ぶこととの関連を考えます
7	ノンフォーマル教育① 定義	地域社会における多様な学び場を見つめなおします
8	ノンフォーマル教育② その可能性の検討	得られた知見を共有し、基本となる特徴や課題を考察します
9	ノンフォーマル教育③ 実践事例紹介	NPO など民間団体の実践から学習支援者の役割を考えます
10	学習の方法① 共同学習・話し合い学習	事例を通して、学習支援者の役割について理解を深めます
11	青年・若者の学習から考える① 映像視聴	青年会の実践から学習支援者の役割を考えます

12	青年・若者の学習から考える② 映像視聴	たまり場づくりの実践から学習支援者の役割を考えます
13	青年・若者の学習から考える③ グループ発表	若者を取り巻く社会環境の変遷から学習支援者の役割を考えます
14	中間のまとめ	これまでの学習を踏まえて各自の夏休みの課題を考えます

秋学期

回	テーマ	内容
15	社会教育事業や実践に接して	夏休みの課題レポートを報告しあいします
16	学習の方法② ふりかえり、ナラティブ	自らの実践を他者とともに聞く・語るという営みを考えます
17	学習の方法③ 記録をとることの意味	学習支援者に求められる力量とは何かを考えます
18	社会教育法制度からみる社会教育職員の役割	学習者の学びに寄り添う社会教育職員の役割を検討します
19	実践記録を読む：板橋区の事例から	学習支援者はどのような役割を果たしているかを考えます
20	社会教育事業の実践事例分析①	地域社会における住民の学びの諸相を検討し、事業計画を展望します
21	社会教育事業の実践事例分析②	NPO や社会教育関係団体との協働のあり方を考えます
22	社会教育事業の実践事例分析③	講座に参画する学習者の学習課題を検討します
23	社会教育事業の実践事例分析④	学習者主体の学びの条件整備のあり方を考え、その展開方法を検討します
24	社会教育事業の実践事例分析⑤	学習支援者が提供する／した学習素材を検討します
25	社会教育事業の実践事例分析⑥	学習者の学びあいと地域社会での実践の関わりを考えます
26	社会教育事業の実践事例分析⑦	企画運営会議での学びあいと成立した講座との関係を考えます
27	社会教育事業の実践事例分析⑧	講座を踏まえた新たな学習課題と地域社会での実践の展開を考えます
28	全体のまとめ	この授業での学習をどう生かしていくかを考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、受講者各位の関心に即して、教員が指定する文献・実践記録などを輪読し、検討する予定です。

秋学期は、持続可能な地域社会づくりに関する学習を取り扱った実際の社会教育事業の実践記録「3.11 以後の社会とエネルギー問題」を事前に配布する予定です。

それぞれ、授業当日までに読んできて、自身の考えを整理してきてください。

なお、春学期の学習は、受講者各位の関心に即して、通年を通じた学習として展開する場合もあります。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回テーマに応じて適宜、授業内で指示するほか、担当教員がレジュメを作成して配布します。

【参考書】

必要に応じて、各回の授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業（社会教育事業・施設見学を含む）への積極的な参加（40 %）と、夏休みと学年末のレポート課題（各 30 %）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初回の授業で通年授業の大まかな進め方・授業運営方針をガイダンスします。

社会教育固有の方法論ともいわれる「話し合い学習」を意識しながら授業は展開しますので、受講を希望される学生は、必ず出席するようにしてください。

なお、話し合い学習のもつ意味は、授業内で学習していきます。

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事の任用資格ならびに本年度から開始される社会教育士資格を取得するための文部科学省令で定められる「社会教育に関する科目」群の必修専門科目の一つに位置づきます。

本授業では、公立の社会教育施設で教育事業を担当した実務経験に基づき、そこでの教育活動の実践について解説する機会を適宜、設けていきます。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn fundamental features in Adult Learning and understand that various learning is being created among our lives living in contemporary society while associating with ourselves or Community education practice in each region.

Therefore, we will consider the following two aspects according to specific cases. The first is the role and subject of Adult and Community education to confront the various issues of contemporary society. The second is the role and meaning of Adult and Community education officer or Learning facilitator who are supporting residents' interactive learning.

視聴覚教育 I

原田 雅子

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館は多様な視聴覚教材（実物、データなど）を用いて教育を行う場である。現在博物館が扱うアナログ／デジタル情報についてデータの利活用も含めて俯瞰し、博物館で実施されている視聴覚教育法の概要と特徴を知る。また一部を体験することで、博物館での教育手法やその意義について学び、博物館または学校などの教育現場で生かせる知識を習得する。

【到達目標】

博物館で行われている視聴覚教育のありかたや様々な手法について知り、考えることで、適切な場面で必要な手法を行えるようになる。
また、博物館資料データの取り扱い・利活用の方法、著作権法などのメディアリテラシーの基礎を知ること、教育現場におけるデータの取り扱いを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と参加者によるディスカッションを行う。また、校外実習として博物館で行われる教育手法を体験する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義：博物館の機能	イントロダクション：博物館の役割と種類を俯瞰し、それぞれの役割と種類における情報媒体の在り方を知る。
2	講義：博物館と視聴覚教育の歴史	近現代の博物館教育の歴史を振り返り、その中で視聴覚教育がどのように発展してきたかをたどる。
3	講義：博物館での情報の記録	博物館は情報を集積する場所であるが、そこでどのように情報が収集、保存され、また、記録・管理されるのかを知る。
4	講義：博物館の収蔵品・展示物と情報デジタル化（1）	博物館では現在は多くの収蔵品の情報をデジタル化しているが、それによるメリット・課題を、実際に博物館がポータルサイト等を通じて公開しているデータを通じて考える。
5	講義：博物館の収蔵品・展示物と情報デジタル化（2）	デジタル化された博物館情報の中でも、とくに 3D 情報や位置情報など、21 世紀になって新たに注目されているデータの収集・活用を取りあげる。
6	講義：博物館の視聴覚教材	実際に博物館でどんなものが視聴覚教材として使われているかを考え、分類し、その分類の特徴に基づいてそれぞれの教材としての意義を考察する。
7	講義：博物館と様々な立場の人々の視聴覚教育	博物館はそもそも生涯学習の場として学齢期のみならず広い世代・立場（病気や障がい、貧困の有無など）の人々の教育を目的としている。それらの事例にスポットを当て、博物館がしている教育、できる教育を考える。また、実際に点字を打つことで、視覚偏重の博物館の在り方について考える。
8	講義：博物館と知的財産・メディアリテラシー	博物館での情報の発信の際にとくに重要になる著作権などの関連法規の基礎知識を学ぶ。
9	講義：博物館の展示物とブログを使った意見交換学習プログラムの体験（1）	博物館を訪れ、教員が用意したブログに投稿する形の学習プログラムを実施する。鑑賞教育の一つ、Visual Thinking Strategy についても紹介する。
10	演習：博物館の展示物とブログを使った意見交換学習プログラムの体験（2）	前回博物館で実施した学習プログラムの作品についてディスカッションを行い、その意義を考察する。また、学習プログラムそのものの改善点についても考察を行う。
11	講義：情報でつながる博物館	実際に博物館で行われた研究の中で、インターネットやテレビなどの媒体が効果的に使用された例や、ゲームやクラウドファンディングなど、新しい媒体を通じて博物館が基盤を強めていく取り組みを紹介する。

12	講義：自分の行いたい視聴覚教育を企画してみよう	博物館教育における未来予測に関する資料を紹介し、これまでの内容を踏まえて、自分が実施したい視聴覚教育プログラムについて考え、企画書や指導案を作ってみる。
13	講義：これからの視聴覚教育を考える	前回作成した企画書・指導案の内容の共有を行い、これまでの講義を振り返る。博物館における視聴覚教育とは何かを考える。
14	まとめ	テストを行うことで、全体の理解度を確認する。また、その内容について解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間を見つけて博物館の web サイトを見たり、博物館展示を見学したりすることで、講義の内容が理解しやすくなります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

博物館情報・メディア論（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

①授業への積極的な参加態度（出席等）（30 点満点）、②講義期間中の提出課題（30 点満点）、③講義最終回に実施するテスト（40 点満点）による。合計 100 点満点として 60 点以上が合格。ただし、①～③のうち 1 つでも 0 点のものがあれば不合格。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が毎年 10 名未満のため、アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

マルチメディア室の Windows 最新 OS 搭載のオンライン利用可能な PC を使用する場合がある。

【Outline and objectives】

The goals of this course are to

- (1) Understand the meaning and utilization of information at museums.
- (2) Obtain basic skills about utilization of various media at museum education.

視聴覚教育Ⅱ

原田 雅子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報提供のコンテンツの制作実習を通じ、多様な来館者に向けた情報発信のために、対象と学習目的を設定し、適切な情報の選択を行い、提供する情報を整理して発信できるようになることを目的とする。

【到達目標】

博物館において扱う情報の意義及び活用方法を理解する。
教育に関わる視聴覚メディアについて、実際にコンテンツを作成してみる中でその特性を理解し、情報発信において活用する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館における情報提供のコンテンツ作成実習を通じ、多様な来館者に向け、対象と学習目的を設定し、適切な情報の選択を行い、情報発信することを学ぶ。受講人数やコンテンツ作成の進行具合等により、授業計画は変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	博物館展示における情報発信	多様な学びのニーズに合わせた情報の提供について学ぶ。
2	情報発信の事例紹介	携帯情報端末の導入事例を元に、効果的な利用法を考える。
3	情報発信の対象設定	情報を伝える対象と目標の設定について学ぶ。
4	ソフト実習	コンテンツを制作するソフトウェアの使い方を学ぶ。
5	情報デザイン（1）	制作するコンテンツの全体構成および用いるメディアについて検討する。
6	情報デザイン（2）	制作するコンテンツの全体構成および用いるメディアについて検討する。
7	コンテンツ作成（1）	情報を伝えるために必要な素材を集める。
8	コンテンツ作成（2）	これまでに集めた素材を編集する。
9	コンテンツ作成（3）	これまでに集めた素材を編集する。
10	コンテンツ作成（4）	中間発表と、相互評価を行う。
11	コンテンツ作成（5）	評価をもとに修正点を整理し、コンテンツの更新を行う。
12	完成したコンテンツの講評	全体の構成をチェックし、完成したコンテンツの発表と相互評価を行う。
13	コンテンツの改善	作成したコンテンツの課題の抽出と改善を行う。
14	理想の博物館コンテンツを考える	博物館が行うべき情報発信の姿について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館における情報発信の演習を行うので、時間を見つけて博物館の web サイトを見たり、博物館展示を見学したりすることをすすめます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

博物館情報・メディア論（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

①講義の中で作成したコンテンツおよびレポート（70 点満点）、②講義への積極的な参加態度（出席等）（30 点満点）を考慮して判断します。
60 点以上で合格としますが、①②いずれか 0 点の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が毎年 10 名未満のため、アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

マルチメディア室の Windows 最新 OS 搭載のオンライン利用可能な PC を使用する場合があります。

【Outline and objectives】

The goals of this course are to

- (1) Understand the meaning and utilization of information at museums.
- (2) Obtain basic skills about utilization of various media at museum education.

特別な教育的ニーズの理解と支援

山下 洋児

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害、外国籍あるいは家庭養育基盤が弱いことなどにより、特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ち、また、子どもたちが生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に付け、当該子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインで開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 6 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
※以下の計画は変更することになる。
特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生きづらさに気付き、どのような理解、支援を行えばよいのか、考えを深められるよう、映像等も使いながら、具体的な事例を伝え、授業を行う。講義が中心であるが、グループワーク、発表も適宜取り入れる。リアクションペーパーは毎時間提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義の目的、授業の進め方、評価の仕方。受講者自身の「特別な支援を必要とする児童・生徒」に関わる学校体験を振り返る。
第 2 回	特別支援教育の概要	特別支援教育の概要（理念・制度・歴史）と、教師として特別な支援を必要とする子どもたちをどのように理解するかということについて学ぶ。
第 3 回	認知特性とは何か	発達障害の「認知特性・障害特性」について、事例に沿って学ぶ。
第 4 回	自閉症スペクトラム障害のある子どもとその支援	自閉症スペクトラム障害について概要と具体例を学ぶ。
第 5 回	AD/HD、ADD のある子どもとその支援	AD/HD、ADD について概要と具体例を学ぶ。
第 6 回	学習障害のある子どもとその支援	学習障害について概要と具体例を学ぶ。
第 7 回	(軽度) 知的障害のある子どもとその支援	知的障害について概要と具体例を学ぶ。
第 8 回	肢体不自由・病弱の子どもとその支援	肢体不自由・病弱教育について概要と具体例を学ぶ。
第 9 回	家庭基盤の弱い子どもとその支援	不適切な養育状況にある子ども、貧困状況にある子ども等との概要と具体例について学ぶ。
第 10 回	個別の指導計画、教育支援計画	障害だけでなく、特別な支援が必要な子どもについて知り、インクルーシブ教育、合理的配慮について学ぶ。
第 11 回	多様な関係・連携と支援	個別の指導計画、教育支援計画の意義と作成について学ぶ。
	介護等体験の意義と留意点	学校内における連携、学校外の関係諸機関との連携について学ぶ。
		介護体験の意義と留意点について学び、特別支援学校のエデュケーション・イメージをもつ。

第 12 回 まとめ：特別支援教育の今後の展望
特別支援教育の今後の展望について学び、自身が教員になった際のイメージをもつ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、1 回ずつが単独で終わるのではなく、他の回とも関連し合っている。授業で配布された資料をていねいに読み返すこと。また、日常的に、特別支援教育に関わるニュースやテレビ番組等に意識を向けておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定。配布資料は、その回の授業だけでなく、他の回の授業、期末テスト等に必要になるので、整理して保存すること。

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための「特別な教育的ニーズ」をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015 年
その他、適宜講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

※以下の方法、基準は変更となる。

平常点（毎時間の理解を示すリアクションペーパー等）60 % + 期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

公立中学校教員として勤務した経験からのエピソード、映像などを使用して行った授業が分かりやすかったという学生からの意見を参考にし、引き続き分かりやすい授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

公立中学校特別支援学級教員の経験を活かし、特別支援教育に関わる今日的な課題についての授業を行う。

【Outline and objectives】

Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.

特別な教育的ニーズの理解と支援

山下 洋児

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害、外国籍あるいは家庭養育基盤が弱いことなどにより、特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ち、また、子どもたちが生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子ども達の心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生きづらさに気付き、どのような理解、支援を行えばよいのか、考えを深められるよう、映像等も使いながら、具体的な事例を伝え、授業を行う。講義が中心であるが、グループワーク、発表も適宜取り入れる。リアクションペーパーは毎時間提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義の目的、授業の進め方、評価の仕方。受講者自身の「特別な支援を必要とする児童・生徒」に関わる学校体験を振り返る。
第 2 回	特別な支援を必要とする子どもたち	特別支援教育の概要と、教師として特別な支援を必要とする子どもたちをどのように理解するかということについて学ぶ。
第 3 回	認知特性とはなにか	発達障害の「認知特性・障害特性」について、事例に沿って学ぶ。
第 4 回	自閉症スペクトラム障害のある子どもとその支援	自閉症スペクトラム障害について概要と具体例を学ぶ。
第 5 回	AD/HD, ADD のある子どもとその支援	AD/HD, ADD について概要と具体例を学ぶ。
第 6 回	学習障害のある子どもとその支援	学習障害について概要と具体例を学ぶ。
第 7 回	軽度知的障害のある子どもとその支援	知的障害について概要と具体例を学ぶ。
第 8 回	肢体不自由・病弱の子どもとその支援	肢体不自由・病弱教育について概要と具体例を学ぶ。
第 9 回	家庭基盤の弱い子どもとその支援	不適切な養育状況にある子ども、貧困状況にある子ども等の概要と具体例について学ぶ。
第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	障害だけでなく、特別な支援が必要な子どもについて知り、インクルーシブ教育、合理的配慮について学ぶ。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	個別の指導計画、教育支援計画の意義と作成について学ぶ。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	学校内における連携、学校外の関係諸機関との連携について学ぶ。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護体験の意義と留意点について学び、特別支援学校の実践活動のイメージをもつ。
第 14 回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	特別支援教育の今後の展望について学び、自身が教員になった際のイメージをもつ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、1 回ずつが単独で終わるのではなく、他の回とも関連し合っている
で、授業で配布された資料をていねいに読み返すこと。また、日常的に、特
別支援教育に関わるニュースやテレビ番組等に意識を向けておくこと。本授
業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定。配布資料は、その回
の授業だけでなく、他の回の授業、期末テスト等に必要になるので、整理し
て保存すること。

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための『特別な教育
的ニーズ』をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015 年
その他、適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎時間の理解を示すリアクションペーパー等）60 % + 期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

公立中学校教員として勤務した経験からのエピソード、映像などを使用して
行った授業が分かりやすかったという学生からの意見を参考にし、引き続き
分かりやすい授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

公立中学校特別支援学級教員の経験を活かし、特別支援教育に関わる今日的
な課題についての授業を行う。

【Outline and objectives】

Support and Understand for Special Educational Needs, concretely
developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority,
poverty, child abuse and so on.

総合的な学習の時間の指導法

本山 明

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考
え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的
な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科
との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的
な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、より
よく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合
的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の
評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考
え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活
の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「総合的な学習の時間」な学習指導理論を理解し、学習指導案の内容を子ども
の認識や思考、学力などの実態に沿ったものに作成できるようにする。また模
擬授業の実施と振り返りを通して授業改善の視点を身につける。「総合的な学
習の時間」における実践研究の動向を紹介し、グループワーク・問題解決学
習など主体的・対話的で深い学びの授業設計の向上に取り組めるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（ね らいと目標、進め方）	学生の「総合的な学習の時間」の体験 を振り返り、その意義について共有化 をはかる。
2	「総合的な学習の時間」の 位置づけ（目標、授業時 数、他教科との関連）	戦後の学習指導要領にみる「総合的な 学習の時間」戦後初期のコア・カリ キュラムの示唆するもの
3	カリキュラム上の特徴 （問題解決型学習や探求 的な学習）	教育課程と校内体制。指導計画の基本 的考え方。SDGs と「総合的な学習の 時間」
4	実社会に活かす学び（学 校教育と実社会経験の架 橋）	体験活動・情報活用能力・シティズン シップ教育・地域との連携（フィール ドワークを含む）
5	アクティヴ・ラーニング の技法	問題解決型学習・参加型学習・探究的 な学習・他者と協同して取り組む学習 の実際
6	具体的な実践例（社会科 系）と評価方法	公正な社会世界・共生を創る実践と評 価
7	具体的な実践例（理科系 ）と評価方法	循環型社会・気候変動を中心にした実 践と評価
8	学校ごとの目標の立て方 （目標と診断的評価）	「総合的な学習の時間」の目標と育成 を目指す資質・能力。評価の方法・ボ イント
9	年間計画と指導案作成の 理解	クラス・学年・学校を単位とした年間 計画と指導案
10	指導案作成の実践的学習	探究のプロセスのポイントと思考ツ ールの使用による協同学習
11	指導案改善の観点と方法	課題設定・情報収集・整理分析・ま とめ表現の観点と方法を改善する
12	指導案改善の実践的学習	生徒同士の学び合い学習視点での指導 案の改善
13	授業指導案の発表と講評 （中学校）	中学校における授業指導案の発表と講 評
14	授業指導案の発表と講評 （高校）	高校における授業指導案の発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「総合的な学習の時間」のテーマを考える上で、毎日、新聞を 30 分以上読み、
新聞スクラップブックを作成する。定型用紙は授業者が用意し、そこに自分
のコメントを書き込み提出する。新聞が手元に無い場合は、図書館の新聞を
コピーし使用する事。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜、指示する。

【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
文部科学省（2008 / 2010）『中学校／高等学校学習指導要領解説総合的な学
習の時間編』海文堂出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（各時間の提出レポート・新聞スクラップの中で授業者が評価に必要な
 であるとしたもの）50 %
 最終提出の授業計画案（授業指導案）、期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

必要な時は指示する。

【その他の重要事項】

質問事項などは、授業後お願いします。1999 年より公立中学校で 15 年間、
 「総合的な学習の時間」の責任者を経験。現場の実践に役立つ授業をしていく。

【授業中に求められ学習活動】

広く豊かな社会認識を身につけるため積極的な発言、対話を期待する。

【Outline and objectives】

Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this
 subject, flame of purpose and contents in each school, how to make
 taching plans, the way of evaluation of students'grades.

総合的な学習の時間の指導法**本山 明**

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考
 え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的
 な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科
 との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的
 な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、より
 よく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合
 的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の
 評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考
 え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活
 の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
 を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
 成果との関連）】**

【授業の進め方と方法】

5 月 11 日を開始日とする。

学習支援システムに教材・資料を掲示し課題を課すなどの方法でオンライン
 で行います。「総合的な学習の時間」な学習指導理論を理解し、学習指導案の
 内容を子どもの認識や思考、学力などの実態に沿ったものに作成できるよう
 にする。また模擬授業の実施と振り返りを通して授業改善の視点を身に着け
 る。「総合的な学習の時間」における実践研究の動向を紹介し、グループワ
 ーク・問題解決学習など主体的・対話的で深い学びの授業設計の向上に取り組
 めるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（ね らいと目標、進め方）	学生の「総合的な学習の時間」の体験 を振り返り、その意義について共有化 をはかる。
2	「総合的な学習の時間」の 位置づけ（目標、授業時 数、他教科との関連）	戦後の学習指導要領にみる「総合的な 学習の時間」戦後初期のコア・カリ キュラムの示唆するもの
3	カリキュラム上の特徴 （問題解決型学習や探求 的な学習）	教育課程と校内体制。指導計画の基本 的考え方。SDGs と「総合的な学習の 時間」
4	実社会に活かす学び（学 校教育と実社会経験の架 橋）	体験活動・情報活用能力・シティズン シップ教育・地域との連携（フィール ドワークを含む）
5	アクティブ・ラーニング の技法	問題解決型学習・参加型学習・探究的 な学習・他者と協同して取り組む学習 の実際
6	具体的な実践例（社会科 系）と評価方法	公正な社会世界・共生を創る実践と評 価
7	具体的な実践例（理科系） と評価方法	循環型社会・気候変動を中心にした実 践と評価
8	学校ごとの目標の立て方 （目標と診断的評価）	「総合的な学習の時間」の目標と育成 を目指す資質・能力。評価の方法・ポ イント
9	年間計画と指導案作成の 理解	クラス・学年・学校を単位とした年間 計画と指導案
10	指導案作成の実践的学習	探究のプロセスのポイントと思考ツ ールの使用による協同学習
11	指導案改善の観点と方法	課題設定・情報収集・整理分析・ま とめ表現の観点と方法を改善する
12	指導案改善の実践的学習	生徒同士の学び合い学習視点での指導 案の改善
13	授業指導案の発表と講評 （中学校） （11 回に統合）	中学校における授業指導案の発表と講 評
14	授業指導案の発表と講評 （高校） （12 回に統合）	高校における授業指導案の発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「総合的な学習の時間」のテーマを考える上で、毎日、新聞を 30 分以上読み、
 新聞スクラップブックを作成する。定型用紙は授業者が用意し、そこに自分
 のコメントを書き込み提出する。新聞が手元に無い場合は、図書館の新聞を
 コピーし使用する事。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜、指示する。

【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
文部科学省（2008／2010）『中学校／高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』海文堂出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（各時間の提出レポート・新聞スクラップの中で授業者が評価に必要な
であるとしたもの）50％
最終提出の授業計画案（授業指導案）、期末レポート 50％

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

必要な時は指示する。

【その他の重要事項】

質問事項などは、授業支援システムで行います。1999 年より公立中学校で 15
年間、「総合的な学習の時間」の責任者を経験。現場の実践に役立つ授業をし
ていく。

【授業中に求められ学習活動】

広く豊かな社会認識を身につけるため積極的な発言、対話を期待する。

【Outline and objectives】

Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this
subject, flame of purpose and contents in each school, how to make
taching plans, the way of evaluation of students'grades.

社会・地歴科教育法（1）

石出 法太

サブタイトル：社会・地歴科教育法

配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標と内容を理解しながら、地
歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学びます。その上で、学
習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り
返りを通して授業改善の視点を身に着けます。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標と
内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たっ
て必要な知識や資質・能力を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は主に社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学
び、秋学期は具体的な授業テーマ（歴史が軸になります）をとりあげ、教科書
と学習方法などを具体的に学びます。授業は講義と質疑、模擬授業、学生に
よる発表です。状況により授業形態・計画の変更もあります。オンライン授
業の開始は 4 月 21 日。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の授業予定の確認	1 年間の授業計画の提示やアンケート、 現在の社会と教育の問題をとりあげる。
2	社会・地歴科とは何か	社会・地歴科教育の現状と課題をとり あげる。
3	社会科前史	近代教育の出発と国定教科書をとりあ げる。
4	戦争と教科書	戦争と教育とのつながりを考える。
5	敗戦と教育	敗戦がもたらしたものと戦後教育の出 発点を考える。
6	社会科の成立	教育改革と社会科、学習指導要領の成 立を考える。
7	戦後の社会科	日本の教育、社会科の変化を冷戦とい う視点から考える。
8	社会科のあゆみ	学習指導要領の変遷と教科書の変化を とりあげる。
9	教科書問題	「うれうべき教科書の問題」などを社 会の変化から考える。
10	教科書裁判	家永教科書裁判と検定の問題をとりあ げる。
11	社会科の課題	80 年代以降の社会科につながる問題 をとりあげる。
12	地歴科の課題	今日につながる歴史認識にかかわる問 題をとりあげる。
13	授業案の作成	歴史の授業をどうつくっていくのか模 擬授業も含め考える。
14	春学期のまとめとテスト の実施	春学期のまとめと確認テストをおこな い、夏季課題の説明をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求
められます。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビ
のニュースなどを見るように努めてください。日本や世界で今おこっている
様々なことを説明できますか。鋭い歴史認識・現代認識を身につけてくださ
い。授業中に紹介した文献も読んでみましょう。本を読むことは教員の仕事
の一つともいえます。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提
出を求める場合もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準
とします。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

授業中の文献を紹介、プリントを配布します。学習指導要領や中高の教科書
は研究・検討の対象になります。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10％）、毎時間提出の感想・レポート・学習指導案の提
出（30％）、二回の試験（60％）を総合的に勘案して評価します。状況によ
り変更もあります。

【学生の意見等からの気づき】

実践的な役に立つ授業を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがあります。

【授業中に求められる学習活動】

毎授業時の講義は教員と学生との双方の対話が大切であるので、積極的な授業参加を期待します。

【授業中に求められる学習活動】

授業時の視聴覚学習やレポートには意欲的にとりくむ姿勢が求められます。

【Outline and objectives】

While studying the history of social studies and understanding the goals and contents of the course of study,

Learn the basics of teaching materials, learning methods and evaluation methods in the field of history. In addition, studies

We created a training instruction plan and implemented simulated lessons (educational practice research)

Through returning to learn perspective of improving classes.

社会・地歴科教育法（2）

石出 法太

サブタイトル：社会・地歴科教育法

配当年次／単位：2～4 年次／ 4 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学びます。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着けます。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は主に社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさながら学び、秋学期は具体的な授業テーマ（歴史が軸になります）をとりあげ、教科書と学習方法などを具体的に学びます。授業は講義と質疑、模擬授業、学生による発表です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期の授業予定の確認	夏季の課題の提出と後期授業の進め方についてのオリエンテーションをおこなう。
2	現代をどうとらえるか	社会・地歴科の授業につながる現在の世界と日本の出来事について考える。
3	学習指導案と授業	夏季課題の授業案と模擬授業を含め授業の検討を行なう。
4	授業研究 その 1 日本とアジア	指導案の実例と検討をアジアからの視点でおこなう。
5	授業研究 その 2 アジアと世界	指導案の実例と検討をアジアと世界の視点でおこなう。
6	授業研究 その 3 民族問題	指導案の実例と検討を民族という視点からおこなう。
7	授業研究 その 4 植民地支配	指導案の実例と検討を植民地支配をあげて世界と日本からおこなう。
8	授業研究 その 5 第一次世界大戦	指導案の事例と検討を帝国主義という視点から考える。
9	授業研究 その 6 民族運動	指導案の実例と検討をアジアの民族運動という視点からおこなう。
10	授業研究 その 7 ファシズムの問題	指導案の実例と検討を現代的・政治的な視点からおこなう。
11	授業研究 その 8 第二次世界大戦	指導案の実例と検討を戦争の加害と被害という視点からおこなう。
12	実践授業研究 その 1 戦後史の模擬授業	指導案と模擬授業の検討を日本の敗戦と戦後の出発点から考える。
13	実践授業研究 その 2 現代世界の模擬授業	指導案と模擬授業の検討を現在世界でおこっている出来事から考える。
14	秋学期のまとめと確認テスト	授業のふりかえりと確認テストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められます。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてください。日本や世界で今おこっている様々なことを説明できますか。鋭い歴史認識・現代認識を身につけてください。授業中に紹介した文献も読んでみましょう。本を読むことは教員の仕事のひとつともいえます。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

授業中の文献を紹介、プリントを配布します。学習指導要領や中高の教科書は研究・検討の対象になります。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10 %）、毎時間提出の感想・レポート・学習指導案の提出（30 %）、二回の試験（60 %）を総合的に勘案して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実践的な役に立つ授業を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがあります。

【授業中に求められる学習活動】

毎授業時の講義は教員と学生との双方の対話が大切であるので、積極的な授業参加を期待します。

【授業中に求められる学習活動】

授業時の視聴覚学習やレポートには意欲的にとりくむ姿勢が求められます。

【Outline and objectives】

While studying the history of social studies and understanding the goals and contents of the course of study,

Learn the basics of teaching materials, learning methods and evaluation methods in the field of history. In addition, studies

We created a training instruction plan and implemented simulated lessons (educational practice research)

Through returning to learn perspective of improving classes.

社会・公民科教育法（1）

松山 尚寿

サブタイトル：社会・公民科教育法

配当年次／単位：2～4 年次／ 4 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざし、社会・公民科における教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会科教育の歴史と現状をまずおさえ、問題点と課題をさぐり、実践的な内容と方法の検討へと進めていく予定です。授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。本授業の開始日を 5 月 11 日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	民科と教師の力量形成
2	公民教育の意義と役割	公民的資質とは何か
3	公民教育の歴史	学習指導要領の変遷
4	学習指導要領と公民科	社会科、地理歴史科、公民科の全体構造
5	公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討 (1)	中学校公民的分野
7	実践事例の検討 (2)	高等学校公民科
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材研究・教材開発の視点・方法	教材とは
10	学習指導の工夫	情報機器及び教材の効果的な活用
11	学習指導の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討 (1)	中学校公民的分野
13	学習指導案の検討 (2)	高等学校公民科
14	前期のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。次の授業への課題を時々出します。その課題にはしっかりと取り組んでください。また、社会科教師をめざす学生として、日常的に世界と日本の動向・問題点・課題に関心を持ち、報道や論説に注目するようにしてほしいと思います。世の中の重要な問題について、関心や自分の意見がないようでは困ります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定せず、教材プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

文部科学省「中学校、高等学校学習指導要領 社会、公民」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

平常点（25 %）、宿題・予習課題（40 %）、夏期・冬期のレポート課題（35 %）によって総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生の問題関心に配慮しながら、少しずつ要求水準を引き上げていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。また Google のアプリ「Classroom」を授業で活用します。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【授業中に求められる学習活動】

None.

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

社会・公民科教育法（2）

松山 尚寿

サブタイトル：社会・公民科教育法

配当年次／単位：2～4 年次／ 4 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざし、社会・公民科における教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会科教育の歴史と現状をまずおさえ、問題点と課題をさぐり、実践的な内容と方法の検討へと進めていく予定です。授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
2	実践研究	中学校公民的分野 グループによる提案と質疑
3	実践研究	高等学校「公民」 グループによる提案と質疑
4	実践研究	高等学校「倫理」 グループによる提案と質疑
5	実践研究	高等学校「政治・経済」 グループによる提案と質疑
6	模擬授業	中学校公民的分野 現代社会を捉える視点
7	模擬授業	中学校公民的分野 社会にみられる課題の解決
8	模擬授業	高等学校「公共」 人間と社会のあり方
9	模擬授業	高等学校「公共」 公共的な空間に見られる課題の解決
10	模擬授業	高等学校「倫理」 人間としてのあり方
11	模擬授業	高等学校「倫理」 現代の倫理的諸課題の解決
12	模擬授業	高等学校「政治・経済」 社会のあり方
13	模擬授業	高等学校「政治・経済」 社会に見られる課題の解決
14	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
次の授業への課題を時々出します。その課題にはしっかりと取り組んでください。また、社会科教師をめざす学生として、日常的に世界と日本の動向・問題点・課題に関心を持ち、報道や論説に注目するようにしてほしいと思います。世の中の重要な問題について、関心や自分の意見がないようでは困ります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定せず、教材プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

文部科学省「中学校、高等学校学習指導要領 社会、公民」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

平常点（25 %）、宿題・予習課題（40 %）、夏期・冬期のレポート課題（35 %）によって総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生の問題関心に配慮しながら、少しずつ要求水準を引き上げていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。また Google のアプリ「Classroom」を活用して授業を行います。

【その他の重要事項】

秋学期の授業は春学期の履修を前提に進めるので、春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【授業中に求められる学習活動】

None.

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

情報科教育法 I

御園生 純

サブタイトル：情報科教育法

配当年次／単位：2～4 年次／ 4 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得し、情報に関する科学的な見方や考え方や情報化の進む社会に積極的に参画することができる能力・態度である「情報活用能力」を養うための授業運営の理論および実践方法の習得を目指す。

【到達目標】

・教科「情報」設置の理念と社会的背景・高等学校全体の教育課程における位置づけを学ぶ。
・共通教科「情報」と専門教科「情報」の違い、および共通教科「情報」と他教科との関連等について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は教科情報の成立過程のその目的や政策的な背景、授業運営の理論などを講義を中心に展開する。秋学期は年間計画、単元計画、授業指導案の作成を目標として受講者による発表や模擬授業を実施する。

また、単に情報科の教員免許取得にとどまらず、教職を目指すものとして必要不可欠な教育観、人権観、などについても、担当者が実施している東南アジアへのスタディツアー等の紹介を含めて、受講者同士の討議を中心に理解を深めていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教科情報設置の経緯とその精神について	なぜ教科「情報」が設けられたのか、その背景と社会的状況について理解する。
2	ディスカッション：高校時代に受けた教科「情報」とはどんな授業だったか？	高校での情報の授業がその後の社会生活でどのように機能しているのかについて
3	普通科目「情報」と専門科目「情報」比較	他科目・高等学校の教育課程全体との関係の構造的な理解
4	普通教科情報情報の3つの観点と授業内容～情報活用能力とは	何を教えるのか？ そのためにどんな知識・技能が必要なのか？
5	問題解決と課題解決の授業の観念的・理論的理解	問題解決の理論と論理的思考について
6	「情報A」「情報B」から「情報の科学」への変更点	情報社会の変遷の現状とこれからの社会に求められる知識と技術について
7	「情報の科学」の内容と指導計画の概要	年間指導計画と科目目的との整合性について
8	「情報の科学」の授業例～情報A・Bとの相違点を中心に	学習指導要領改訂の目的の理解と情報テクノロジーの変遷について
9	「情報A」「情報C」から「社会と情報」への変更点	「情報の科学」「社会と情報」の各々の到達点と授業運営についての理解
10	「社会と情報」の内容と指導計画の概要	授業内容の理解と把握
11	「社会と情報」の授業例～情報Cとの相違点を中心に	社会における情報技術の活用の実際とその問題点について
12	「情報」教員に求められるスキル、学習指導案の考え方・書き方	授業設計のデザインと単元の組み立てについて
13	メディアリテラシーの概念と指導法	各種ソーシャルメディアや情報受発信に必要なリテラシーについて
14	Webとユーザビリティ、ユニバーサルデザインの理論、SNSの光と影	SNSなどの活用と実際の問題状況について

秋学期

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習指導要領・高等学校「情報編」をあらかじめ精読しておくこと
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習指導要領・高等学校「情報編」

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

ありません。

【学生が準備すべき機器他】

ありません

【その他の重要事項】

ありません

【Outline and objectives】

The course of Teaching Method of Information Sciences (Joho-ka Kyoiku-ho) is made up of the two classes, Teaching Method I and II. The objectives of Teaching Method I are mainly for students to learn the basic knowledges and skills on information and information technologies, and to understand the goals of the subject and its positioning in the Course of Study for high schools.

情報科教育法Ⅱ

御園生 純

サブタイトル：情報科教育法

配当年次／単位：2～4 年次／ 4 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- I. 教科「情報」の概要と意義
- II. 情報活用の実践力・情報の科学的理解
- III. 情報化社会に参画する態度
- IV. 教科「情報」における学習指導
- V. 教科「情報」のカリキュラム・指導計画作成

以上 5 つの項目について、以下授業の構成の内容で講義・実習をおこなう。

【到達目標】

実際に高校での授業運営が可能な実践的な教職能力の習得。

授業指導案の作成能力の獲得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期は教科情報の成立過程のその目的や政策的な背景、授業運営の理論などを講義を中心に展開する。後期は年間計画、単元計画、授業指導案の作成を目標として受講者による発表や模擬授業を実施する。

また、単に情報科の教員免許取得にとどまらず、教職を目指すものとして必要不可欠な教育観、人権観、などについても、受講者同士の討議を中心に理解を深めていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報社会に参画する態度 I ～受益者・受信者として。	E コマースなどの消費者としての取り組み
第 2 回	情報社会に参画する態度 II ～発信者として。	SNS などの発信者としての取り組みと問題。
第 3 回	メディアリテラシー、電子コミュニケーション	SNS などの活用と実際
第 4 回	情報と職業	IT 技術によって労働の形態がどのように変わっていくのか？
第 5 回	あたらしい労働専門性と労働のスタイル、電子決済や仮想通貨について	消費者教育としての情報教育
第 6 回	情報教育の理論～キーコンピテンシーとしての情報教育	あたらしい基礎リテラシーとしての情報教育
第 7 回	情報テクノロジーの進化と教職の変化	教職専門性と情報技術について
第 8 回	問題解決能力について	論理的思考と問題解決の手法
第 9 回	教科「情報」と「総合的な学習の時間」	教育課程全体における情報科の位置づけ
第 10 回	他教科との連携と協働、プレゼンテーションとディスカッション・コラボレーション	プレゼンテーションツールの利用方法について
第 11 回	情報教育における評価方法	授業評価（生徒の評価と授業の評価の関係について）
第 12 回	教師の自己点検と授業評価、学習環境の整備と保守	クラス全体を評価する～偏差値の重要性
第 13 回	「情報」の授業のイメージ作り	授業の入り口と出口～なにを習得させるのか？
第 14 回	学習計画の作成	年間指導計画の作成
秋学期		
回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特にありませんが、定期的に課題を課します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高等学校学習指導要領「総則」編

高等学校学習指導要領「情報」編

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、実際に教壇に立った時に必要となる実践的な授業運営方法について模擬授業などを通じて学びます。

【その他の重要事項】

担当者のメールアドレスと web サイトです。

miso@misonou.com

http://misonou.com

【Outline and objectives】

The aims of this lecture is basic knowledge as a teacher of subject information and acquisition of educational technology.

福祉社会学 I

堅田 香緒里

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉が社会の中でどのような意味や機能をもつのかについて学ぶ。

【到達目標】

- 1) 福祉国家の歴史／学説史を理解する。
- 2) 現代社会における福祉の意味や機能ならびに課題を理解する。
- 3) これからの福祉社会を展望するために必要な基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、社会が福祉を必要としてきた背景やそれを支えてきた理念や規範について、福祉国家の歴史および学説史の検討を通して学ぶ。そのうえで、講義の後半では、現代社会における福祉の意味や課題を理解するために重要な幾つかの論点を取り上げ、解説する。これらを通して、これからの福祉社会を展望するために必要な基礎的能力を養うことを目的とする。なお、授業計画は、参加者の興味・関心および進捗状況に応じて変更の可能性もある。

※ 5/8 に初回授業を行います。詳細は、学習支援システムのお知らせ欄を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	福祉とは何か、必要とは何か
2	福祉国家とは何か	福祉国家の目的・編成・機能
3	福祉国家の歴史①生成期	救貧法から戦後福祉国家誕生まで
4	福祉国家の歴史②拡大期	社会支出の増大、社会権の確立
5	福祉国家の歴史③危機と再編	右派からの批判、「新しい社会運動」による異議申し立て
6	福祉国家論①	産業主義理論、権力資源論から福祉レジーム論へ
7	福祉国家論②	福祉レジーム論の新展開、脱商品化と脱家族化
8	福祉国家論③	福祉レジーム論への批判と、新しいレジーム論
9	シティズンシップ	権利と義務、市民共和主義と自由主義、フェミニスト・シティズンシップ、国籍と難民
10	自由とセキュリティ	「生の保障」と「治安」、福祉国家の監視国家化
11	ケアと再生産	生産、再生産、ケア、家事労働
12	自立と依存	フェミニズム／障害学が投げかける問い
13	再分配と承認	「声」の政治、マイノリティ
14	授業内試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマに関わる文献やニュースから情報を積極的に集め、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義は毎回の配布資料に沿って進めます。

【参考書】

武川正吾（2011）『新版・福祉社会—包摂の社会政策』有斐閣
アルマ平岡公一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人（2011）『社会福祉学』有斐閣など

【成績評価の方法と基準】

原則的には学期末の筆記試験による（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの応答を引き続き積極的に行う。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the history and the function of modern welfare state.

福祉社会学Ⅱ

堅田 香緒里

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉政策および周辺の諸政策について学び、そのうえで、今日の福祉政策が抱える課題やそれを克服するための展望について考える。

【到達目標】

- 1) 既存の福祉政策の内容や目的・背景にある規範を理解する。
- 2) 福祉政策が現在直面している課題について理解する。
- 3) これからの福祉政策のあり方について各々が展望する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

今日、福祉国家を支えてきた様々な社会的諸条件が揺らぐ中、福祉政策の再編が進行しつつある。こうした現代的文脈を踏まえ、講義の前半では、とりわけ日本の福祉政策および周辺の諸政策を取り上げ、その目的・内容及び背景にある規範について学ぶ。講義の後半では、これらの福祉政策が現代社会において直面している諸課題を検討し、それを克服するために近年検討されている新しい政策構想に触れ、これからの福祉政策のあり方を展望する。
※授業計画は、参加者の興味・関心や進捗状況に応じて変更の可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	福祉政策の目的・編成・機能
2	福祉政策の実際①：障害者福祉	自立生活、介助サービス
3	福祉政策の実際②：高齢者福祉	介護保険、介護労働、ケア
4	福祉政策の実際③：子ども家庭福祉	社会手当、保育サービス、ソロマザー
5	福祉政策の実際④：低所得者福祉	生活保護、生活福祉資金、生活困窮者支援
6	福祉政策の周辺①：健康の保障	医療保険、予防的介入
7	福祉政策の周辺②：教育の保障	教育政策、奨学金
8	福祉政策の周辺③：住宅の保障	公営住宅、「ホームレス」政策
9	福祉政策の現代的課題①	雇用の不安定化に伴う諸課題
10	福祉政策の現代的課題②	家族の不安定化に伴う諸課題
11	福祉政策の現代的課題③	コミュニティの再編に伴う諸課題
12	新しい福祉政策①	ワークフェア、アクティベーション
13	新しい福祉政策②	ベーシックインカム、参加所得
14	授業内試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマに関わる文献やニュースから情報を積極的に集め、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義は毎回の配布資料に沿って進めます。

【参考書】

三重野卓・平岡公一編（2006）『改訂版・福祉政策の理論と実際—福祉社会学研究入門』東信堂
 坪洋一・堅田香緒里・金子充・西村貴直・畑本裕介（2011）『社会政策の視点—現代社会と福祉を考える』法律文化社

【成績評価の方法と基準】

原則的には学期末の筆記試験による（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出してもらうリアクションペーパーへの授業内応答を、引き続き行う。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of challenges and prospects facing modern welfare state.

グローバル社会のローカリティ／地域社会学

中筋 直哉

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前世紀の国民国家に組み込まれた地域社会とは異なる、グローバル化した現代社会におけるローカルな場所の実態と意味を、主に社会学の方法に基づいて理解する。とくに場所の間を移動していく人びとの生活のリアリティに重点を置く。

【到達目標】

- ・新しいローカリティの可能性と困難を、肯定的にせよ批判的にせよ事実とデータに基づいて理解・説明できる。
- ・新しいローカリティを踏まえた社会形成についての自らの考えを論理的に表明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式でパワーポイントを使用する他、授業支援システムで事前に資料を配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	ローカリティとは何か 1	国民国家の構成要素としての地域社会
3	ローカリティとは何か 2	グローバル化による地域社会の脱構築
4	ローカリティの諸形態 1	親密圏の解体と再生
5	ローカリティの諸形態 2	農山漁村の生存戦略
6	ローカリティの諸形態 3	世界都市と分極化
7	ローカリティの諸形態 4	境界と辺境をめぐるゲーム
8	事例研究的講義	新しいローカリティの事例紹介
9	事例をめぐる質疑と討論	事例をめぐるグループディスカッション
10	人びとの移動と定着 1	移民・難民たちのレガシース
11	人びとの移動と定着 2	リアリティ・トランジットとアート
12	人びとの移動と定着 3	旅する信仰と思想
13	ローカリティの未来 1	新しいローカリティ形成の事例紹介
14	ローカリティの未来 2	重要論点の復習と質疑、グループディスカッション
	※別途定期試験を実施	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムを使った復習。授業の中盤に A4×1 枚程度のレポートを課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポートの出来が 40 %、論述式の期末試験が 60 %。試験解答において、現代社会のローカルな生活に対する自分の考えを、事実とデータに基づいて論理的に表明できることが A の条件。

【学生の意見等からの気づき】

コースの専門的科目なので受講には入門以上の知識が必要。2 年生以下の履修は合格率が低くなく、勧めない。最新事例をめぐるグループディスカッションの充実をめぐる。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント使用だがノートと筆記用具は必須。授業支援システムへのアクセスも必要。

【Outline and objectives】

This lecture aims to study regional society below globalization by sociological perspective.

国際政治論

白鳥 浩

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、国際政治の体系的理解

【到達目標】

「有権者」の国際政策の選択の基準として、理論のみならず事例の理解にも到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといつて良い。「グローバリズム」、「ボーダーレス」という時代のキーワードが示すように、国際政治の影響力は、我々の生活の上に大きな影響を及ぼしている。この国際政治の現実を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。学習支援システムで授業が開始されるのは 4 月 23 日である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際政治学とは何か？	導入
2	国際政治学の基礎概念	基礎概念
3	冷戦と現実主義	戦後政治の基本
4	デ・タントと相互依存論	戦後政治の変容
5	ガルトウングの平和学	構造的な視点
6	ローズノーのリンケージ・ポリティクス論	国際政治と国内政治
7	ロッカンの国家形成・国民形成論	国家と国民とは
8	ロッカンの「欧州概念地図」	マクロな分析枠組み
9	欧州統合の展開	国際統合の現実態
10	レジーム論	多様なレジーム
11	「帝国」論	帝国と国民国家
12	欧州統合と国民国家の変容	国民国家の変容
13	日本をとりまく国際政治	最近の事例から
14	国際政治論の展望	現在の国際政治論の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある国際感覚のあふれる「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の理解を深めるために読書レポートを準備してもらおう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『現代欧州統合の構造』 芦書房、2008 年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト 70%、レポート 20%、講義科目への積極度 10%を中心として総合的に評価する。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、教場試験が実現できない場合も想定される。学期末に最終的に教場での試験が行えない場合には、成績評価の方法と基準における試験をレポートで代替することを考える。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じて、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline and objectives】

This course aims to provide basic understandings of theoretical aspects of International Relations.

LAW200EB

国際法

妻木 伸之

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、国際社会を規律する法である国際法の概要について学び、現代国際社会における諸課題解決の手がかりを得ます。

【到達目標】

国際法学の基本的な枠組について理解できること。加えて、可能であれば、現代国際社会の諸課題について国際法に基づき検討できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は「講義形式」で実施します。また、疑問点や不明な点がある場合は、積極的に質問するようにしてください。
なお、授業計画は展開によって、若干の変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 1：「国際法」の歴史の展開	国際法の歴史を通じ、現代国際法の特徴とその課題を学ぶ。
2	導入 2：国際社会における立法・司法・執行	国内社会・国内法との比較を通じ、国際社会・国際法の特徴について学ぶ
3	国際法の「法源」—国際法の存在形式	国際法がどのような形で存在するかについて学ぶ。
4	国際法の「主体」—国家・国際組織・その他	国際法をつくり、国際法により規律されるのは誰かについて学ぶ。
5	「主権」と国家の基本的権利・義務	国際法の基本概念である「主権」を持つものとしての国家について学ぶ。
6	陸・海・空に関する国際法	国際法における領域（主に海洋）の取扱いについて学ぶ。
7	個人と国際法—国際刑事法・国際人権法	「国際犯罪」への国際法の対応および国際人権法の展開について学ぶ。
8	国際人権法の実現—国内実現と国際実現	国内平面と国際平面における国際人権法の実現について学ぶ。
9	武力不行使原則の確立と平和的紛争処理手続	戦争の違法化と武力を用いないで紛争を処理する手段について学ぶ。
10	集団安全保障：その限界と克服の努力	武力行使抑止のための枠組としての集団安全保障の展開について学ぶ。
11	自衛権／武力紛争法	武力不行使原則の例外および武力紛争における行為の規制について学ぶ。
12	ブレトンウッズ体制／GATT・WTO 体制	第 2 次大戦後、西側先進国が構築した経済秩序について学ぶ。
13	南北問題と「新国際経済秩序」	途上国を中心とする「南側」からの変革運動について学ぶ。
14	まとめ	全体のまとめ（＋補足説明）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記の参考書などで、各自、復習することを望みます（少なくともレジュメの見直しは必須）。また、参考書の関連部分に目を通すなどの準備が有用です。なお、本授業の準備学習・復習時間は各回 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（レジュメ等を毎回の講義時に配布する。

なお、配布物については、授業支援システムにもファイルをアップロードする。）

【参考書】

例として、横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣、2010 年）、玉田大ほか『国際法』（有斐閣（ストゥディアシリーズ）、2017 年）、柳原正治ほか編『ブラクティス国際法講義（第 3 版）』（信山社、2017 年）、渡部茂己ほか編『国際法（第 2 版）』（弘文堂、2014 年）など。また、森川幸一ほか編『国際法で世界が分かる』（岩波書店、2016 年）は時事問題を扱っており興味深い。

【成績評価の方法と基準】

試験期間に実施する試験 100 %。なお、試験のみで評価しますので、卒業を控えている者は、その旨、十分留意すること（追加の救済措置は一切行わない）。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語の説明を丁寧に行う。

【Outline and objectives】

This course introduces the public international law.

The goals of this course is following,

- (1) to obtain the basic knowledge of the international law,
- (2) as possible, to be able to appraise global issues from the legal perspective.

社会教育概論Ⅰ／生涯学習論Ⅰ

荒井 容子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

成人の学習とそれを支える社会教育実践に関わるさまざまな事例や考え方について、受講生同士の集団討議という、すぐれた社会教育実践における学習方法の一端を実体験しながら、人々の学習とそれを支える社会教育実践についての理解を深めていく。

【到達目標】

人々の学習・学習運動とそれを支える社会教育実践の実践について知り、そのあり方について深く考える力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

多様な実践事例、学習・実践に関する批判的理論、また社会教育職員という実践者からの見方などを紹介する。各自に何らかの社会教育事業に参加してもらい、講義最終日に、簡単な報告レポートをもって報告してもらう。なお講義内容について適宜、バズ・セッション（受講者同士の小グループ討議と討議結果の全体での共有）を行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。授業開始日は4月22日で、実施方法はすでに学習支援システムの「お知らせ」等で提示済みである。またそれにともなう各回の授業計画の変更もその都度、学習支援システムに提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1ラウンド 社会教育のイメージ	「社会教育のイメージ」について－バズ・セッションと概念説明－
2	第1ラウンド 社会教育のイメージ	日本の社会教育活動事例の紹介
3	第1ラウンド 社会教育のイメージ	社会教育のイメージについてのバズ・セッション
4	第2ラウンド 「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどういうことか 1
5	第2ラウンド 「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどういうことか 2
6	第3ラウンド 成人識字教育の実践と理論に学ぶ	成人の識字・非識字について 貧困と識字
7	第3ラウンド 成人識字教育の実践と理論に学ぶ	パウロ・フレイレの識字教育実践と理論 貧困・支配の中での学習の課題と方法
8	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	生活記録運動とその後の「書く」学習の展開
9	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	公害と戦う学習運動の歴史 1
10	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	公害と戦う学習運動の歴史 2
11	第5ラウンド 社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例 1
12	第5ラウンド 社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例 2
13	第6ラウンド 現代の社会教育実践・社会教育運動	現代社会教育政策・成人教育政策の矛盾（生涯学習論の矛盾・学習権宣言ほか）
14	第6ラウンド 現代の社会教育実践・社会教育運動	社会教育事業参加 報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の初期に提示する課題2に関する指示に従って、講義期間中、各自早めに、興味のもてる内容の社会教育事業を探し出し、参加しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】

社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所（第7版）2005年、（第8版）2011年、（第9版）2017年。

【成績評価の方法と基準】

社会教育事業参加レポート（課題2）の提出、報告会に参加しての報告、最終レポート（課題1）の提出の三つは単位習得の必須条件となる。評価は上記三つのうち前二者で20%、後一者で80%とする。他に講義中に行うグループ討議前後等の感想文は最終レポートの課題と関わる可能性が高いので、積極的に取り組んでおくことを推奨する。

【学生の意見等からの気づき】

「感想・意見メモ」は熟考する機会として配布していること、次週までは提出することを認めていること、この授業では評価の対象にしていないことをさらに周知する必要。また、返却方法への不満に対応するには物理的に無理があることを伝えた上で、学生たちに返却の必要の有無を尋ねておく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」を通じて講義に関する指示を出すこともあるので、「お知らせ」のeメールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to gain understanding of people's learning and social education that support it. Students will discuss about each cases and ideas in "buzz sessions" (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

社会教育概論Ⅱ／生涯学習論Ⅱ

荒井 容子

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育・成人教育の歴史を、人々の学習運動と公権力による社会教育政策（法制度及び教育活動）の推進という二つの方向からとらえ、その関係について、史実をもとに考えていく。

【到達目標】

人々の学習運動と公権力による社会教育政策それぞれの展開と、「社会教育」をめぐる相互の展開についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本の社会教育史について講義したのち、他の国々の成人教育史について概観し、最後に、国際的な成人教育運動について紹介する。講義内容について適宜バズ・セッション（受講者同士の小グループ討議と討議結果の全体での共有）を行い、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育・成人教育の歴史の概要	社会教育・成人教育の歴史をどう把握するか
2	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 1
3	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 2 ビデオ鑑賞
4	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	「社会教育」制度化と民衆の自己教育運動の展開（労働学校運動、自由大学運動）
5	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	社会教育制度の完成と崩壊
6	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	戦後社会教育法制度の新たな建設と統制政策の復活・自己教育運動の再展開
7	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	社会教育「民主化」運動と多様な自己教育運動・社会教育運動の展開 －「学習権」「権利としての社会教育」と住民参加の展開
8	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	自治体社会教育行政の蛇行－行政「合理化」政策と「生涯学習」政策の登場
9	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	社会教育政策の後退・変質と社会教育を求める住民・職員の新たな運動
10	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	「生涯学習」政策の展開と法制度の変遷 1990 年代以降
11	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	英国、スカンジナビア諸国、北アメリカ、ラテンアメリカでの成人教育運動
12	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	軍事政権下のラテンアメリカでの民衆文化運動ビデオ鑑賞
13	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	成人教育運動の国際的ネットワークの展開
14	第4ラウンド 総括討論会	社会教育・成人教育の歴史から、その今後あり方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布・回収する「感想・意見メモ」は熟考する機会として活用してほしい。これは熟考し追記したのち次週に提出してもよい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】

藤田秀雄、大串隆吉編『日本社会教育史』エイデル研究所 1984 年 12 月。
千野陽一監修『現代日本の社会教育』エイデル研究所 2015 年 9 月。

【成績評価の方法と基準】

レポート（課題・期限は講義内で提示）を 85 %、講義内で配布・回収する「感想・意見メモ」は 15 % で評価する。レポートの課題は通常、講義を受講していなければ執筆できない内容になる。講義最終回でレポートをもとにバズセッションを行う。これは単位取得の必須条件となる。

【学生の意見等からの気づき】

提供する情報を厳選し、配布資料を少なくする必要。バズセッションを活かすために、討議課題を工夫する必要。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】

This course will review the history of social education in Japan and adult education in the other countries. Some cases of adult education movements and policies will be introduced. Students will discuss about them in “buzz sessions” (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

ART100EC

表象文化論 A

高橋 愛

サブタイトル：文化表象論

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は自らが生きる世界を多様なシステムを通じて表象し、その行為によって、たえず文化を創造、展開してきた。本授業の目的は、さまざまな文化事象の歴史的な文脈や時代の政治的・社会的背景を検討し、表象を成り立たせている諸要素や様態について考察することである。

【到達目標】

本授業では、言語テキスト、絵画、写真、映画、建築などのジャンルを横断しながら、個々の作品がいかなる歴史的・社会的文脈において制作され、いかなる装置によって表象されたのかを考え、文化事象を読み解く方法を提示する。それを手がかりとして、受講生は各自が関心を持つ対象にアプローチし、広い視野をもって、解析する。さらに、自ら適切に表現することもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 6 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
澤田肇、北山研二、南明日香共編『パリという首都風景の誕生——フランス大革命期から両大戦間まで』（上智大学出版、2014 年）をテキストとするので、用意すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容と方法の説明 表象を成立させるさまざまな要素や構造について
2	視覚に映る都市（1）	パリと変容する風景について——絵画的次元から写真的次元へ
3	視覚に映る都市（2）	ガラスのつくった近代の都市景観
4	視覚に映る都市（3）	遊歩者のパリ——カイユボットの眼差し
5	視覚に映る都市（4）	彫像狂のパリの景観形成と日本人作家たち
6	計画が作る都市（1）	地上の世界、地下の世界——十九世紀パリにおける「新鮮な空気」と「安全な水」
7	計画が作る都市（2）	そぞろ歩きの首都風景パリ——通り、公園をめぐって
8	計画が作る都市（3）	首都パリの霊性の場——パンテオンとサクレ＝クール
9	計画が作る都市（4）	空気と光を求めて——監獄改革と首都改造
10	文学が表す都市（1）	バルザックのパリ——歴史・小説・神話
11	文学が表す都市（2）	ゾラとパリの創出
12	文学が表す都市（3）	日本人作家と墓地——これもまた、パリ
13	全 12 回の変更に合わせて実施しない	なし
14	全 12 回の変更に合わせて実施しない	なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

澤田肇、北山研二、南明日香共編『パリという首都風景の誕生——フランス大革命期から両大戦間まで』（上智大学出版、2014 年）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も随時アクチュアルなテーマを交えて授業を進めたい。

【Outline and objectives】

The main aims of this course are to help students understand the various cultural phenomena in Europe and deepen knowledge of cultural representation.

ART200EC

表象文化論 B

野田 吉郎

サブタイトル：芸術文化論

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「表象」の分析という観点から、日本戦後美術へのさまざまなアプローチを試みる。また、20 世紀後半から現代までの通史的な考察を行い、世界美術史における日本戦後美術、日本現代美術の特殊性について学ぶ。

【到達目標】

- 1) 日本の戦後美術に関する基礎知識を身につける。
- 2) 現代美術の作品を多角的に分析する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

レジュメとパワーポイントを用いて講義を行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスの解説と補足、導入
2	記憶	原爆の図
3	物質	静物としての身体
4	記録	ルポルタージュ絵画
5	アクション（その 1）	具体美術協会
6	アクション（その 2）	ハイレッド・センター
7	メディア	実験工房
8	環境	日本万国博覧会（大阪万博）
9	制度（その 1）	もの派
10	制度（その 2）	美術館
11	ジェンダー	アンチ・アクション
12	テキスト	詩と批評
13	歴史	類としての美術、悪い場所
14	まとめと期末試験	総論、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 美術館で展覧会を鑑賞し、レポートを作成する。
- 2) 授業で紹介された参考文献を読み、知識を広げる（本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点…… 20 %
レポート課題…… 30 %
期末試験…… 50 %

【学生の意見等からの気づき】

社会学部で開講する意義を確かめながら授業を進めていきたいと考える。

【その他の重要事項】

授業に関連して展覧会の鑑賞を求めることがある。その際の費用は自己負担となる。

【Outline and objectives】

This course introduces students to various approaches to postwar Japanese art.

メディアと人間 I ／比較文化論 I

坂上 香

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアとは何であるのか？ その成り立ちや変遷から、メディアと私たち（文化、社会、時代など）の関係性をひもといていきます。具体的には、ことば、写真、新聞、雑誌と広告、映画、ラジオ、テレビ、監視社会をメディア文化と捉えることによって、私たちを取り巻くコミュニケーションのありかたを考察します。「いまここ」を意識しつつ、時代や国を超えた事例を扱います。メディアと人間 I は現代社会を生き抜くためのメディア・リテラシーの基礎編で、後期の II は応用編という位置づけです。

【到達目標】

- ①メディアの多義的な意味と変遷を理解する。
- ②具体的なメディアの事例を通して、特定の時代や文化におけるメディアと人々の関係性を理解する。
- ③メディアと私たちの関係性を、多角的に考察することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業の開始は 4/21 です。新型コロナ感染拡大への対応として、当面の間、オンライン授業になる予定です。4/21 ～ 5/12 までは、履修生の wifi および PC 環境が把握できないため、教材は履修生にとって負担が少ないテキストデータ (pdf とワード) のみで対応します（リンクで資料を提示したりもしますが、ネット環境が厳しい人は、無理はしないでください）。教材は「授業支援システム」(Hoppii) に毎回掲載するので、各自でアクセスして自習してください。授業の進め方と方法についての変更については、授業支援システムで随時アップデートしていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/21	ガイダンスとイントロダクション	講義の概要と進め方 メディアとは？
4/28	メディアをクリティカルに捉え直す	メディア研究 メディアの捉え方
5/12	メディア文化としての書物	書物の大衆化
5/19	メディア文化としての写真	社会政策としての写真
5/26	メディア文化としての新聞	新聞の出現
6/2	メディア文化としての雑誌と広告	雑誌と広告の歴史と関係性
6/9	メディア文化としての映画	映画の誕生
6/16	メディア文化としてのラジオ	2つの映画「ラジオデイズ」と「ラジオの時間」におけるラジオの意味と変遷
6/23	メディア文化としてのテレビ（1）	テレビと家族
6/30	メディア文化としてのテレビ（2）	番組改ざん事件
7/7	ネットと SNS	分極化される世論
7/14	メディアに希望はあるか？	新しいメディアと新しい文化？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週の課題リーディング等が、「授業支援システム」(Hoppii) に毎回掲載されます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、毎回授業の資料を、授業日時までに「授業支援システム」(Hoppii) に掲載します。

【参考書】

佐藤卓己『現代メディア史』（岩波書店、2018 年）
ジョン・バージャー 伊藤俊治（訳）『イメージ 視覚とメディア』（PARCO 出版、2005 年）
*その他の参考書については講義内で適宜例示します。

【成績評価の方法と基準】

学期内に 3 回ほど、課題ワークシートを提出してもらう予定です。

課題ワークシート 1 30%

課題ワークシート 2 35%

課題ワークシート 3 35%

評価方法や基準については、変更の可能性があります。「授業支援システム」(Hoppii) のお知らせをご覧ください。

【学生の意見等からの気づき】

質問や意見がある場合は、個別にメールをください。授業の内容に関係することであれば、次回の授業に反映させるようにします。公言されたくない場合はメールでその旨お伝えください。

【学生が準備すべき機器他】

5/12 までは pdf やワードを中心に「学習支援システム」(Hoppii)に掲載するので、それらが使える環境。5/19 以降は、pdf、ワードに加えて、オンデマンド形式のオンライン授業を何度か行いたいと考えているので、アクセスできる環境。ただし、オンデマンドにアクセスが難しい学生が多い場合は、再検討します。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス拡大への対応として、しばらくの間、オンライン授業になる予定です。変更については「授業支援システム」(Hoppii)で随時アップデートしていく予定です。

【Outline and objectives】

This is a basic course on Media Studies.Students who wish to take Media and Human II are recommended to take this.

メディアと人間Ⅱ／比較文化論Ⅱ

坂上 香

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TV、映画、マンガ、アニメ、音楽、ゲーム、ネット動画等、私たちの身近にあるポピュラーカルチャーは、文化や社会制度と密接な関係を持っています。本講義では、そうした関係性を、いくつかのテーマに絞って、主にメディア表象を通して読み解きます。それらはまた、どのような言説を生み、どのような形で個人の思考や社会、世界に反映されているのでしょうか？ 人道的なメディアの実現は、果たして可能でしょうか？ フェイクニュースや表現の自由が指摘される現代において、メディアに飲み込まれてしまわない姿勢と視点を養います。前期に「メディアと人間Ⅰ」の履修を薦めます。

【到達目標】

- ①メディア・リテラシーとは何であるかを理解する。
- ②メディアを鵜呑みにせず、クリティカルに眼差すことができるよう、イメージを読み解くためのスキルを身につける。
- ③イメージやその影響は、社会や時代のありかた、新しいメディアの出現（新たな作り手とオーディエンス）によっても変化することを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で、映像とパワーポイントを使います。学期中、ペアや小グループになって話をする時間も作ります。なお、授業内容は、進度た展開に応じて、多少変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとイントロダクション	講義の概要と進め方
2	メディアを読み解く	メディア・リテラシーと表象分析のアプローチ
3	メディアとジェンダー（1）	女性の描かれ方とその影響
4	メディアとジェンダー（2）	男性の描かれ方とその影響
5	メディアとジェンダー（3）	セクシュアルマイノリティの描かれ方とその影響
6	メディアと民族的マイノリティ	移民・難民とヘイト
7	メディアと子ども	日米のエンタメ映画における虐待とDV
8	中間試験	*ワークシート持参のこと
9	メディアと加害者	編集と加害者の印象
10	メディアと被害者	報道における被害者と「公認されない被害者」
11	メディアと死刑（1）	映画「デッドマン・ウォーキング」と米国の死刑
12	メディアと死刑（2）	マンガと日本の死刑
13	メディアと警察	ドラマ Cops と警察 24 時をめぐって
14	人道的なメディアは可能か？	ミニディスカッション「もうひとつの表現」をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

パワーポイントのスライドや資料は、授業支援システムに事前に掲載します。中間と期末試験の前には、講義の復習や多少の独自調査が要求される「ワークシート」を課題として出します。試験当日は、そのワークシートを参考に記述してもらうので準備をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、毎回スライド資料を準備し、事前に授業支援システムに掲載します。

【参考書】

鈴木みどり編『Study Guide メディア・リテラシー入門編』（リベラ出版、2013 年）
 デイビッド・T・ジョンソン 笹倉香奈（訳）『アメリカ人のみた日本の死刑（岩波新書）』（岩波書店、2019 年）
 *その他の参考書については講義内で適宜例示します。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40%）*事前に配布されるワークシートの持ち込み可
 期末試験（40%）*事前に配布されるワークシートの持ち込み可
 平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーは義務付けません。伝えたいこと、聞きたいことがある場合のみ、提出してください。提出されたコメントや質問は、次の授業の始めに紹介したり、授業に反映させたりするよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントのスライドや資料などを授業支援システムに事前に掲載します。各自、印刷して、持参してください。

【その他の重要事項】

講義の進め方や評価、課題などの説明は初回の授業でカバーします。必ず出席してください。

【Outline and objectives】

This is an advanced Media Studies course. Students are expected to take I level before taking this course.

SOC200ED

マス・コミュニケーション論

藤田 真文

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初回授業は 4 月 23 日（木）1 限から学習支援システムで教材の配布を開始します。

マス・コミュニケーション（＝マス・メディア（新聞・放送など）を通じた大量の情報伝達）を扱った理論で、これまでどのようなことが問題とされてきたか、時代を追ってたどります。デジタル化による近年の変化も視野に入れながら考えていきます。

【到達目標】

マス・コミュニケーション理論を単に学説史として把握するのではなく、当時のメディア状況の中に位置づけて理解し、さらには現代のメディア現象をとらえる視座を得ることができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。授業後にみなさんに理論の意味を考えてもらう課題を出します。毎回授業支援システムを通じて課題を提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	メディア史概説	マス・メディアの発達史を概説する。
第 2 回	弾丸効果モデル	大衆動員などマス・メディアの効果の強調について
第 3 回	メディアイベント論	イベントによる大衆動員などマス・メディアの効果の強調について
第 4 回	限定効果モデル	マス・メディアの効果への懐疑が問われるケースの解説
第 5 回	普及過程論①	情報の社会的浸透過程の考察
第 6 回	普及過程論②	広告効果論など現代社会への応用の可能性について
第 7 回	デジタル時代への示唆①	インフルエンサーなどへの応用の可能性について
第 8 回	中範囲の理論	議題設定理論や世論の構築過程などの解説
第 9 回	強力効果論の捉えなおし	沈黙のらせんと第三者効果、培養理論の解説
第 10 回	社会的責任論	メディアの倫理的責任の議論の解説
第 11 回	デジタル時代への示唆②	社会的構築主義、言説分析への展開の可能性について
第 12 回	カルチュラル・スタ ディーズ①	利用満足研究とカルチュラル・スタ ディーズによる能動的受け手論
第 13 回	カルチュラル・スタ ディーズ②	物語論を基礎にした映画・ドラマなどの 分析手法について
第 14 回	デジタル時代への示唆③	リキッド・モダリティなど現代社会論 への展開の可能性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業後にみなさんに理論の意味を考えてもらう課題を出します。毎回授業支援システムを通じて課題を提出してください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。授業支援システムによって配布するプリントを中心に進めて行きます。

【参考書】

スタンリー・J・バラン、デニス・K・デイビス『マス・コミュニケーション理論（上・下）』新曜社、3600 円・3200 円

【成績評価の方法と基準】

①中間レポート＝ 30 % ②定期試験＝ 50 % ③毎回の課題＝ 20 %

【学生の意見等からの気づき】

学生から基礎的知識を問う評価にしてほしいとの要望がありました。定期試験も実施します。

【学生が準備すべき機器他】

授業プリントは、授業支援システムによって配布します。受講する学生は、2 回目の授業までには必ずこの科目の「自己登録」を完了しておいてください。

【その他の重要事項】

一般社団法人日本民間放送連盟・研究所における実務経験があり、マス・コミュニケーション理論に関する講義に知見を活かしている。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of mass communication theories.

EDU200IA

保健体育科教育法 I

林 園子

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校教育の法的根拠、保健体育科教育の変遷を踏まえ、「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】

中等教育における保健体育科教育の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解し、将来の体育教師として勤めるための知識や能力、態度を身につける。また、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした体育の授業づくりの基礎知識について学び、体育 (分野) 学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに生涯スポーツの推進などに貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

中学校・高等学校における保健体育科教育の目的・目標、役割を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。講義内容としては、学校教育の法的関係、保健体育科教育の変遷より「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。学習支援システムにおける授業開始は 4/23 とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	体育科教育の必要性	体育科教育とはなにか
2	体育科教育の概念	教育課程における位置づけ
3	保健体育教師の心得	姿勢・態度、服装、生徒との関わり方
4	学習指導要領 変遷 (1)	法的根拠 (憲法・教育基本法・学校教育法・施行規則等)
5	学習指導要領 変遷 (2)	戦前から現在の体育の捉え方
6	学習指導要領 要点 (1)	教科及び科目の目標 (中学校・高等学校)
7	学習指導要領 要点 (2)	領域及び内容の取扱い 授業時数
8	授業づくり①	学習形態の考え方と 具体的な展開方法 (人的条件・物的条件)
9	授業づくり②	学習過程の効果的な進め方 (運動の特性に触れる)
10	授業づくり③	学習環境の具体的な工夫 (ICT・学習カード・視聴覚教材等の活用方法を含む)
11	授業づくり④	学習評価のねらい、方法、観点
12	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
13	学習指導案作成 (1)	単元目標・単元時間計画/ 単元における評価規準の設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案/ 学習活動における評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
- ・学習指導要領の各領域について熟読すること
- ・以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・中学校学習指導要領解説（平成 29 年告示） 保健体育編（東山書房）
- ・高等学校学習指導要領解説（平成 30 年告示） 保健体育編 体育編（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書 『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】

- ・保健体育科教育法（大修館書店）
- ・新版体育科教育学入門（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

- ・試験 40%
- ・小レポート・小テスト 40%
- ・学習指導案 10%
- ・授業で求める発言・発表 10%

【学生の意見等からの気づき】

- ・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を精一杯参加すること

【その他の重要事項】

- ・授業の展開によっては、若干の変更があり得る

【Outline and objectives】

These lectures will make you understand,purpose,target,learning contents,educational guidance and learning evaluation of Health and Physical Education.To acquire the knowledge,the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

EDU200IA

保健体育科教育法 I

林 園子

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校教育の法的根拠、保健体育科教育の変遷を踏まえ、「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】

中等教育における保健体育科教育の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解し、将来の体育教師として勤めるための知識や能力、態度を身につける。また、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした体育の授業づくりの基礎知識について学び、体育 (分野) 学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに生涯スポーツの推進などに貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

中学校・高等学校における保健体育科教育の目的・目標、役割を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。講義内容としては、学校教育の法的関係、保健体育科教育の変遷より「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。学習支援システムにおける授業開始は 4/23 とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	体育科教育の必要性	体育科教育とはなにか
2	体育科教育の概念	教育課程における位置づけ
3	保健体育教師の心得	姿勢・態度、服装、生徒との関わり方
4	学習指導要領 変遷 (1)	法的根拠 (憲法・教育基本法・学校教育法・施行規則等)
5	学習指導要領 変遷 (2)	戦前から現在の体育の捉え方
6	学習指導要領 要点 (1)	教科及び科目の目標 (中学校・高等学校)
7	学習指導要領 要点 (2)	領域及び内容の取扱い 授業時数
8	授業づくり①	学習形態の考え方と 具体的な展開方法 (人的条件・物的条件)
9	授業づくり②	学習過程の効果的な進め方 (運動の特性に触れる)
10	授業づくり③	学習環境の具体的な工夫 (ICT・学習カード・視聴覚教材等の活用方法を含む)
11	授業づくり④	学習評価のねらい、方法、観点
12	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
13	学習指導案作成 (1)	単元目標・単元時間計画/ 単元における評価規準の設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案/ 学習活動における評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
- ・学習指導要領の各領域について熟読すること
- ・以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・中学校学習指導要領解説 (平成 29 年告示) 保健体育編 (東山書房)
- ・高等学校学習指導要領解説 (平成 30 年告示) 保健体育編 体育編 (東山書房)
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』(学研)
- ・高等学校検定教科書 『最新高等保健体育』(大修館書店)

【参考書】

- ・保健体育科教育法 (大修館書店)
- ・新版体育科教育学入門 (大修館書店)

【成績評価の方法と基準】

- ・試験 40%
- ・小レポート・小テスト 40%
- ・学習指導案 10%
- ・授業で求める発言・発表 10%

【学生の意見等からの気づき】

- ・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を精一杯参加すること

【その他の重要事項】

- ・授業の展開によっては、若干の変更があり得る

【Outline and objectives】

These lectures will make you understand,purpose,target,learning contents,educational guidance and learning evaluation of Health and Physical Education.To acquire the knowledge,the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

EDU200IA

保健体育科教育法Ⅱ

林 園子

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の示す中学校及び高等学校の「保健」の目標・内容・評価等について講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】

中等教育における保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解し、授業論・指導論を中心とした授業研究及び分析、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした保健の授業づくりの基礎的知識について学び、学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに個人・社会生活における健康・安全に貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「保健」における教授法や指導論などに関する概論を学び、各単元の授業づくりのためのポイントについて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	保健科教育の概念及び必要性	保健科教育とはなにか
2	学校における保健教育	教育課程における位置づけ・歴史
3	学習指導要領 要点 (1)	中学校 (保健分野) 目標
4	学習指導要領 要点 (2)	高等学校 (科目保健) の目標 ヘルスプロモーションの意義
5	単元内容 (1)	中学校 (4 単元) における 主なねらい・留意点
6	単元内容 (2)	高等学校 (4 単元) における 主なねらい・留意点
7	授業づくり①	学習形態 (効果的な展開方法)
8	授業づくり②	学習過程 (種類と利点・欠点)
9	授業づくり③	学習環境 (実習・実験などを効果的に行うための ICT 活用方法)
10	授業づくり④	学習評価 (テスト作成方法/発問方法)
11	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
12	保健科学習指導の課題	現状と問題点、役割、特質
13	学習指導案作成 (1)	単元目標と単元における 評価規準の設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案と 学習活動における 評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
- ・中学校及び高等学校の保健の教科書を熟読しておくこと
- ・新聞やインターネットなどで、最近の病気、けが、事故や健康にまつわる新しい情報を収集すること
- ・以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・中学校学習指導要領解説 (平成 29 年告示) 保健体育編 (東山書房)
- ・高等学校学習指導要領解説 (平成 30 年告示) 保健体育編 体育編 (東山書房)
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』(学研)
- ・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』(大修館書店)

【参考書】

- ・保健科教育の基礎 (教育出版)

【成績評価の方法と基準】

- ・試験 35 %
- ・小レポート・小テスト 30 %
- ・学習指導案 25 %
- ・授業で求める発言・発表・態度 10%

【学生の意見等からの気づき】

- ・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を精一杯参加すること

【その他の重要事項】

- ・授業の進展状況によっては、講義内容の若干の変更があり得る

【Outline and objectives】

These lectures will make you understand, purpose, target, learning contents, educational guidance and learning evaluation of Health Education. In these lectures I talk about the basic knowledge of Health Education making use of ICT and teaching materials. To acquire the knowledge, the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

EDU200IA

保健体育科教育法Ⅱ

林 園子

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の示す中学校及び高等学校の「保健」の目標・内容・評価等について講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】

中等教育における保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解し、授業論・指導論を中心とした授業研究及び分析、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした保健の授業づくりの基礎的知識について学び、学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに個人・社会生活における健康・安全に貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「保健」における教授法や指導論などに関する概論を学び、各単元の授業づくりのためのポイントについて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	保健科教育の概念及び必要性	保健科教育とはなにか
2	学校における保健教育	教育課程における位置づけ・歴史
3	学習指導要領 要点 (1)	中学校 (保健分野) 目標
4	学習指導要領 要点 (2)	高等学校 (科目保健) の目標 ヘルスプロモーションの意義
5	単元内容 (1)	中学校 (4 単元) における 主なねらい・留意点
6	単元内容 (2)	高等学校 (4 単元) における 主なねらい・留意点
7	授業づくり①	学習形態 (効果的な展開方法)
8	授業づくり②	学習過程 (種類と利点・欠点)
9	授業づくり③	学習環境 (実習・実験などを効果的に行うための ICT 活用方法)
10	授業づくり④	学習評価 (テスト作成方法/発問方法)
11	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
12	保健科学習指導の課題	現状と問題点、役割、特質
13	学習指導案作成 (1)	単元目標と単元における 評価規準の設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案と 学習活動における 評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
- ・中学校及び高等学校の保健の教科書を熟読しておくこと
- ・新聞やインターネットなどで、最近の病気、けが、事故や健康にまつわる新しい情報を収集すること
- ・以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・中学校学習指導要領解説 (平成 29 年告示) 保健体育編 (東山書房)
- ・高等学校学習指導要領解説 (平成 30 年告示) 保健体育編 体育編 (東山書房)
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』(学研)
- ・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』(大修館書店)

【参考書】

- ・保健科教育の基礎 (教育出版)

【成績評価の方法と基準】

- ・試験 35 %
- ・小レポート・小テスト 30 %
- ・学習指導案 25 %
- ・授業で求める発言・発表・態度 10%

【学生の意見等からの気づき】

・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を精一杯参加すること

【その他の重要事項】

・授業の進展状況によっては、講義内容の若干の変更があり得る

【Outline and objectives】

These lectures will make you understand, purpose, target, learning contents, educational guidance and learning evaluation of Health Education. In these lectures I talk about the basic knowledge of Health Education making use of ICT and teaching materials. To acquire the knowledge, the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

EDU300IA

保健体育科教育法Ⅳ

林 園子

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校及び高等学校「保健」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価などを踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業の経験を通して教師の資質や能力、責任などを認識・理解する。

【到達目標】

保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解した上で、実際に「保健」における学習指導計画の作成及び授業展開を行うことで、教育的実践力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

中学校及び高等学校「保健」において、学習指導要領の示す目標・指導内容・評価などを踏まえて、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした保健の授業づくりの基礎知識など保健体育科教育法Ⅱで学んだ内容を発展・具体化して学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。その後、学生同士で互いに評価し振り返りを行い、教師としての資質・能力、責任などを認識・理解する。学習支援システムにおける授業開始は 4/23 とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の進め方 成績評価 各担当単元の班編成 学習指導案立案手順方法
2	学習指導案作成 (1)	単元目標・単元計画・単元における評価規準の設定方法
3	学習指導案作成 (2)	教材 (実習・実験を行うために必要な ICT 活用、グループワーク、討議法)、指導方法、指導形態の選定
4	模擬授業準備	黒板や教壇、教材を用いた模擬授業のシミュレーション及び学習指導案の修正
5	模擬授業及び省察①	健康の考え方、生活習慣病 (中学校 1 単元 高等学校 1 単元)
6	模擬授業及び省察②	飲酒・喫煙、薬物乱用 (中学校 1 単元 高等学校 1 単元)
7	模擬授業及び省察③	応急手当、心肺蘇生法 (中学校 3 単元 高等学校 2 単元)
8	模擬授業及び省察④	性への関心、性行動 (中学校 2 単元 高等学校 3 単元)
9	模擬授業及び省察⑤	妊娠・出産、結婚生活 (中学校 2 単元 高等学校 3 単元)
10	模擬授業及び省察⑥	労働、加齢 (高等学校 3 単元)
11	模擬授業及び省察⑦	大気汚染、水質汚濁・土壌汚染、空気・飲料水 (中学校 4 単元 高等学校 4 単元)
12	模擬授業及び省察⑧	ごみ処理・上下水道、食品安全、保健活動 (中学校 4 単元 高等学校 4 単元)
13	模擬授業振り返り	各模擬授業後に課した学生への授業評価記録や録画による分析・検討
14	まとめ	各班における模擬授業反省のプレゼンテーション、振り返りを踏まえた学習指導案の修正作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学校及び高等学校における学習指導要領及び教科書（保健部分）を熟読し、担当分野の資料を常日頃から収集しておくこと
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・中学校学習指導要領解説 保健体育編（東山書房）
- ・高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（東山書房）
- ・中学校教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】

- ・保健科教育の基礎（教育出版）

【成績評価の方法と基準】

- ・学習指導案(模擬授業前/振り返り後)40%
- ・模擬授業に対する意欲・態度及び教材の工夫 20%
- ・模擬授業者への授業評価(コメント)20%
- ・模擬授業反省のプレゼンテーション 10%
- ・毎回の授業を受けるにあたっての参加態度 10%

【学生の意見等からの気づき】

- ・模擬授業を行う場合、展開部分はどこがポイントになるのか明確にして進めること
- ・模擬授業を受ける学生は、毎回の授業者が行う授業より、参考になったこと(良かった点)、改善すべきこと(改善点)を具体的にを見つけながら参加すること

【その他の重要事項】

授業の進行状況によっては、内容の若干の変更があり得る

【Outline and objectives】

These lectures recognize and understand the qualities, abilities, and responsibilities of teachers through the preparation of instructional plans(Health Education) and the experience of mock classes,and bring up an educational practice attitude.

EDU400IA

教職実践演習

林 園子

配当年次／単位：4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来、中学校及び高等学校の保健体育教員になる上で、自己の課題を把握し、必要に応じて不足している知識、技能、教員の資質を補い、その定着を図ることに 4 年間の大学における教職課程履修の総仕上げを行う。

【到達目標】

「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」について以下に到達できるようにする。①教育における使命感や責任感、熱意・愛情について自分の課題を見出す②教員としての社会性や対人関係能力を身に付ける③生徒理解や学級経営等の問題点を挙げて解決方法を考える④専門教科領域における教材研究・教材作成及び指導力について知識を深める⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーション(人の前に立つこと)の技能向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

演習形式でおこなう。「到達目標」に記された内容を踏まえ、教育実習を通して考えさせられたこと・課題になったことを具体的な議題として挙げ、それらについて討議を行い様々な意見をもとに解決策をみつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・本講義の性格、課題、到達目標の確認 ・進め方、成績評価、出席、グループ分け
2	ディスカッション起案	「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」をめぐるテーマ設定を行う
3	ディスカッション準備	討議法・テーマに沿った具体的な議題の立案・役割を決める
4	ディスカッション模擬	グループ内で模擬討議を行い、円滑に進行できるように組み立てる
5	ディスカッション① (保健体育教員)	テーマ：「学校における保健体育科教員の役割」
6	ディスカッション② (教科-保健・体育-)	テーマ：「教科の指導力」
7	ディスカッション③ (安全管理)	テーマ：「生徒に対する責任」
8	ディスカッション④ (生徒理解)	テーマ：「生徒理解の重要性」
9	ディスカッション⑤ (学級経営)	テーマ：「学級崩壊・生徒の進路・学級担任の在り方」
10	ディスカッション⑥ (特別活動)	テーマ：「部活動顧問」
11	ディスカッション⑦ (社会適応力)	テーマ：「社会的態度の育成」
12	ディスカッション⑧ (職務内容)	テーマ：「生徒指導」
13	ディスカッション⑨ (対人関係能力)	テーマ：「生徒・保護者・地域住民・他の教員との関わり方」
14	まとめ	ディスカッションの振り返り、最終課題提出に向けての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・7 月の事前オリエンテーションへの参加必須
- ・この科目の一時限前は 3 年生の「教育実習(事前指導)」になっている
その場にも参加することがあるため、できる限り、教育実習(事前指導)及び教職実践演習を連続で参加できること
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

- ・中学校学習指導要領解説 保健体育編（東山書房）
- ・高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書 『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

- ・ディスカッション起案と内容等のグループワーク、役割の遂行 (40%)
- ・討論の参加及びリアクションペーパー作成 (30%)

・最終レポート (30%)

【学生の意見等からの気づき】

4年間の教職課程の講義、介護等体験、教育実習などを通して改めて将来教員になるうえで必要なこと、課題などを討論の中で、クラスの皆で考える場を提供していく

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用する

【Outline and objectives】

This information is those who want become Health and Physical Education teachers at Junior High School or High School in the future. These classes make up for a deficiency of knowledge, skill, caliber and capability of teachers. The teacher training course is completed at university in a 4 year course.

EDU400IA

教職実践演習

林 園子

配当年次／単位：4年次／2単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来、中学校及び高等学校の保健体育教員になる上で、自己の課題を把握し、必要に応じて不足している知識、技能、教員の資質を補い、その定着を図ることにより4年間の大学における教職課程履修の総仕上げを行う。

【到達目標】

「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」について以下に到達できるようにする。①教育における使命感や責任感、熱意・愛情について自分の課題を見出す②教員としての社会性や対人関係能力を身に付ける③生徒理解や学級経営等の問題点を挙げて解決方法を考える④専門教科領域における教材研究・教材作成及び指導力について知識を深める⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーション（人の前に立つこと）の技能向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

演習形式でおこなう。「到達目標」に記された内容を踏まえ、教育実習を通して考えさせられたこと・課題になったことを具体的な議題として挙げ、それらについて討議を行い様々な意見をもとに解決策をみつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・本講義の性格、課題、到達目標の確認 ・進め方、成績評価、出席、グループ分け
2	ディスカッション起案	「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」をめぐるテーマ設定を行う
3	ディスカッション準備	討議法・テーマに沿った具体的な議題の立案・役割を決める
4	ディスカッション模擬	グループ内で模擬討議を行い、円滑に進行できるように組み立てる
5	ディスカッション① (保健体育教員)	テーマ：「学校における保健体育科教員の役割」
6	ディスカッション② (教科-保健・体育-)	テーマ：「教科の指導力」
7	ディスカッション③ (安全管理)	テーマ：「生徒に対する責任」
8	ディスカッション④ (生徒理解)	テーマ：「生徒理解の重要性」
9	ディスカッション⑤ (学級経営)	テーマ：「学級崩壊・生徒の進路・学級担任の在り方」
10	ディスカッション⑥ (特別活動)	テーマ：「部活動顧問」
11	ディスカッション⑦ (社会適応力)	テーマ：「社会的態度の育成」
12	ディスカッション⑧ (職務内容)	テーマ：「生徒指導」
13	ディスカッション⑨ (対人関係能力)	テーマ：「生徒・保護者・地域住民・他の教員との関わり方」
14	まとめ	ディスカッションの振り返り、最終課題提出に向けての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・7月の事前オリエンテーションへの参加必須
・この科目の一時限前は3年生の「教育実習（事前指導）」になっている
その場にも参加することがあるため、できる限り、教育実習（事前指導）及び教職実践演習を連続で参加できること
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

・中学校学習指導要領解説 保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

・ディスカッション起案と内容等のグループワーク、役割の遂行（40%）
・討論の参加及びリアクションペーパー作成（30%）

・最終レポート (30%)

【学生の意見等からの気づき】

4年間の教職課程の講義、介護等体験、教育実習などを通して改めて将来教員になるうえで必要なこと、課題などを討論の中で、クラスの皆で考える場を提供していく

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用する

【Outline and objectives】

This information is those who want become Health and Physical Education teachers at Junior High School or High School in the future. These classes make up for a deficiency of knowledge, skill, caliber and capability of teachers. The teacher training course is completed at university in a 4 year course.

EDU300IA

教育実習（事前指導）

林 園子

配当年次／単位：3～4 年次／0 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

次年度の教育実習に向けて、教育実習の意義や重要性、教師である態度や責任などを認識・理解する。

【到達目標】

教材研究、学習指導案の作成、教壇実習（模擬授業）の実施により、実習に取り組む姿勢を自覚し、基本的な指導方法、指導技術を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

模擬授業の準備、実施、省察を中心に進める。また、教育実習を経験した4年生から教育実習の様子を伺い、自分の実習をイメージする機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明、グループ分け
2	模擬授業準備（指導案作成）	教材研究の進め方 学習指導案作成・用具確認（4年生とともに）
3	模擬授業準備（教壇指導練習）	学習指導案作成 教壇指導練習 （4年生とともに）
4	模擬授業① 体育（体づくり運動）及び省察	領域：体づくり運動の担当グループによる模擬授業及び講評
5	模擬授業② 体育（器械運動）及び省察	領域：器械運動の担当グループによる模擬授業及び講評
6	模擬授業③ 体育（陸上競技）及び省察	領域：陸上競技の担当グループによる模擬授業及び講評
7	模擬授業④ 体育（水泳）及び省察	領域：水泳の担当グループによる模擬授業及び講評
8	模擬授業⑤ 体育（球技）及び省察	領域：球技の担当グループによる模擬授業及び講評
9	模擬授業⑥ 体育（ダンス）及び省察	領域：ダンスの担当グループによる模擬授業及び講評
10	模擬授業⑦ 保健（食事、運動・休養）	保健（主に日常生活の在り方） 担当者による模擬授業及び講評
11	模擬授業⑧ 保健（喫煙、飲酒、薬物乱用）	保健（主に嗜好品） 担当者による模擬授業及び講評
12	模擬授業⑨ 保健（結婚、妊娠・出産、避妊法）	保健（主に性教育） 担当者による模擬授業及び講評
13	模擬授業⑩ 保健（大気汚染、水質汚濁・土壌汚染、環境への取り組み）	保健（主に環境） 担当者による模擬授業及び講評
14	模擬授業のまとめ	模擬授業の振り返りと教育実習に向けての取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習指導案の作成
模擬授業のための準備作業
模擬授業後の評価シート作成
模擬授業後の学習指導案修正作業
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

・中学校学習指導要領解説 保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書 『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

・学習指導案作成（模擬授業前＋模擬授業後）(30%)
・模擬授業 （40%）
・他学生の模擬授業のリアクションペーパー作成（20%）

- ・ 4 年生からの指導・アドバイスに対する姿勢・態度 (10%)
- ・ 7 月のオリエンテーションにて、模擬授業の担当分野 (体育・保健) を決めるため参加必須 遅刻・無断欠席は厳禁とする
- ・ 教育実習事前指導は、○ × の評価となる (× の評価を受けると、次年度の実習が行えない)

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業において保健体育科教員として人の前に立つことを体験することで、より体育教師として必要な知識・能力・態度を実感できるような場づくりを提供する

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用します

【Outline and objectives】

These classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course.

EDU300IA

教育実習（事前指導）

林 園子

配当年次／単位：3～4 年次／0 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

次年度の教育実習に向けて、教育実習の意義や重要性、教師である態度や責任などを認識・理解する。

【到達目標】

教材研究、学習指導案の作成、教壇実習（模擬授業）の実施により、実習に取り組む姿勢を自覚し、基本的な指導方法、指導技術を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

模擬授業の準備、実施、省察を中心に進める。また、教育実習を経験した 4 年生から教育実習の様子を伺い、自分の実習をイメージする機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明、グループ分け
2	模擬授業準備（指導案作成）	教材研究の進め方 学習指導案作成・用具確認（4 年生とともに）
3	模擬授業準備（教壇指導練習）	学習指導案作成 教壇指導練習 （4 年生とともに）
4	模擬授業① 体育（体づくり運動）及び省察	領域：体づくり運動の担当グループによる模擬授業及び講評
5	模擬授業② 体育（器械運動）及び省察	領域：器械運動の担当グループによる模擬授業及び講評
6	模擬授業③ 体育（陸上競技）及び省察	領域：陸上競技の担当グループによる模擬授業及び講評
7	模擬授業④ 体育（水泳）及び省察	領域：水泳の担当グループによる模擬授業及び講評
8	模擬授業⑤ 体育（球技）及び省察	領域：球技の担当グループによる模擬授業及び講評
9	模擬授業⑥ 体育（ダンス）及び省察	領域：ダンスの担当グループによる模擬授業及び講評
10	模擬授業⑦ 保健（食事、運動・休養）	保健（主に日常生活の在り方） 担当者による模擬授業及び講評
11	模擬授業⑧ 保健（喫煙、飲酒、薬物乱用）	保健（主に嗜好品） 担当者による模擬授業及び講評
12	模擬授業⑨ 保健（結婚、妊娠・出産、避妊法）	保健（主に性教育） 担当者による模擬授業及び講評
13	模擬授業⑩ 保健（大気汚染、水質汚濁・土壌汚染、環境への取り組み）	保健（主に環境） 担当者による模擬授業及び講評
14	模擬授業のまとめ	模擬授業の振り返りと教育実習に向けての取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習指導案の作成
模擬授業のための準備作業
模擬授業後の評価シート作成
模擬授業後の学習指導案修正作業
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

- ・ 中学校学習指導要領解説 保健体育編（東山書房）
- ・ 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（東山書房）
- ・ 中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・ 高等学校検定教科書 『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

- ・ 学習指導案作成（模擬授業前＋模擬授業後）(30%)
- ・ 模擬授業 （40%）
- ・ 他学生の模擬授業のリアクションペーパー作成（20%）

- ・4年生からの指導・アドバイスに対する姿勢・態度 (10%)
- ・7月のオリエンテーションにて、模擬授業の担当分野 (体育・保健) を決めるため参加必須 遅刻・無断欠席は厳禁とする
- ・教育実習事前指導は、○×の評価となる (×の評価を受けると、次年度の実習が行えない)

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業において保健体育科教員として人の前に立つことを体験することで、より体育教師として必要な知識・能力・態度を実感できるような場づくりを提供する

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用します

【Outline and objectives】

These classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course.

EDU400IA

教育実習 (高)

林 園子

配当年次／単位：4 年次／3 単位

開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

3 年次秋学期に行われる「事前指導」において、模擬授業を中心に教職課程に関する知識と教壇指導の実践力の基礎を身に付ける。4 年次春学期 (または秋学期) に教育実習に行き、教育現場を学び、秋学期に行われる「事後指導」において、教育実習を振り返り、将来教育現場で働くために必要な資質・能力を養う。

【到達目標】

教育現場における教師の多様な教育実践・実務 (教師の仕事) を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性 (生徒) と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。

- ①教育実習に向けての事前指導 (現職教師の特別講義を含む)
- ②高等学校における現場実習
- ③実習後の反省と総括 (次年度実習予定者への助言も含む)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導 (3 年次)	模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象に現職教員より、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を受ける。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習 (2～4 週間)	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業 (教育実習総仕上げの授業実践) ・研究授業の反省会 (研究授業後、教科の先生方からの講評・指導)
実習後	事後指導	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える 3 年生へのアドバイス ③実際に行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

担当する単元内容の学習指導案作成

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします

【テキスト (教科書)】

各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】

必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】

- ・3 年次事前指導評価 (20%)
- ・実習校の指導教員による採点 (50%)
- ・事後指導 (事前指導を受ける 3 年生への指導・サポート)(20%)
- ・実習日誌、実習後にまとめる実習レポート (10%)

【学生の意見等からの気づき】

事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するよう導く。

【その他の重要事項】

定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断遅刻・無断欠席をしないこと。特に4年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。

【Outline and objectives】

First,these classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course. Next,students go trial teaching at different schools and gain experience in the field of education. Finally,students evaluate their trial teaching experience and put it to use to improve their practical skills to work in the field of education from now on.

EDU400IA

教育実習（中・高）

林 園子

配当年次／単位：4 年次／5 単位

開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 年次秋学期に行われる「事前指導」において、模擬授業を中心に教職課程に関する知識と教壇指導の実践力の基礎を身に付ける。4 年次春学期（または秋学期）に教育実習に行き、教育現場を学び、秋学期に行われる「事後指導」において、教育実習を振り返り、将来教育現場で働くために必要な資質・能力を養う。

【到達目標】

教育現場における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。

- ①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）
- ②高等学校における現場実習
- ③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導（3 年次）	模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象に現職教員より、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を受ける。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習（3～4 週間）	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業（教育実習総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、教科の先生方からの講評・指導）
実習後	事後指導	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える 3 年生へのアドバイス ③実際に行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する単元内容の学習指導案作成

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】

必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】

- ・3 年次事前指導評価 (20%)
- ・実習校の指導教員による採点 (50%)
- ・事後指導（事前指導を受ける 3 年生への指導・サポート）(20%)
- ・実習日誌、実習後にまとめる実習レポート (10%)

【学生の意見等からの気づき】

事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するように導く。

【その他の重要事項】

定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断遅刻・無断欠席をしないこと。特に4年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。

【Outline and objectives】

First, these classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course. Next, students go trial teaching at different schools and gain experience in the field of education. Finally, students evaluate their trial teaching experience and put it to use to improve their practical skills to work in the field of education from now on.

